

平成30年度及び第2期中期計画

# 業務実績報告書

令和元年6月

公立大学法人奈良県立医科大学



公立大学法人奈良県立医科大学 平成30年度計画の実施状況

【年度計画の法人自己評価】

S: 年度計画を上回って実施している(100%超)  
 A: 年度計画を十分実施している(90%~100%)  
 B: 年度計画を十分には実施していない(60%~90%)  
 C: 年度計画を大幅に下回っている。又は、年度計画を実施していない(~60%)

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																																								
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																							
I 地域貢献<教育関連>																																																										
1 医療人の育成(医師関連) 医師派遣システムの適切な実行((仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営)																																																										
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営する</li> <li>・医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指す</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。</p> <p>&lt;取組内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の公立・公的病院等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえて医師のマッチングを行う(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営</li> <li>・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援</li> <li>・「奈良学」の開設等を通じた、奈良を愛し奈良に貢献する医療人の育成</li> </ul>	<p>(1)・医局、関連病院及び県と連携・調整して情報交換及び関連病院に対する医師派遣システムの運用説明などを実施することにより、医師配置の一元的な運営体制をさらに整備するとともに、円滑な実施を行う。</p> <p>・医師配置の透明性・客観性の確保のために、奈良県医師配置評価委員会にて医師配置の適正性に関する評価を受け、その見解を適切な医師配置に反映させる。</p>	<p>○医師配置運営体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医局と病院の間で新たな派遣や増員を検討した場合も必ず医師派遣センターへ報告するよう医局・病院へ依頼した。</li> <li>・3病院から10診療科、延べ22名の派遣要請を受け、10回の医局訪問と1病院への聞き取りを実施した。</li> <li>・2月に医師適正派遣調整会議において医師派遣要請の適否等について協議した結果、2病院6名の医師を派遣できた。</li> <li>・公立・公的病院16施設に関わる人事異動について、8月から各医局へ電話での聞き取りを隔月で開始した。また、各病院ホームページ等で人員増減や人事異動の把握を毎月行った。</li> </ul> <p>○派遣医師の把握・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣要請元病院の人事・総務担当者との面談を実施し、実績データ(稼働状況、患者数、医師数等)収集や医師派遣の現状等に関する意見交換を行い、病院それぞれの実態やニーズの把握を行った。</li> <li>・大和高田市立病院派遣中の医師2名に対し従事状況等の聞き取り調査を実施した。</li> </ul> <p>○医師配置の適正性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員会(6/18)において、南奈良医療センターへの配置は地域医療構想に則した配置となっているとの評価が得られた。また、会議では、限りある人材資源活用のための最適配置についての課題を見いだした。</li> <li>・病院・医局訪問では病院機能の将来像や医師派遣の方向性について確認や意見交換を実施した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置準備完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*</td> <td>指標</td> <td>H23 51名</td> <td>51名</td> <td>54名</td> <td>57名</td> <td>60名</td> <td>63名</td> <td>66名** (60%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>56名</td> <td>48名</td> <td>64名</td> <td>65名</td> <td>66名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td colspan="6">                     ●平成30年度新卒予定者119名、うち116名が医師国家試験を受験。合格者は107名だが、うち2名については進路が不明であるため、その2名を除いた105名のうち、46名が附属病院、23名が県内病院に就職しており、県内就職者数は69名となった。                      ※H30の県内就職率は61.9%(H30卒業の入学時定員113名に対する比率)                      ●上記合格者103名のうち、5名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた100名を本計画における合格者数とする。また、県内就職者数についても、上記69名のうち、4名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた65名が県内就職者数となる。                      ●県内卒後臨床研修就職者数の実績については、平成28年度までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考えられる。                      【既卒者で附属病院への就職者数】                      ・H30: 1名 ・H29: 4名 ・H28: 4名 ・H27: 2名 ・H26: 2名                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*緊急医師確保修学資金による増13名含む                  **研究医養成コース進学見込2名除く定員111名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数</p>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始			→	実績		H26年3月設置準備完了	運営			→	特記事項							医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)	実績		56名	48名	64名	65名	66名		特記事項		●平成30年度新卒予定者119名、うち116名が医師国家試験を受験。合格者は107名だが、うち2名については進路が不明であるため、その2名を除いた105名のうち、46名が附属病院、23名が県内病院に就職しており、県内就職者数は69名となった。 ※H30の県内就職率は61.9%(H30卒業の入学時定員113名に対する比率) ●上記合格者103名のうち、5名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた100名を本計画における合格者数とする。また、県内就職者数についても、上記69名のうち、4名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた65名が県内就職者数となる。 ●県内卒後臨床研修就職者数の実績については、平成28年度までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考えられる。 【既卒者で附属病院への就職者数】 ・H30: 1名 ・H29: 4名 ・H28: 4名 ・H27: 2名 ・H26: 2名								
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																			
(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始			→																																																			
	実績		H26年3月設置準備完了	運営			→																																																			
	特記事項																																																									
医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)																																																		
	実績		56名	48名	64名	65名	66名																																																			
	特記事項		●平成30年度新卒予定者119名、うち116名が医師国家試験を受験。合格者は107名だが、うち2名については進路が不明であるため、その2名を除いた105名のうち、46名が附属病院、23名が県内病院に就職しており、県内就職者数は69名となった。 ※H30の県内就職率は61.9%(H30卒業の入学時定員113名に対する比率) ●上記合格者103名のうち、5名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた100名を本計画における合格者数とする。また、県内就職者数についても、上記69名のうち、4名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた65名が県内就職者数となる。 ●県内卒後臨床研修就職者数の実績については、平成28年度までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考えられる。 【既卒者で附属病院への就職者数】 ・H30: 1名 ・H29: 4名 ・H28: 4名 ・H27: 2名 ・H26: 2名																																																							

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	2	(2)平成28年度及び平成29年度に実施した「奈良学」の授業評価を踏まえ、カリキュラムをブラッシュアップする。	<p>・「奈良県の医療に関するシンポジウム」について、昨年度の授業評価を踏まえ、学生の本シンポジウムへの主体性をより促すため、シンポジウムの実施時間を拡大し、発表するグループ数を増やすとともに、発表する学生と聴講している学生、病院見学の病院長、看護部長等のコメントータ間でより活発な意見交換を促すため1グループ当たりの発表時間を増やす等、「奈良学」のブラッシュアップを実施。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
	3	(3)県内の地域包括ケアシステムの確立に向け、県内全域で地域包括ケアを支える人材の育成の一環として、在宅医療学を臨床医学教育課程で開講する。	<p>・県内全域で地域包括ケアを支える人材の育成のため、臨床医学教育課程で授業科目として在宅医療学を開講し、第4学年の統合臨床講義において講義を実施。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
	4	(4)・将来を担う優秀な臨床研修医の確保・育成のため、国内外の優秀な指導医を招へいし、カンファレンス、ディスカッション等のプログラムを着実に実行する。 ・魅力ある卒後臨床研修を推進するため、プログラムの充実に向けた検討を行う。	<p>○国内・国外講師として、下記6名のいずれも著名な講師によるプログラムを実施し、臨床研修医の高い満足度を得た。 ・5/22-Marschall S. Runge (ミシガン大学 医学部長) ・7/13・14-平島修先生 (徳洲会奄美ブロック 総合診療研修センター長) ・11/14-Erik K. Alexander (ブリガムアンドウィメンズホスピタル 医学教育ディレクター) ・12/18-北和也先生 (やわらぎクリニック 副院長) ・2/18-Michael D. Fetters (ミシガン大学 日本家庭健康プログラムディレクター) ・2/28-上田剛士先生 (洛和会丸太町病院 救急・総合診療科部長)</p> <p>○タスクフォースによるDr. N Step-up Project Meetingを、7/31・10/24・11/27・2/5の4回実施し、プログラム内容のブラッシュアップや講師の人選等を行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																																																																	
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																
<p>医師派遣システムの適切な実行((仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営)</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)県費奨学生配置センターを設置・運営する</li> <li>・公立・公的病院等からの要望に対応した最適な医師配置(配置数)40名を目指す</li> <li>・地域に貢献する医師の育成数延べ86名を目指す</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>(仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県費奨学生の配置を行う(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営</li> <li>・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援(再掲: I-1)</li> <li>・県費奨学生のキャリアパスの構築と運用による地域に貢献する医師の育成</li> </ul>		<p>(1)・県内に従事する医療人を育成するために緊急医師確保枠、医師確保枠奨学生に対する交流会・臨床研修病院見学バスツアー・奨学生総会・全奨学生面談等を継続的に実施する。</p> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントを活用して先輩医師からのキャリアパスに関する情報が得られる機会を設定し、県費奨学生のキャリア形成を支援する。</li> <li>・離脱対策として新入生保護者説明会と奨学生総会を開催し、奨学生及び保護者への制度の主旨の理解の浸透を図る。</li> </ul>		<p>○奈良県内に従事する医療人育成のための情報提供活動の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機関誌Glocal(年3回、8月・12月・3月)を発行し、イベントの紹介や案内を行った。</li> <li>・県費奨学生配置センターの役割と活動を周知するためのリーフレットの更新をし保護者・学生等への配布を行なった。</li> <li>・緊急医師確保枠奨学生においては地域基盤型医療教育プログラムを必須単位化し、全奨学生(101名)の面談を実施した。</li> <li>・新入生保護者に向けて緊急医師確保枠制度の目的、意義等の説明会を入学式当日に開催し、義務履行の意識付けを図った(保護者全員参加:13家族)。</li> <li>・緊急医師確保枠奨学生総会を開催し、学生・保護者への制度主旨・キャリアパスを説明し理解の浸透を図った(11月、参加者37名:学生10名 保護者27名)。</li> </ul> <p>○県費奨学生のキャリア形成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志望診療科およびキャリア形成の意識調査を実施(初期研修2年目研修医17名)。</li> <li>・知事との直接面談(4/4)により、県費奨学生としての自覚と奈良県に貢献する医療人としての期待を伝えられ奨学生のモチベーションの維持・向上を図った(新入生13名、初期臨床研修奨学医師9名)。</li> <li>・新専門医制度を視野に入れた奨学生のキャリアパスや特定診療科等について検討して奨学生・保護者へ説明することで義務履行の意識づけ及び義務履行期間のキャリアパスへの不安の軽減を図るとともに、制度主旨の説明により離脱防止に取り組んだ。</li> <li>・緊急医師確保枠新入生ミーティング(4月:参加者13名)、県費奨学生6年生対象の説明会(7月:参加者12名(緊急10名医師確保2名))、研修病院見学バスツアー(7月、参加者11名(緊急10名医師確保1名))、見学施設:南奈良総合医療センター、市立奈良病院)、ランチミーティング(6月・10月・1月・2月、参加者計60名)を実施し、地域医療マインドの醸成とモチベーション維持を図った。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10月設置完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県費奨学金による医師配置数*</td> <td>指標</td> <td>H24 6名配置</td> <td>8名</td> <td>15名</td> <td>17名</td> <td>22名</td> <td>29名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>8名</td> <td>13名</td> <td>12名</td> <td>13名</td> <td>21名</td> <td>29名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">当該年度に決定した次年度配置決定数 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 6名(8名中) 6名(9名中)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">緊急医師確保枠を主とする医師の育成数</td> <td>指標</td> <td>H24 述べ13名</td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td>延べ86名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td>延べ89名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">奨学金の貸与を受けた者が必ず義務年限を予定どおりに果たすことが前提の指標設定であるが、本人の選択の自由を完全に否定することは困難であるため、法人の努力が必ずしも示されているとは言い難い指標となっている。実績値の増加については、県の制度改正によるところが大きい。法人の離脱者防止の取組の効果があつたと考える。</td> </tr> </tbody> </table> <p>*医師確保研修学研修資金の義務履行者を主とする医師配置数(※近畿大学医学部奈良病院含む)</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始			→	実績		10月設置完了	運営			→	特記事項							県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名	実績		8名	13名	12名	13名	21名	29名	特記事項	当該年度に決定した次年度配置決定数 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 6名(8名中) 6名(9名中)							緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ89名	特記事項	奨学金の貸与を受けた者が必ず義務年限を予定どおりに果たすことが前提の指標設定であるが、本人の選択の自由を完全に否定することは困難であるため、法人の努力が必ずしも示されているとは言い難い指標となっている。実績値の増加については、県の制度改正によるところが大きい。法人の離脱者防止の取組の効果があつたと考える。										
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																														
(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始			→																																																																														
	実績		10月設置完了	運営			→																																																																														
	特記事項																																																																																				
県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名																																																																													
	実績		8名	13名	12名	13名	21名	29名																																																																													
	特記事項	当該年度に決定した次年度配置決定数 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 6名(8名中) 6名(9名中)																																																																																			
緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名																																																																													
	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ89名																																																																													
	特記事項	奨学金の貸与を受けた者が必ず義務年限を予定どおりに果たすことが前提の指標設定であるが、本人の選択の自由を完全に否定することは困難であるため、法人の努力が必ずしも示されているとは言い難い指標となっている。実績値の増加については、県の制度改正によるところが大きい。法人の離脱者防止の取組の効果があつたと考える。																																																																																			

中期目標・中期計画		平成30年度計画							法人自己評価																												
									年度計画の実施状況及び評価理由	評価																											
<p>医療人の育成(看護師関連)</p> <p>〔中期目標〕 ・看護学科卒業生の県内就職率60%を目指す</p> <p>〔中期計画〕 (仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。</p> <p>〈取組内容〉 ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及び大学と附属病院の連携による看護学生の県内就職に向けた取組の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護学科卒業生の県内就職者数</td> <td>指標</td> <td>H23 33名</td> <td>33名</td> <td>38名</td> <td>45名</td> <td>50名</td> <td>52名</td> <td>54名* (51名**) (60%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>48名</td> <td>62名</td> <td>50名</td> <td>52名</td> <td>46名</td> <td>56名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人</td> </tr> </tbody> </table> <p>*H30卒業見込み90名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数 **H29より編入学試験(3年次)の廃止(H26決定)のため、H30年度卒業定員は85人となった</p>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	看護学科卒業生の県内就職者数	指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (51名**) (60%)	実績		48名	62名	50名	52名	46名	56名	特記事項	※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人							<p>6</p> <p>(1)新たに「社会人基礎力講座」を組み入れて、看護学科学学生への系統だったキャリアデザインプログラムを実施するとともに、引き続き、卒前学生への基本的看護技術トレーニング、実習指導者の教育能力育成プログラム、上級臨床指導者育成プログラムを実施する。また、実習指導者の教育能力育成について、上級臨床指導者がサポートしていく体制を構築していく。</p> <p>・新たに「社会人基礎力講座」を実施するとともに、4年生対象であった基本的看護技術トレーニングの対象学年を3年生に変更し、本学附属病院への就職促進のためのイベントを実施した。 ・実習指導者の教育能力育成プログラムについては、上級臨床指導者育成プログラム受講者が研修を企画・運営し、実習指導者と看護学科教員を対象に実施した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
看護学科卒業生の県内就職者数	指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (51名**) (60%)																													
	実績		48名	62名	50名	52名	46名	56名																													
	特記事項	※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人																																			
		<p>7</p> <p>(2)奈良県からの補助金を財源とした奨学金を受給する看護学科学学生を対象として、「在宅看護特別教育プログラム」を実施する。また、附属病院就業1年目の看護師については、附属病院、看護学科、訪問看護ステーションが連携して、同プログラムを実施する。</p> <p>・2期生2名が平成29年度中にプログラムを辞退し、3期生の応募はなかったため、平成30年度の看護学科学学生受講者はいない。 ・1期生の1名は、附属病院に就職し、病院で10ヶ月間、訪問看護ステーションで2ヶ月間のプログラムを受講した。 ・次年度に向け、自主財源により奨学金を継続するとともに、応募者数確保のため、短期プログラムの導入等の制度改革を決定した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																		

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																		
<p>2 看護師の地域貢献</p> <p>〔中期目標〕 ・認定看護師や専門看護師の総数を平成24年11月現在と比べ1.5倍を目指す</p> <p>〔中期計画〕 認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。</p> <p>〈取組内容〉 ・認定看護師養成研修への派遣、看護学研究科へのCNSコース設置等によるキャリア支援の充実 ・看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムの充実 ・病院看護部と大学看護学科、看護協会の相互の情報交換等の連携 ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及びスキルスラボの設置、地域へのオープン化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">認定看護師・専門看護師数</td> <td>指標</td> <td>H23 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>26名</td> <td>33名</td> <td>36名</td> <td>32名</td> <td>33名</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>CNS(Certified Nurse Specialist):看護系大学院の修士課程において所定の単位を取得し、公益社団法人日本看護協会に認定を受けた、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師。</p>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		26名	33名	36名	32名	33名	37名	特記事項								<p>8</p> <p>(1)・各分野の活動状況等を報告会で情報提供し、専門・認定看護師資格取得の意向を調査し、資格取得を勧める。</p> <p>・専門・認定看護師の資格取得志望者の発掘のため、資格取得者による未取得者への実地指導により動機付けを図る。</p>	<p>・日本看護協会の認定看護師制度の再構築情報等を報告会で提供する一方、資格取得の意向調査等を実施し、12名の志望者を発掘できた。</p> <p>・実地指導により動機付けを図り、計画的に資格取得に向けての準備を支援した。</p> <p>以上の取り組みから、認定看護師・専門看護師数の合計は37名となり、目標値を2名超えて達成した。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																													
	実績		26名	33名	36名	32名	33名	37名																													
	特記事項																																				
	<p>9</p> <p>(2)・平成31年度開講に向けて大学院修士課程高度実践看護師教育課程のクリティカルケア看護分野の学生募集及び選考を行うとともに、新たに同課程のがん看護分野の設置の準備を行う。</p> <p>・看護師特定行為研修「急性期コース」を引き続き実施するとともに、「在宅コース」を4月より開始する。</p> <p>・履修証明制度に基づく在宅看護カリキュラムの実施に向けての課題と体制を検討する。</p>	<p>・大学院修士課程 高度実践看護師教育課程のがん看護分野を担当する「成人慢性期看護学」領域の教授選考を実施し、2019年度4月から着任することを決定した。 なお、高度実践看護師教育課程クリティカルケア看護分野及び周麻酔期看護師教育課程の学生募集を9月に実施し、周麻酔期看護師教育課程については、3名の応募があり2名を選考した。(平成30年度入学生2名とあわせ4名が修学。)</p> <p>・看護師特定行為研修について、「急性期コース」を引き続き開講し、定員5名の応募に対し3名が受講し、全員修了した。また、「在宅コース」も計画通り開講し、定員5名の応募に対し8名が受講し、全員修了した。</p> <p>・履修証明制度に係る講師候補の絞り込み及び訪問看護ステーションとの業務内容の協議を実施し、カリキュラムの実施体制を検討した。</p> <p>以上のことから年度計画を上回って実施した。</p>	A																																		
	<p>10</p> <p>(3)・在宅看護特別教育プログラムを評価し、検討・修正を行う。また在宅看護のスキル向上のため、附属病院と訪問看護ステーション間の交流研修を引き続き行う。</p> <p>・認知症看護等の受講修了者の活動継続を支援する一方、地域の看護師への知識・技術の教育を行う。</p>	<p>・在宅看護特別教育プログラムトライアル及び1期生と面談(1~2ヶ月に1回)を行い、プログラムの研修期間を変更した。</p> <p>・「看護職連携会議」(3回/年開催)や5地区支部合同会議交流会(中和地区看護職連携構築事業)に参加し、地域の看護・介護のネットワーク強化を図った。</p> <p>・認知症看護について、地域の看護師への知識・技術の教育のため「認知症予防および認知症を持つ患者への対応力向上研修」(6月30日)を開催した。参加者43名(院外26名)。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																		

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	11 (4)附属病院看護部、看護学科、看護協会3者で作成した教育プログラムを評価するとともに、引き続き各々が実施する研修等に職員を相互参加させることで連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムの検討に十分な時間を確保するため、次期プログラムから検討予備日を設定することにした。</li> <li>・教育指導者育成プログラムを修了した指導者が、看護協会の臨地実習指導者講習会にアドバイザーとして参加することで教育プログラムの充実を図った。</li> <li>・看護協会の臨地実習指導者講習会受講修了者が看護学科の基礎看護技術演習に参加（6名）、教育指導者育成プログラムでは看護学科の各領域に看護部から参加（5名）することで、附属病院看護部、看護学科、看護協会3者の連携強化を図った。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
	12 (5)県看護協会等を通じ地域の医療施設勤務看護師へスキルスラボの利用について周知する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護部長から県看護協会へ利用の呼びかけを行った。</li> <li>・スキルスラボの利用案内文書及び利用促進PR用のリーフレットを作成するとともに、県看護協会に送付して、協会を訪れる会員に周知を依頼した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A



中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																																									
				年度計画の実施状況及び評価理由																																																									
				評価																																																									
I 地域貢献＜研究関連＞																																																													
3 研究成果等の地域への還元																																																													
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する</li> <li>(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する</li> <li>住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。</p> <p>＜取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営</li> <li>研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営</li> <li>漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営</li> <li>「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化</li> </ul>																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td>評価項目の検討</td> <td>外部有識者を含む評価委員会の運営</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンスの確立</td> <td>→</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 第4回MBTコロキウムの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table> <p>MBT(Medicine-Based Town): 医学を基礎とするまちづくり</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	外部有識者を含む評価委員会の運営	特記事項							住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施		→	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 第4回MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催	特記事項							13		<p>(1)重点研究推進計画に定めた地域貢献の取り組みを含む重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理のうえ、推進する。</p>		S	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																						
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→																																																						
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	外部有識者を含む評価委員会の運営																																																					
	特記事項																																																												
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施		→																																																						
	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 第4回MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催																																																					
	特記事項																																																												
				<p>・地域貢献を目的とした奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)について、研究推進戦略本部会議及び9/4と10/5の学内の成果報告会において研究成果の確認をした。</p> <p>・その他、超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)、良き医療人育成に関する研究、卒後医療人のキャリアパスに関する研究、血栓止血制御及びIVRといった本学が重点研究推進計画に定めた重点研究課題についても、研究推進戦略本部会議において、研究成果の分析をした。</p> <p>・血栓止血制御については、今年度より血栓止血研究センターを立ち上げ、運営委員会(5/28,6/26,7/26,8/7,2/5)で、今後の研究体制及び専任教員を決定した。その他、血栓止血先端医学講座、血友病教育講座(寄附講座)、血栓止血分子病態学講座(寄附講座)、血栓止血医薬生物学共同研究講座(共同研究講座)を設置した。</p> <p>・IVRについては、今年度よりIVR研究センターを立ち上げ、運営委員会(6/7,1/31)で今後の研究体制等を決定するとともに、動物用CTの設置及び技術補助員の配置をした。</p> <p>・地域への研究成果の還元のため、奈良県健康長寿大規模コホート研究については、2/16に県民公開講座「くらしと医学」で研究成果の発表をした。</p> <p>・地域企業等への研究成果の還元のひとつとして、疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を開発するため、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。</p> <p>・企業との共同研究は今年度57件締結した。</p> <p>・奈良先端科学技術大学院大学と相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高めるため、連携活性化委員会を設置し、今後の連携体制を決定した。11/20には両学の研究者が研究内容の発表を行い、お互いの理解促進を深めた。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にを行い、年度計画を上回って実施した。</p>																																																									

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	14 (2)研究に関する評価委員会を運営し、地域貢献の観点等を含む研究成果の見える化について外部有識者を交え議論する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学における研究面での地域貢献及び社会貢献のため、学外有識者を交えた研究評価委員会を11/1及び2/7に開催し、「研究成果の見える化」を目指し、大学としての研究力、特色ある分野、学内の共同研究グループの研究評価・分析をした。</li> <li>・ 研究者ごとの論文業績等研究データの蓄積のため、本学の助教以上の教員について、研究者情報データベースへの入力を完成した。</li> </ul> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にいった。</p>	A
	15 (3)教育・研究・診療を行うなど大和漢方医学薬学センターを運営する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究成果等への地域還元のため、教育については、東洋医学に関する講義を医学生に対し行う（4回11コマ）と共に、毎週月曜日に指導医による教育外来を実施し、今年度については、新たに臨床研究センターと共同で臨床医向けの漢方勉強会（12/3）を開催した。</li> <li>・ 研究については、漢方に関しての受託研究を企業と契約締結し研究を進めた（2件）。</li> <li>・ 地域医療者への研修・普及を目的として、医師・歯科医師・薬剤師向けの漢方に関するセミナー（①4/12, ②7/26, ③10/11, ④2/7）を計4回を実施するとともに、2/17については、実技編として漢方講義も行った。</li> <li>・ 奈良県が進める漢方のメッカ推進プロジェクト検討会にも参画した。</li> </ul> <p>以上のとおり、将来を担う医学生や研修医等への漢方の教育や勉強会並びに教育外来・セミナーによる地域医療者等への研修を行っており、特に今年度から、研修医向けに特化した勉強会も開始した。また、研究成果への還元のため企業等との研究も進み各課題への対応は着実に進んでおり、年度計画は十分に実施した。</p>	A

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	16 (4)コンソーシアム企業及び早稲田大学MBT研究所と連携してMBTに関する諸事業を実施する。	<p>・MBTコンソーシアム企業と連携協力し、6つの分野（①見守り支援、②ビックデータ活用、③スマートコミュニティ、④健康創造都市・健康創造産業、⑤MBT研究所産学連携、⑥産学官金フリーディスカッション）において、本学のシーズや企業ニーズの情報交換を行うと共に、MBTコンソーシアム会員企業8社と共同研究契約を締結し、MBT研究を推進した。</p> <p>・早稲田大学とは、共同で農林水産政策科学研究委託事業及び戦略的創造研究推進事業の外部資金を獲得し、地域への還元や地域企業等に役立つ共同研究を実施した。</p> <p>・その他、MBT研究所、自治体及びコンソーシアム会員企業と共に、理学療法士の指導による、主に着席したままの健康体操のほか、メタボや疲労度測定、貯筋のすすめと題してウォーキングと筋トレで若返りを目指す運動教室を開催（奈良市学園前、橿原市今井町、栃木県高根沢町）し、地域住民へ研究成果を還元した。</p> <p>・本学、自治体及びコンソーシアム会員企業によるMBTの研究成果の一つである「妊娠期・子育て支援サービス」の有性を検討するため実証実験を実施した。</p> <p>・コンソーシアム会員企業等と共に、国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」に応募し、採択された。4月よりウェアラブル端末を使用し、住民一人ひとりのバイタルデータ等を収集・解析する実証実験を行う。</p> <p>・MBTの研究成果を展示会等（はっと！！神戸健康フェア（4/7）・「着物でジャズ、今井町」（5/13）・奈良県防災総合訓練展示会（8/5）・第1回医療ITEXPO東京（9/12-14）・奈良県立医科大学健康フェア2018（9/17）・けいはんなビジネスメッセ（10/4-5）・日経デジタルヘルスディ2018（10/17-19）・くすりの町の漢方マルシェ（11/18）・日経セミナー（12/12）・イノベーションストリームKANSAI（12/19））に出展し研究成果の発表を広く行い周知した。</p> <p>・「MBT記念シンポジウム」（9/19）・「MBTオープンミーティング2018in東京」（11/27）や「MBT技術交流会」（2/20）を開催し、本学の研究シーズや研究成果を広く全国に公表するとともに、中国老人医療福祉全国大会（上海6/18）でMBTの研究成果を世界にも発表・周知した。</p> <p>・個別のニーズ相談体制については、広く一般企業も含めMBT相談体制の設置を行い産学官連携の強化を図った。</p> <p>・今後企業との活動の強化のための新たな拠点として、(株)タカトリ内に奈良県立医科大学産学官連携推進センター（MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所分室）を開設した。</p> <p>・MBT構想をより現実のものとするため、奈良医大発となる第1号大学発ベンチャー企業を認定し、見守りシステム等の開発を目指した。</p> <p>以上のとおり、各課題への対応は着実に進んでおり年度計画を上回って実施した。</p>	S

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																		
<p><b>4 健康増進の県民アプローチの充実</b></p> <p>〔中期目標〕 ・県民の健康増進支援組織を設置・運営する</p> <p>〔中期計画〕 市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。</p> <p>〈取組内容〉 ・県民の健康増進を図る支援組織の設置・運営 ・公開講座の充実等による予防医学や健康づくりに関する情報の提供 ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※奈良県健康長寿コホースタディ: 県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査。</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">県民の健康増進支援組織の設置・運営</td> <td style="text-align: center;">指標</td> <td></td> <td style="text-align: center;">設置検討</td> <td style="text-align: center;">設置・運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td></td> <td style="text-align: center;">県民健康増進支援センター設置</td> <td style="text-align: center;">運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→	実績		県民健康増進支援センター設置	運営				→	特記事項								<p>17</p> <p>(1)県・市町村から依頼を受けて保健事業にかかる助言・調査・データ分析を行う。 ・県・市町村の保健師等を対象に、データ分析に基づいた県民の健康づくりや健康長寿に関する研修を実施する。 ・企画、立案段階から保健事業に参画し、より充実した支援・指導を行うことで、県・市町村職員のスキルアップにつなげる。 ・公的統計データの利用申請を行い、ビックデータを用いた分析を行う。 ・県民健康増進支援センターの活動をホームページ等に掲載、ニュースレターを年2回発行し、広く公表する。 ・得られた成果を学会等積極的に発信する。 ・新たな市町村のセンター利用を目指す。</p>	<p>・県より、「なら健康長寿基礎調査」のデータ分析の依頼を受け、「なら健康長寿基本計画」に沿った政策の評価を実施した。 ・奈良県母子保健運営協議会および香芝市介護保険運営協議会に委員として、高取町健康づくり推進協議会にアドバイザーとして参画し、県市町村の保健事業への指導・助言を行った。 ・橿原市が実施する「かしはら健康21」の研修講師を担当した。 ・県が行ったレスパイト調査、香芝市が行った子育て支援のニーズ調査は企画、立案段階から支援・指導を行った。 ・厚生労働省からデータの提供を受けて、公的統計データ（国民生活基礎調査）を用いた分析を行った。 ・センター業務で得られた分析や研究成果について、年2回発行するニュースレターで紹介し、学会や学術雑誌にも公表した。 ・高取町保健センターの健康推進計画・食育推進計画及び香芝市児童福祉課の母子支援事業に対する助言・指導など新規利用を得ることができた。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→																													
	実績		県民健康増進支援センター設置	運営				→																													
	特記事項																																				
	<p>18</p> <p>(2)公開講座「くらしと医学」を年2回開催する。予防医学の研究成果だけでなく、より実践的な情報(生活習慣の改善方法など)を提供し、日常の健康づくりを推進するようなテーマを盛り込んでいく。</p>	<p>・公開講座「くらしと医学」を年2回実施した。また、講演内容を実践的なテーマとし健康づくり等を推進した。 H30.9.22 腰痛 参加者400名 H31.2.16 孤独死 参加者400名 ・より多くの県民に公開講座へ参加してもらえるよう、今年度は近鉄沿線にポスター掲示(5箇所)及びデジタルサイネージ表示(2箇所)を実施、県のデジタルサイネージ(10箇所)にも表示を実施し、広報の工夫と充実を図った。 ・橿原市が実施する「かしはら健康21」に、講師を派遣し、連携を行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																		
	<p>19</p> <p>(3)奈良県健康長寿大規模コホート研究の進捗状況を確認し、研究を継続実施する。</p>	<p>・奈良県健康長寿大規模コホート研究課題の学内成果報告会を9/4と10/5に開催すると共に、研究推進戦略本部会議で研究成果を分析した。 ・県民への研究成果の還元のため、奈良県健康長寿大規模コホート研究について、2/16に県民公開講座「くらしと医学」で健康増進に関する成果を発表した。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実に進め、年度計画を十分に実施した。</p>	A																																		

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																																																			
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																		
I 地域貢献＜診療関連＞																																																																							
5 断らない救急医療体制の整備																																																																							
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重篤な救急患者の高度救命救急センターの受入率を100%に近づける</li> <li>重篤な救急患者を断らないシステムを構築する</li> <li>県内救急搬送のコーディネート機能を運用する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重篤な救急患者等のスムーズな受入のための院内体制再構築及び、県内救急搬送コーディネート機能の支援</li> <li>救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制の整備</li> <li>高度救急医療を担う医師、看護師等の確保及び、専門医や認定看護師等の養成</li> <li>医師等救急医療従事者の負担軽減対策(補助員配置、服務、手当等)への取組</li> </ul>		<p>20</p> <p>(1)「断らない救急医療」実現のためのさらなる体制の整備と強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土日ERについて、後方支援病院と連携しながら、現行の土日に加え、祝日も実施する。</li> <li>・ドクターヘリを運用する。</li> <li>・関連病院と重症腹症(腹痛・吐血)救急患者受入ネットワークを運用する。</li> <li>・医師等救急医療従事者の負担軽減対策を実施(急性期コースの特定看護師の育成等)する。</li> <li>・高度救急医療を担う医師の確保及び養成に努める。</li> </ul>		<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中南和地域の連携病院と意見交換会を開催し、連携強化を図ることで土日祝のERと重症腹症(腹痛・吐血)救急患者受入ネットワークを安定して運営した。また、ER実施日の拡大については、2021年度に24時間365日の実施を目指すこととした。</li> <li>・ドクターヘリの運用については、「ドクターヘリ症例検討会」と「フライトスタッフ会議」を開催し課題への対応方針を協議した。また当院への搬送件数は屋上にヘリポートを設置(平成30年2月26日から運用開始)したこと等により、H29年度169件がH30年度は234件に増加しており、救急患者受け入れ体制が強化された。</li> <li>・救急医療従事者の負担軽減対策として、救急看護認定看護師志望の看護師3名を発掘した。</li> <li>・救急科は医員数が昨年度より2名増の9名体制(教員9名 計18名)に充実した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>		<p>評価</p> <p>A</p>																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 85.7%</td> <td>87%</td> <td>89%</td> <td>91%</td> <td>93%</td> <td>95%</td> <td>100%に近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>81.2% (151/186件)</td> <td>98.7% (75/76件)</td> <td>91.3% (167/183件)</td> <td>95.1% (194/204件)</td> <td>94.0% (328/349件)</td> <td>91.8% (370/403件)</td> </tr> <tr> <td>参考指標(救急患者受入率)</td> <td></td> <td>66.6%</td> <td>79.8%</td> <td>81.8%</td> <td>89.6%</td> <td>89.3%</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">本評価指標は、奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)により救命救急センターの受入率を示すものだが、受け入れ依頼が連続する時や入院患者の容態急変時の処置応中等があり、100%の受入率達成は困難。しかし、左記の通り患者数が増加傾向にもかかわらず受入率は上昇傾向にある。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内救急搬送コーディネート機能の運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内救急搬送コーディネート機能の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>ERプロジェクトの実施</td> <td>ERの拡大に向け検討・協議</td> <td>土日ERの実施</td> <td>休日ERの検討</td> <td>土日祝ERの実施</td> <td>土日祝ERの実施</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)	94.0% (328/349件)	91.8% (370/403件)	参考指標(救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%	89.3%	89.6%	特記事項	本評価指標は、奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)により救命救急センターの受入率を示すものだが、受け入れ依頼が連続する時や入院患者の容態急変時の処置応中等があり、100%の受入率達成は困難。しかし、左記の通り患者数が増加傾向にもかかわらず受入率は上昇傾向にある。							県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始					実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討	土日祝ERの実施	土日祝ERの実施	特記事項											
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																
重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける																																																															
	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)	94.0% (328/349件)	91.8% (370/403件)																																																															
	参考指標(救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%	89.3%	89.6%																																																															
	特記事項	本評価指標は、奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)により救命救急センターの受入率を示すものだが、受け入れ依頼が連続する時や入院患者の容態急変時の処置応中等があり、100%の受入率達成は困難。しかし、左記の通り患者数が増加傾向にもかかわらず受入率は上昇傾向にある。																																																																					
県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始																																																																			
	実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討	土日祝ERの実施	土日祝ERの実施																																																															
	特記事項																																																																						

中期目標・中期計画		平成30年度計画							法人自己評価																																																																						
									年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																					
<b>6 周産期医療体制の強化</b> [中期目標] ・新生児・母体の県内受入率を100%に近づける  [中期計画] 総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。  <取組内容> ・GCUの増床等、総合周産期母子医療センターの機能充実 ・施設間ネットワークとの連携による、県内母体・新生児搬送コーディネート機能の充実 ・高度周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材養成・確保																																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">母体県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 92.4%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>100%に 近づける</td> <td>100%に 近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>92.6%</td> <td>94.7%</td> <td>95.2%</td> <td>90.4%</td> <td>97.6%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">新生児県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>99.3%</td> <td>98.0%</td> <td>99.3%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内搬送コーディネートの運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内搬送 コーディネ ート機能 の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>母体搬送 コーディネ ート体制 の検討</td> <td>母体搬送 コーディネ ートの 開始</td> <td>母体搬送 コーディネ ートの 実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%	97.6%	特記事項							新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績		100%	100%	99.3%	98.0%	99.3%	特記事項							県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ート機能 の検討	運用開始				実績		母体搬送 コーディネ ート体制 の検討	母体搬送 コーディネ ートの 開始	母体搬送 コーディネ ートの 実施			特記事項							21	(1)附属病院総合周産期母子医療センターの円滑な運営を行う。 ・母体搬送コーディネーター事業を引き続いて実施する。  ・周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材を養成する。  ・周産期医療従事者等への研修会を開催する。	・県外への母体搬送は、奈良医大が受け入れ不可で他府県に紹介した例は7件(昨年度6件)と昨年度同等で推移しており、母体搬送コーディネーター事業は順調に運営している。  ・奈良県周産期医療協議会において県内の周産期医療の現状を把握し、周産期医療体制について協議した。  ・院内用研修プログラムを作成すると共に新生児医療勉強会等の研修会を開催(参加者36名)し、スタッフのスキル向上を図った。  ・県内周産期従事者を対象にした長期療養児在宅医療・在宅(小児)訪問推進研修会(参加者66名 全員院外)を開催し、人材養成を行った。  以上のことから年度計画を十分実施していた。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																								
母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける																																																																								
	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%	97.6%																																																																								
	特記事項																																																																														
新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																								
	実績		100%	100%	99.3%	98.0%	99.3%																																																																								
	特記事項																																																																														
県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ート機能 の検討	運用開始																																																																											
	実績		母体搬送 コーディネ ート体制 の検討	母体搬送 コーディネ ートの 開始	母体搬送 コーディネ ートの 実施																																																																										
	特記事項																																																																														

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																																																																																					
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																																				
<p>7 他の医療機関との連携強化</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患」の地域医療連携パスの運用件数200件を目指す</li> <li>・認知症疾患医療センターを設置・運営する</li> <li>・中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する</li> <li>・紹介率75%、逆紹介率60%を目指す</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携登録医制度の導入、予約診療等の拡充による逆紹介等の促進</li> <li>・各種地域医療連携パスの拡充、退院調整の効果的運用等による地域医療連携の推進</li> <li>・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働</li> <li>・地域医療機関と連携して認知症高齢者受け入れのための基幹型認知症疾患医療センターの設置</li> <li>・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実</li> </ul>	<p>22 (1)地域医療機関との連携を強化し、予約診療および逆紹介等の促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回奈良外科医療連携懇話会（消化器・総合外科 11月開催）に参画し、予約診療等に関し地域医療機関と意見交換を実施した。</li> <li>・患者からの電話による直接予約制度（平成31年6月開始）を院内外に周知した。</li> <li>・初診予約枠は昨年度601枠（H29）から617枠に拡大した。</li> <li>・「地域医療連携室だより」を通じ、ネット予約利用に関する広報啓発を実施した。ネット予約件数は昨年度150件（H29）から312件に増加した。</li> <li>・紹介元及び紹介先医療機関への患者情報の提供について、院内会議にて周知した。</li> <li>・予約実績は12,552件（H29）から13,509件に増加したとともに、紹介率・逆紹介率とも評価指標を上回った。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">地域医療連携パスの運用件数</td> <td>指標</td> <td>H23 137件</td> <td>140件</td> <td>150件</td> <td>165件</td> <td>185件</td> <td>200件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>127件</td> <td>200件</td> <td>479件</td> <td>447件</td> <td>545件</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間運用件数は596件であり目標達成している</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 74.2%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>75.4%</td> <td>79.3%</td> <td>84.7%</td> <td>90.7%</td> <td>93.6%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間紹介率は93.6%であり目標達成している</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">逆紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 42.1%</td> <td>43%</td> <td>48%</td> <td>53%</td> <td>56%</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>43.9%</td> <td>52.0%</td> <td>59.0%</td> <td>63.9%</td> <td>71.5%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間逆紹介率は77.8%であり目標達成している</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中核的な緩和ケアセンターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>構想策定</td> <td>本格稼働</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>機能充実とあり方の検討</td> <td>新指針への対応</td> <td>整備要件への対応</td> <td>機能の充実</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件	実績		127件	200件	479件	447件	545件	特記事項	年間運用件数は596件であり目標達成している							紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%	93.6%	特記事項	年間紹介率は93.6%であり目標達成している							逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%	71.5%	特記事項	年間逆紹介率は77.8%であり目標達成している							中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働				実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実		特記事項								<p>23 (2)地域医療連携パスおよび退院調整の効果的な運用を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全病棟に退院支援員を配置し、要支援患者の抽出やカンファレンスの実施等、入院早期からの退院支援を実施した。</li> <li>・11月に入退院支援センターを設置し、入院前からの要支援患者把握に取り組んだ。</li> <li>・「入退院支援加算1」の件数は5,007件で目標の5,000件を上回った。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																
地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件																																																																																																
	実績		127件	200件	479件	447件	545件																																																																																																
	特記事項	年間運用件数は596件であり目標達成している																																																																																																					
紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%																																																																																																
	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%	93.6%																																																																																																
	特記事項	年間紹介率は93.6%であり目標達成している																																																																																																					
逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%																																																																																																
	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%	71.5%																																																																																																
	特記事項	年間逆紹介率は77.8%であり目標達成している																																																																																																					
中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働																																																																																																			
	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実																																																																																																	
	特記事項																																																																																																						
	<p>24 (3)県内の地域包括ケアシステムの確立に向け、奈良医大モデルとなる医療連携体制の構築のため、医療機関の実情やニーズの把握、関係機関の役割分担の決定を目的とした意見交換会等の開催を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム奈良医大モデル推進会議を8月に開催し、取組み実績及び今後の方針に関する意見交換を行った。</li> <li>・中和地域における在宅医療の現状理解を深めるための、中和在宅診療研究会が8月に発足し第2回（11月）も開催された。今後の議論の展開や講演会を通じた意見交換が行われた。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																																																																																				
	<p>25 (4)県内の地域包括ケアシステムの確立に向け、奈良医大モデルとなる医療連携体制構築のため、平成29年度の先行事例をモデルにし、他の医療機関との協議等の取組を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和高田市立病院と循環器内科による連携体制を構築し、平成31年3月に覚書を締結した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																																																																																				

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価
	26 (5)緩和ケア地域連携カンファレンスの開催等、中核的な緩和ケアセンターとして引き続き運営する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の病院・在宅療養支援診療所等との連携強化を図るため、緩和ケア地域連携カンファレンスを実施（毎月1回 1回当たり15名程度参加）し、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たした。（当院医師、看護師等と県内在宅診療所の医師、訪問看護ステーション看護師、在宅訪問リハビリ技師、ホスピス医師等が参加）</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
	27 (6)地域の医療機関で鑑別困難な若年性認知症やMCI(軽度認知障害)の受け入れ等、基幹型認知症疾患医療センターを引き続き運営する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑別98件（軽度認知障害＋若年性認知症 H29年度96件）を受け入れ、地域で鑑別困難な事例に対応することで機能分化、連携強化を図った。</li> <li>・連絡協議会の開催（10人）や県政策会議に参加するなど支援対策の構築に向けて取り組むとともに、地域の保健医療介護関係者の認知症対応力向上を目的とした事例検討会を開催（27人参加）し、基幹型認知症疾患医療センターとしての役割を果たした。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
	28 (7)・リーフレットの配布やホームページの更新により、医療情報を発信する。 ・地域医療連携を推進する「地域医療連携懇話会」及び「なら地域医療連携実務者協議会」を各々1回以上開催する。 ・地域医療従事者を対象とした研修会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関に対し地域医療連携室の活動状況を伝える「地域医療連携室だより」を5月と12月に発行した。</li> <li>・見やすい画面へ地域連携室のホームページを修正すると共に、最新情報に随時更新した。</li> <li>・医療従事者等のニーズに沿ったテーマ（平成30年度同時改定の影響）で「第11回なら地域医療連携実務者協議会」を9月に開催（38医療機関の72名参加）。また、3月に「医療と介護の連携」をテーマに第2回を開催した（35医療機関86名参加）。</li> <li>・地域医療機関の連携登録医と当院医師との交流を図るため、「第2回連携登録医のつどい」を10月に開催した（66名参加）。</li> <li>・「第14回地域医療連携懇話会」を2月に開催した（136名参加）。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A



中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p><b>8 県内医療人への助言・指導</b></p> <p>〔中期目標〕 ・医療関係者に対する研修会等の開催回数を平成23年度に比べ倍増を目指す</p> <p>〔中期計画〕 県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。</p> <p>〈取組内容〉 ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実(再掲: I-7) ・臨床技能習得のためのスキルスラボの設置・運営及び地域へのオープン化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">研修会等の開催回数</td> <td>指標</td> <td>H23 2回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>3回</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>7回</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回	実績		3回	7回	6回	7回	6回	7回	特記事項								<p>29 (1)県内医療従事者のスキル向上を図るため、引き続き研修会等を開催する。</p>	<p>・医療従事者等のニーズに沿ったテーマ（平成30年度同時改定の影響）で「第1回なら地域医療連携実務者協議会」を9月に開催（38医療機関の72名参加）。また、3月に「医療と介護の連携」をテーマに第2回を開催し（35医療機関86名参加）、県内医療従事者のスキル向上を図った。</p> <p>・医療機関に対し「地域医療連携室だより」を2回発行し、情報発信を行った。</p> <p>・がん診療拠点病院（まほろばPEACE緩和ケア研修会等）、総合周産期母子医療センター（長期療養児在宅医療研修会等）、基幹型認知症患者医療センター（認知症患者医療センター研修会）として、県内医療従事者等を対象に研修会等を開催し人材育成を行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回																													
	実績		3回	7回	6回	7回	6回	7回																													
	特記事項																																				
	<p>30 (2)・県内病院の臨床研究を支援するため、毎月、医の倫理審査委員会の運営を行う。</p> <p>・必要な規程、手順書、委員会等の体制を整え、認定臨床研究審査委員会の申請を行う。</p>	<p>・県内病院の臨床研究を支援するため、医の倫理審査委員会を毎月開催した。</p> <p>・特定臨床研究を審査する本学の臨床研究審査委員会の認定について、5月28日に申請を行い、7月12日に厚生労働大臣の認定を取得した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施した。</p>	A																																		
	<p>31 (3)県医師会等を通じ、地域の医療施設医療従事者へスキルスラボの利用について周知する。</p>	<p>・病院長から県病院協会へ利用の呼びかけを行った。</p> <p>・スキルスラボの利用案内文書及び利用促進PR用のリーフレットを作るとともに、県病院協会及び県医師会に送付して、協会等を訪れる会員に周知を依頼した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施した。</p>	A																																		

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																																																																																								
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																																							
II 教育																																																																																																												
1 リベラルアーツ教育の実践 医の心をもった医療人の育成 医療経営に関する教育の確保																																																																																																												
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部有識者を含む一般教育検討委員会を設置・運営する</li> <li>リベラルアーツ教育に沿った新カリキュラムを導入する</li> <li>医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合90%を目指す</li> <li>大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築</li> <li>アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握</li> <li>大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置</li> </ul>		32	(1)「良き医療人育成のためのプログラム」をはじめとするカリキュラムを外部委員による評価を踏まえ継続的にブラッシュアップする。	<p>2019年度のカリキュラムについて、下記のとおり決定し、ブラッシュアップを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>統合臨床講義において、自学自習を促すため十分な自己学習日を増加させ、全体の統合臨床講義期間を拡充</li> <li>臨床医学教育課程に授業科目として「医師・患者関係学」に関する講義を導入し、医師・患者関係を理解するための実践的教育を実施することを決定</li> <li>教養教育及び6年一貫教育で学生が授業を通じて、求められる学習成果を修得したかどうかを適切に評価するため、教育成果目標（アウトカム）を導入</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																																																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入</td> <td>指標</td> <td>委員会設置・学生アンケート実施・他大学の状況調査</td> <td>新カリキュラム(案)策定</td> <td>新カリキュラム導入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学のカリキュラム調査実施</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成（「教育改革2015」の策定）</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成（「教育改革2016」の策定）一部先行導入</td> <td>新カリキュラムの本格導入</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 30.6%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>38% (93%)</td> <td>38% (91%)</td> <td>35% (92%)</td> <td>19% (85%)</td> <td>36% (91%)</td> <td>43% (91%)</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 33.2%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>41% (95%)</td> <td>40% (91%)</td> <td>36% (93%)</td> <td>28% (90%)</td> <td>30% (94%)</td> <td>12% (93%)</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> <td>指標</td> <td colspan="7">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>「医療経営学」を設置</td> <td>主科目として学生募集</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	委員会設置・学生アンケート実施・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入				実績	一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学のカリキュラム調査実施	新カリキュラムの編成案の作成（「教育改革2015」の策定）	新カリキュラムの編成案の作成（「教育改革2016」の策定）一部先行導入	新カリキュラムの本格導入			特記事項							医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)	36% (91%)	43% (91%)	特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。							指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		41% (95%)	40% (91%)	36% (93%)	28% (90%)	30% (94%)	12% (93%)	特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。							大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営							実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集					特記事項							33	(2)外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)を踏まえ、カリキュラム改定作業を継続的に実施する。	<p>外部評価も踏まえ、下記のようなカリキュラム改訂作業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者の立場に立ったコミュニケーション手法を取得させ、「人を見るころ、人間性」の教育を充実するため、行動科学の講義時間を拡充することを決定</li> <li>県内の超高齢社会に応えた県内の医療人の育成を行うため、臨床実習を総合診療科の枠内で在宅医療学を一部実施することを決定</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																					
外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	委員会設置・学生アンケート実施・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入																																																																																																								
	実績	一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学のカリキュラム調査実施	新カリキュラムの編成案の作成（「教育改革2015」の策定）	新カリキュラムの編成案の作成（「教育改革2016」の策定）一部先行導入	新カリキュラムの本格導入																																																																																																							
	特記事項																																																																																																											
医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																																				
	実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)	36% (91%)	43% (91%)																																																																																																				
	特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。																																																																																																										
	指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																																				
実績		41% (95%)	40% (91%)	36% (93%)	28% (90%)	30% (94%)	12% (93%)																																																																																																					
特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。																																																																																																											
大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営																																																																																																										
	実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集																																																																																																								
	特記事項																																																																																																											
		34	(3)講座・学科目のあり方等に関する検討委員会で、将来像の実現及び大学全体の教育の総合力を高めるための教員配置等を含めた教育体制の見直しや検討を行う。	<p>講座・学科目のあり方等に関する検討委員会（6回開催）において、以下の取組を実行。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>神経内科学講座の名称変更</li> <li>重点研究である血栓止血先端医学講座の新設</li> <li>県内の医療向上に資するために糖尿病学講座の新設について検討</li> <li>物理学、法医学及び臨床研究センターの教授選考</li> <li>教育、研究及び診療で存在感のある大学を目指すため、内科分野の専門化が必要であることから内科学の再編について検討</li> <li>地域貢献等を達成するため、未来基礎医学及び地域医療学講座の教員定数について検討</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																																																																																							

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	35	(4)超高齢社会に応えた医学教育として、在宅医療学を臨床医学教育において開講する。	<p>・超高齢社会に応えた医学教育を実施するため、臨床医学教育課程で在宅医療学を開講し、第4学年の統合臨床講義で講義を実施した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
	36	(5)医師又は看護師になる自覚及びその要因に関する調査を全学生に実施する。	<p>・医師・看護師になる自覚を持った学生の割合を把握するため、全学年を対象に「学生の意識及び授業に関するアンケート調査」を実施（回収率 94.0%）した。</p> <p>（医師及び看護師としての自覚を持っている学生の割合 医学科：91.4%、看護師：92.5%）</p> <p>・両学科の全科目の授業評価を実施した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																	
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																
<b>2 教育内容の評価</b> 【中期目標】 ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す ・評価体制の構築と評価を実施する  【中期計画】 教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。  【取組内容】 ・双方向の授業評価システムの構築及び実施による授業の改善 ・教員の表彰制度の導入 ・FD研修会の実施による教育能力の向上																																					
カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 38% 授業 31%</td> <td>カリキュラム 41% 授業 33%</td> <td>カリキュラム 40% 授業 35%</td> <td>カリキュラム 46% 授業 36%</td> <td>カリキュラム 36% 授業 23%</td> <td>カリキュラム 34% 授業 22%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%	カリキュラム 40% 授業 35%	カリキュラム 46% 授業 36%	カリキュラム 36% 授業 23%	カリキュラム 34% 授業 22%	特記事項								37	(1)・医学科及び看護学科において、授業評価を実施し、評価結果を教員に通知する。  ・教員に評価結果を基にした授業改善調査及び経年的な改善の有無を調査し、分析・検討を行う。  ・授業評価の集計結果を分析し公表する。  ・学生が行った評価の理由が分かるようにするなど授業評価様式の見直しを検討する。	・医学科では通年で非常勤講師を除く全科目を対象として50教員に、看護学科では前期後期を合わせて非常勤講師を除く全35教員に、それぞれ授業評価を実施し、全教員へ結果通知を行うとともに、全教員から授業改善調査票を回収した。  ・2017年度分の授業評価については2018年度4月に公表した。また、2018年度分の授業評価については、評価結果及び集計結果についてとりまとめ、2019年度早期にHPへ掲載し、公表するため経年的な分析を行っている。  ・授業評価から授業内容や教育手法の課題等を的確に把握するため、医学科、看護学科それぞれ10名程度の学生にインタビューを実施し、学生の意見も取り入れた新たな授業評価アンケート調査票の作成することを決定した。 現在、インタビュー内容も踏まえた新たな授業評価アンケート調査票を2019年度中に開発し、試行するため、インタビュー内容のテキスト解析を実施している。  以上のことから、年度計画を十分実施した。	A
	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																													
実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%	カリキュラム 40% 授業 35%	カリキュラム 46% 授業 36%	カリキュラム 36% 授業 23%	カリキュラム 34% 授業 22%																														
特記事項																																					
授業内容・教員の評価体制	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 16% 授業 14%</td> <td>カリキュラム 10% 授業 4%</td> <td>カリキュラム 8% 授業 7%</td> <td>カリキュラム 11% 授業 10%</td> <td>カリキュラム 19% 授業 9%</td> <td>カリキュラム 14% 授業 16%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 16% 授業 14%	カリキュラム 10% 授業 4%	カリキュラム 8% 授業 7%	カリキュラム 11% 授業 10%	カリキュラム 19% 授業 9%	カリキュラム 14% 授業 16%	特記事項								38	(2)カリキュラムと授業の進め方の満足度及びその理由について調査を全学生に実施する。	・学生の満足度を把握するため、全学年を対象に「学生の意識及び授業に関するアンケート調査」を実施（回収率 94.0%）した。 （カリキュラムに不満な学生の割合 医学科:33.6%、看護師:13.5%） （授業の進め方に不満な学生の割合 医学科:21.8%、看護師:15.7%）  以上のことから、年度計画を十分実施した。	A
	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																													
実績		カリキュラム 16% 授業 14%	カリキュラム 10% 授業 4%	カリキュラム 8% 授業 7%	カリキュラム 11% 授業 10%	カリキュラム 19% 授業 9%	カリキュラム 14% 授業 16%																														
特記事項																																					
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>評価体制の検討・構築</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>評価の実施</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>医学科・看護学科全科目の授業評価を実施</td> <td>高学部の全科目の授業評価を実施</td> <td>高学部の全科目の授業評価を実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	指標	評価体制の検討・構築			→	評価の実施		→	実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	高学部の全科目の授業評価を実施	高学部の全科目の授業評価を実施			→	特記事項								39	(3)平成29年度FD活動実績に基づく表彰式を実施するとともに、表彰記事を学報に掲載する。	・活動実績と医学教育フォーラムにおけるレポートの内容がともに優れた者3名を2019年3月に表彰するとともに学報2019年4月号に表彰記事を掲載した。  以上のことから、年度計画を十分実施した。	A									
指標	評価体制の検討・構築			→	評価の実施		→																														
実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	高学部の全科目の授業評価を実施	高学部の全科目の授業評価を実施			→																														
特記事項																																					
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	指標								実績								特記事項								40	(4)・教員を対象とした研修会を定期的実施し、研修結果を分析・評価する。  ・新任教員を対象とした研修会の受講義務の周知と未受講者に対する受講勧奨を徹底する。  ・FD研修会については、関係する部署と連携しながら、案内を徹底するとともに、研修形式等の工夫、内容の充実を図り、教員のFD研修受講率を向上させることにより、教育能力を向上させる。	・「新任教員研修会」、「医学教育フォーラム」、「障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応」、「地域基盤型医療教育」等計8回実施し、延べ314名が参加した。  ・新任教員研修については、全員が参加できるように、5月と11月にそれぞれ2回（計4回）実施した。 ・所属長及び本人あてに文書により通知するなど受講の義務化を徹底した結果、新規採用者39人中35人（90%）が参加  ・参加者増につなげるため、継続してなかよし保育園に託児できるよう調整した。 ・講演形式を従来までの聴講型だけでなく、討論形式の参加型の講演も取り入れる工夫を行い、参加者増につなげた。 ・教員により効果的な教育手法の普及を図るため、「質の高い学生評価とは」や「診療参加型臨床自習」といった内容をテーマとし、直接的に授業の内容及び方法の改善を図るためのテーマや、「障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応」といった学生支援のあり方等をテーマにした研修等、研修内容についても工夫して実施した。  以上のことから、年度計画を十分実施した。	A									
指標																																					
実績																																					
特記事項																																					

中期目標・中期計画		平成30年度計画							法人自己評価																																			
									年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																		
<p>3 老朽・狭隘施設への対策</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営</li> </ul>																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td></td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>基本計画検討</td> <td>基本計画検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手			建築工事発注準備	実績		基本構想検討				基本計画検討	基本計画検討・策定	特記事項								<p>(1)将来像に掲げる「良き医療人の育成」実践の場となる新キャンパスの教育施設について、前年度に引き続き、法人内及び県との意見交換・協議による整備内容の具体化とコンセンサス形成を進め、施設整備基本計画をまとめ上げる。</p>							<p>（全体計画）</p> <p>老朽かつ狭隘な施設への対策として、新キャンパスへの教育部門の移転について、先行整備を令和6年度中に完成し、医学科1年及び看護学科1年～4年を移転する計画が平成30年2月15日に県から示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3/20 役員会にて新キャンパス整備基本計画書（案）について審議・承認された。</li> <li>（施設整備基本計画承認までの経緯）</li> <li>・6/11 キャンパス整備検討ワーキングにて整備計画平面図素案を作成。</li> <li>・各教育協議会等で説明し（7/3 基礎 7/10 看護・教養 7/17 臨床 7/20 学生）、意見を聴取した。</li> <li>・10/3 拡大総務経営会議・拡大教務委員会に諮り、得た意見をもとに整備計画平面図（案）とした。</li> <li>・11/5 キャンパス整備検討ワーキングに整備計画平面図（案）を諮り、了解を得た。</li> <li>・12/25 県も含めたキャンパス整備検討委員会及びキャンパス整備検討ワーキングを合同開催し、整備計画平面図（案）を含む新キャンパス整備計画書（案）等を検討。</li> <li>（県・市との協議）</li> <li>・県と新キャンパスの整備方針及び内容について協議するとともに、財政当局に事業規模について説明を行い査定を受けた。</li> <li>・県及び橿原市と地区計画の申請手続きを含む諸問題について調整を行った。</li> <li>（地元への説明）</li> <li>・新キャンパス予定地の里道・水路の付け替えについて、地元自治会長等に対し説明を行い（9/26 山本町・土地改良区、10/5 四条本村、10/22 小泉堂）、また、四条本村に対しては 住民説明会を開催して（10/27）理解を求めた。</li> <li>・新キャンパスの地区計画素案について地元説明会（四条本村3/16 四条小泉堂3/21）を開催し、理解を求めた。</li> </ul> <p>以上のとおり、法人内及び県とのコンセンサスを形成の上、施設整備基本計画をまとめあげており、計画は達成できた。</p>	
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																				
新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手			建築工事発注準備																																				
	実績		基本構想検討				基本計画検討	基本計画検討・策定																																				
	特記事項																																											
		41							A																																			

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																															
Ⅲ 研究																																		
1 研究の適切な成果評価																																		
<p>〔中期目標〕</p> <p>・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する</p> <p>〔中期計画〕</p> <p>研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <p>・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)</p> <p>・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</p>																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td>評価項目の検討</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">学外有識者を含む評価委員会の運営</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営				実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	特記事項	学外有識者を含む評価委員会の運営							42	<p>(1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理のうえ推進し、あわせて、評価についても検討し、顕彰制度を新設する。</p> <p>・研究の適切な成果評価のため、研究推進戦略本部会議を11回開催し、重点研究課題である特色ある3つのサブホート研究、超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究、血栓止血制御及びIVRの研究成果を分析した。</p> <p>・極めて高い研究業績をあげた研究者に対する顕彰制度「奈良県立医科大学賞」を創設した。</p> <p>・上記以外の取組として、血栓止血制御に関する研究については、今年度より血栓止血研究センターを立ち上げ、運営委員会(5/28、6/26、7/26、8/7、2/5)で、今後の研究体制及び専任教員を決定した。その他、血栓止血先端医学講座、血友病教育講座(寄附講座)、血栓止血分子病態学講座(寄附講座)、血栓止血医薬生物学共同研究講座(共同研究講座)を設置した。</p> <p>・IVRに関する研究については、今年度よりIVR研究センターを立ち上げ、運営委員会(6/7、1/31)で今後の研究体制等を決定するとともに、動物用CTの設置及び技術補助員を配置した。</p> <p>・その他、疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を開発するため、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実に進め、年度計画を上回って実施した。</p>	S
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																											
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営																														
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討																											
	特記事項	学外有識者を含む評価委員会の運営																																
	43	<p>(2)適切な評価を行うため、研究に関する評価委員会を運営し、研究成果の見える化について外部有識者を交え議論する。</p> <p>・本学における研究面での適切な評価を行うため、学外有識者を含む研究評価委員会を11/1及び2/7に開催し、学内の研究の取り組みや研究成果の還元について「研究成果の見える化」を目指した。</p> <p>・研究者ごとの論文業績等研究データの蓄積のため、本学の助教以上の教員について、研究者情報データベースへの入力を完成した。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実に進め、年度計画を十分に実施した。</p>	A																															

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																																												
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																											
<p><b>2 有能な研究者の獲得</b></p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎医学系教員14名以上の育成を目指す</li> <li>PubMed対象の英文学術論文数を延べ1,400件を目指す</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>PubMed: アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス</p> </div> <p>〔中期計画〕</p> <p>研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)</li> <li>基礎医学・社会医学研究者の増加を図るための研究医養成コースの充実</li> <li>研究助教制度、顕彰制度、若手研究者支援制度の導入等、研究体制強化の取組実施</li> <li>女性研究者の継続・復職支援の充実等による女性研究者支援</li> </ul>		<p>44</p> <p>(1)重点研究推進計画に定めた日本を世界を牽引する重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理のうえ、推進する。</p>		<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評価理由</p> <p>・日本を世界を牽引する重点研究課題のうち、血栓止血制御に関する研究については、今年度より血栓止血研究センターを立ち上げ、有能な研究者の獲得に向け、血栓止血研究センター運営委員会(5/28、6/26、7/26、8/7、2/5)で、今後の研究体制及び専任教員を決定した。その他、血栓止血先端医学講座、血友病教育講座(寄附講座)、血栓止血分子病態学講座(寄附講座)、血栓止血医薬生物学共同研究講座(共同研究講座)を設置した。</p> <p>・IVRに関する研究については、今年度よりIVR研究センターを立ち上げ、IVR研究センター運営委員会(6/7、1/31)で今後の研究体制等を決定するとともに、動物用CTの設置及び技術補助員の配置を行った。</p> <p>・研究推進戦略本部会議においても上記の研究成果を確認した。その他、超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)、良き医療人育成に関する研究や卒業医療人のキャリアパスに関する研究といった本学が重点研究推進計画に定めた重点研究課題についても、研究推進戦略本部会議で、研究成果を分析した。</p> <p>・疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を開発するAI・バイオ・工学を融合させた画期的な寄附講座「ViClinix講座」を設置した。</p> <p>・奈良先端科学技術大学院大学と連携活性化委員会を設置し、相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高め、本学の認知度の向上を図った。</p> <p>・PubMedについては、今年度は527件が対象となった。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にを行い、年度計画を上回って実施した。</p>		<p>S</p>																																																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">PubMed対象の英文学術論文数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H23 214件</td> <td>226件</td> <td>(累計) 446件</td> <td>(累計) 678件</td> <td>(累計) 916件</td> <td>(累計) 1160件</td> <td>(累計) 1400件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>240件</td> <td>(累計) 541件</td> <td>(累計) 913件</td> <td>(累計) 1356件</td> <td>(累計) 1871件</td> <td>(累計) 2398件</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">PubMedは、医学文献のデータベースであり世界の主要な医学系雑誌等に英語での掲載された文献を検索することが可能である。研究者の研究成果の情報発信は、論文の投稿での発表が中心であるため評価指標としては適切である。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎医学系教員育成数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H24 2名</td> <td>延べ4名</td> <td>延べ6名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ12名</td> <td>延べ14名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ5名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ13名</td> <td>延べ14名</td> <td>延べ15名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">研究医コース受講者数</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件	(累計) 1871件	(累計) 2398件	特記事項	PubMedは、医学文献のデータベースであり世界の主要な医学系雑誌等に英語での掲載された文献を検索することが可能である。研究者の研究成果の情報発信は、論文の投稿での発表が中心であるため評価指標としては適切である。							基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名	延べ14名	延べ15名	特記事項	研究医コース受講者数							<p>45</p> <p>(2)学生の自主的な研究活動に対する支援制度を引き続き運用する。</p>		<p>・学生が筆頭発表者として参加する学会参加旅費等を助成(7件)するとともに、学部研究生を受入研究指導を行った8教室に学生研究活動費として10万円を助成した。</p> <p>・学生研究活動成果発表会を実施し、優れた自主研究に対する学生2名に奨励金(図書カード5000円分)を交付した。</p> <p>・第8回西日本医学生学術フォーラム参加学生(4名)の旅費を助成した。</p> <p>以上のとおり、年度計画を十分実施した。</p>		<p>A</p>
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																									
PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件																																																								
	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件	(累計) 1871件	(累計) 2398件																																																								
	特記事項	PubMedは、医学文献のデータベースであり世界の主要な医学系雑誌等に英語での掲載された文献を検索することが可能である。研究者の研究成果の情報発信は、論文の投稿での発表が中心であるため評価指標としては適切である。																																																														
基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名																																																								
	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名	延べ14名	延べ15名																																																								
	特記事項	研究医コース受講者数																																																														
		<p>46</p> <p>(3)大学院進学を促進させるため、「未来への飛躍基金」を活用した入学者への奨学金貸与制度を大学ホームページ、募集要項等により積極的に周知し、運用する。</p>		<p>・本大学院医学研究科博士課程合格者に入学金を貸与する「大学院入学支援修学資金」及び基礎医学系若しくは、社会医学系の科目を選択した者に対して授業料を貸与する「基礎医学研究者確保修学資金」について、募集要項への掲載、入学手続き時の周知を行った。「大学院入学支援修学資金」を1名に貸与、「基礎医学研究者確保修学資金」については、新規2名より申請を受け付けた。併せて継続者11名にも貸与実施し、「未来への飛躍基金」を活用した貸与総額も昨年度より増加した。</p> <p>以上のとおり、年度計画を十分実施した。</p>		<p>A</p>																																																										

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価
	47 (4)研究推進戦略本部において、特別共同研究助成事業や若手研究者研究助成事業の募集、対象者決定、助成などを引き続き実施する。また、特別共同研究助成事業の成果発表会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の横断的研究を促進させるため特別共同研究（横断的共同研究）助成事業の募集をおこない（応募7件）、研究推進戦略本部会議で選考を行い、助成対象者を決定した（採択1件）。</li> <li>・若手人材育成を促進させるため若手研究者研究助成事業の募集をおこない（応募19件）、研究推進戦略本部会議で選考を行い、助成対象者を決定した（採択11件）。</li> <li>・特別共同研究助成事業において研究が終了した2研究課題について、11/6に研究成果発表会を開催した。</li> </ul> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にいき、年度計画を十分に実施した。</p>	A
	48 (5)女性研究者支援センターが中心となり、女性研究者の研究継続支援など女性研究者への支援、女性研究者支援に関する広報・啓発活動、女性研究者表彰制度、また、女性研究者科学研究費獲得支援事業を引き続き実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性研究者への研究支援員配置制度を継続して実施した。</li> <li>・教職員等の意識向上のため、FD・SD講演会（11/15）の他、臨床研修医や指導医に対してハラスメント研修会を実施した（11/3,2/6）。</li> <li>・女性研究者支援に関する広報・啓発として「まほろばだより」を4回発行した。</li> <li>・「女性研究者学術研究奨励賞」を継続実施した。</li> <li>・科学研究費助成事業に申請していない本学女性教員に対し、科学研究費獲得支援事業を個別にきめ細やかな周知を行い、希望者には獲得に向けて面談及び応募書類の添削指導を実施した。</li> </ul> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にいき、年度計画を十分に実施した。</p>	A



中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																		
				年度計画の実施状況及び評価理由		評価																																
<b>3 健康・予防医療等研究範囲の拡大</b> [中期目標] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する  [中期計画] MBT構想や奈良県健康長寿コホートスタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。  <取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3) ・奈良県健康長寿コホートスタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲: I-4)		49 (1)重点研究推進計画に定めた住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスの推進を含む重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理のうえ、推進する。		法人自己評価 年度計画の実施状況及び評価理由		評価																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">リビングサイエンスの推進</td> <td>指標</td> <td></td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td>・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、 MBTコンソーシアム研究会の設置</td> <td>・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催</td> <td>・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催</td> <td>・コホート研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの開催</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">県民への健康に関する周知については、成果発表会等のイベントにて体験や実感して頂くのが最も効果的で評価指標である。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	リビングサイエンスの推進	指標		新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討			実績		・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、 MBTコンソーシアム研究会の設置	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催	・コホート研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの開催	特記事項	県民への健康に関する周知については、成果発表会等のイベントにて体験や実感して頂くのが最も効果的で評価指標である。									・県民の健康増進を目的とした奈良県健康長寿大規模コホート研究について、9/4と10/5に学内成果報告会を行うとともに、研究推進戦略本部会議で研究成果を分析した。また県民への研究成果の還元として、奈良県健康長寿大規模コホート研究について、2/16に県民公開講座「くらしと医学」で研究成果を発表した。 ・血栓止血制御に関する研究については、今年度より血栓止血研究センターを立ち上げ、血栓止血研究センター運営委員会(5/28、6/26、7/26、8/7、2/5)で、今後の研究体制及び専任教員を決定した。その他、血栓止血先端医学講座、血友病教育講座(寄附講座)、血栓止血分子病態学講座(寄附講座)、血栓止血医薬生物学共同研究講座(共同研究講座)を設置した。 ・IVRに関する研究については、今年度よりIVR研究センターを立ち上げ、IVR研究センター運営委員会(6/7、1/31)で、今後の研究体制等を決定するとともに、動物用CTの設置及び技術補助員を配置した。 ・上記研究課題の他、超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)、良き医療人育成に関する研究や卒業医療人のキャリアパスに関する研究といった本学が重点研究推進計画に定めた重点研究課題についても、研究推進戦略本部会議で研究成果を分析した。 ・県民の健康や予防医療につながる、疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を研究開発する寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。 ・奈良先端科学技術大学院大学と相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高めるため、連携活性化委員会を設置し今後の連携体制を決定した。11/20には両学の研究者が研究内容の発表を行い、お互いの理解促進を深めた。  以上のとおり、各課題への取組を着実に進め、年度計画を上回って実施した。		S
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
リビングサイエンスの推進	指標		新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討																																	
	実績		・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、 MBTコンソーシアム研究会の設置	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催	・コホート研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの開催																														
	特記事項	県民への健康に関する周知については、成果発表会等のイベントにて体験や実感して頂くのが最も効果的で評価指標である。																																				

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	50 (2)コンソーシアム企業及び早稲田大学MBT研究所と連携してMBTに関する研究成果の周知を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MBTの研究成果の周知を図るため展示会等（はっつ！！神戸健康フェア（4/7）・「着物でジャズ、今井町」（5/13）・奈良県防災総合訓練展示会（8/5）・第1回医療ITEXPO東京（9/12-14）・奈良県立医科大学健康フェア2018（9/17）・けいはんなビジネスメッセ（10/4-5）・日経デジタルヘルスデイ2018（10/17-19）・くすりの町の漢方マルシェ（11/18）・日経セミナー（12/12）・イノベーションストリームKANSAI（12/19））に出展し研究成果を発表した。</li> <li>・「MBT記念シンポジウム」（9/19）・「MBTオープンミーティング2018in東京」（11/27）や「MBT技術交流会」（2/20）を開催し、本学の研究シーズや研究成果を広く全国に公表するとともに、中国老人医療福祉全国大会（上海6/18）でMBTの研究成果を世界にも発表・周知した。</li> <li>・研究成果等の報道は、県内外を問わず1年間33件に及んだ。</li> <li>・MBTコンソーシアム企業と連携協力し、6つの分野（①見守り支援、②ビックデータ活用、③スマートコミュニティ、④健康創造都市・健康創造産業、⑤MBT研究所産学連携、⑥産学官金フリーディスカッション）において、本学のシーズや企業ニーズの情報交換を行うと共に、MBTコンソーシアム会員企業8社と共同研究契約を締結し、MBTの研究を推進した。また、早稲田大学とは、共同で農林水産政策科学研究委託事業及び戦略的創造研究推進事業の外部資金を獲得し、地域への還元や地域企業等に役立つ共同研究を実施した。</li> <li>・その他、MBT研究所、自治体及びコンソーシアム会員企業と共に、理学療法士の指導による、主に着席したままの健康体操のほか、メタボや疲労度測定、貯筋のすすめと題してウォーキングと筋トレで若返りを目指す運動教室を開催（奈良市学園前、橿原市今井町、栃木県高根沢町）し、地域住民へ研究成果を還元した。</li> <li>・本学、自治体及びコンソーシアム会員企業によるMBTの研究成果の一つである「妊娠期・子育て支援サービス」の有用性を検討するため実証実験を実施した。</li> <li>・コンソーシアム会員企業等と共に、国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」に応募し、採択された。4月よりウェアラブル端末を使用し、住民一人ひとりのバイタルデータ等を収集・解析する実証実験を行う。</li> <li>・個別のニーズ相談体制については、広く一般企業も含めMBT相談体制の設置を行い産学官連携の強化を図った。</li> <li>・今後企業との活動の強化のための新たな拠点として、(株)タカトリ内に奈良県立医科大学産学官連携推進センター（MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所分室）を開設した。</li> <li>・MBT構想をより現実のものとするため、奈良医大発となる第1号大学発ベンチャー企業を認定し、見守りシステム等の開発を目指した。</li> </ul> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にを行い、年度計画を上回って実施した。</p>	S

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	51 (3)奈良県健康長寿大規模コホート研究の進捗状況を確認し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスの推進に向け研究を継続実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の健康や予防医療に繋がる奈良県健康長寿大規模コホート研究の成果報告会を9/4と10/5に開催し、研究推進戦略本部会議で研究成果を分析した。</li> <li>・県民への研究成果の還元として、奈良県健康長寿大規模コホート研究に関して、2/16に県民公開講座「くらしと医学」で健康増進に関する成果を発表した。</li> </ul> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にを行い、年度計画を十分に実施した。</p>	A

中期目標・中期計画		平成30年度計画							法人自己評価																																				
									年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																			
<b>4 研究環境の改善</b> 〔中期目標〕 ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する  〔中期計画〕 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。(再掲:Ⅱ-3)  〈取組内容〉 ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画検討 基本計画検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討				→	基本計画検討 基本計画検討・策定	特記事項								52 (1)将来像に掲げる研究理念を実現する場となる新キャンパスの研究施設について、前年度に引き続き、法人内及び県との意見交換・協議による整備内容の具体化とコンセンサス形成を進め、施設整備基本計画をまとめ上げる。							年度計画の実施状況及び評価理由 ・老朽かつ狭隘な施設への対策として、新キャンパスへの教育部門の移転について、先行整備を令和6年度中に完成し、医学科1年及び看護学科1年～4年を移転する計画が平成30年2月15日に県から示された。その結果、研究部門については継続整備として整備する予定であるが、現段階では県からスケジュールは示されていない。 ・より高いセキュリティが求められる研究施設を敷地の奥に配置するというゾーニング計画に基づき、研究棟2棟及び総合研究棟の配置を計画し、施設整備基本計画に盛り込んだ。 ・基礎医学教育協議会において新キャンパス整備の全体像及び先行整備の説明を行うとともに、継続整備における機能のあり方について検討を行った。 ・研究部門も含めた地区計画決定に向けて、県・市と協議しながら地元説明し理解を求めた。  県から研究部門の整備は継続整備で行うものと示されたため、施設整備基本計画に具体案を作成するに至らなかった。		B
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																					
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																																					
	実績		基本構想検討				→	基本計画検討 基本計画検討・策定																																					
	特記事項																																												

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																																																																																													
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																																												
IV診療																																																																																																															
1 医師・看護師等の離職防止と人材確保																																																																																																															
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する</li> <li>女性医師数35名を目指す(後期臨床研修医を除く)</li> <li>看護師の離職率を5%未満を目指す</li> <li>就業規則を見直す</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営</li> <li>短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し</li> </ul>	53	<p>(1)ワークライフバランス検討委員会を継続的に開催し、働きやすい職場環境づくりのための検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医師の働き方について、業務量調査等の結果分析を行い、課題を検討し、医師の負担軽減に向けて取り組み、女性医師数35名を達成する。</li> <li>超過勤務の縮減、タスクシフティング(業務の移管)等に向けて、課題を検討し、課題解決のために取り組み、看護師の業務負担の軽減を図り、働きやすい職場環境整備を実施し、看護師の離職率を低減させる。</li> </ul>	<p>ワークライフバランス検討委員会を開催し、働きやすい職場環境づくりを行い、医師・看護師等の離職防止及び人材確保を行うため、以下の内容を検討した。</p> <p>○医師の働き方に関するヒアリング結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医師の働き方については、昨年度に実施した本学附属病院に勤務する全医師に対する勤務実態調査結果をもとに、全医局に対する病院長ヒアリングを実施し、現状を改めて把握し、実施可能な取組を検討した。</li> <li>医師と看護師の業務負担軽減策として、医師については医師事務作業補助者5名、看護補助者8名を採用し、業務移管を積極的に推進した。</li> <li>医師の当直明け勤務の免除を目的とした交替制勤務を麻酔科において試行を継続し、課題の抽出及び課題解消に向けた取組について検討した。</li> </ul> <p>○職員の超過勤務状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>離職防止等の一環とし、超過勤務縮減に向けた取組を昨年度に引き続き、事務職、看護職、医療技術職の各所属において超過勤務縮減総括責任者及び超過勤務縮減実行責任者を選任し、所属ごとの超過勤務縮減計画を策定し、法人企画部長、病院経営部長、人事課によるヒアリングを実施(H30.7)した。</li> </ul> <p>○看護師の離職について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護部と協力し、看護師の離職理由を把握するとともに、日本看護協会が実施する調査における全国平均離職率と比較及び検討を行った。</li> </ul> <p>○女性医師を確保するための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女性が働きやすい環境構築の一環として、定員を現在の90名から150名に増員するため、保育園の増築に着手し、平成30年10月から供用を開始した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">女性医師数*</td> <td>指標</td> <td>H24 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>27名</td> <td>26名</td> <td>31名</td> <td>36名</td> <td>38名</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護師の離職率</td> <td>指標</td> <td>H23 7.49%</td> <td>7.0%</td> <td>6.5%</td> <td>6.0%</td> <td>5.5%</td> <td>5.0%</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H25 7.1%</td> <td>8.1%</td> <td>7.2%</td> <td>7.7%</td> <td>8.2%</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">           看護師の離職率については、平成29年度、全国平均10.7%、奈良県12.7%となっている。本学の離職率は指標には達していないものの、平均8%代で推移している。看護師の年間育児部分休業取得者数(※1)は年々増加しており、部分休業制度により柔軟な勤務体制が取れることで、産休や育休を取得した後、部分休業を取得し復職する看護師が多く(※2)、看護師離職理由第一位(厚生労働省看護職員就業状況等実態調査より)の「出産・育児のため」の退職者が少ないためであると考えられる。            ※1 (看護師:年間育児部分休業取得者数)H27:82名→H28:92名→H29:99名→H30:114名            ※2 H30.4.1~H31.3.31の間に産休又は育休を取得した者            産休/育休/休職 奈良医大 9.6%(のべ90/935人(H31.3.31時点))         </td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就業規則の見直し</td> <td>指標</td> <td></td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ワークライフバランス検討委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*女性医師数:女性の臨床系教員(中央部門含む)</p>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		27名	26名	31名	36名	38名	43名	特記事項								看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%	8.2%	9.6%	特記事項	看護師の離職率については、平成29年度、全国平均10.7%、奈良県12.7%となっている。本学の離職率は指標には達していないものの、平均8%代で推移している。看護師の年間育児部分休業取得者数(※1)は年々増加しており、部分休業制度により柔軟な勤務体制が取れることで、産休や育休を取得した後、部分休業を取得し復職する看護師が多く(※2)、看護師離職理由第一位(厚生労働省看護職員就業状況等実態調査より)の「出産・育児のため」の退職者が少ないためであると考えられる。 ※1 (看護師:年間育児部分休業取得者数)H27:82名→H28:92名→H29:99名→H30:114名 ※2 H30.4.1~H31.3.31の間に産休又は育休を取得した者 産休/育休/休職 奈良医大 9.6%(のべ90/935人(H31.3.31時点))							就業規則の見直し	指標		見直し						実績		検討中	実施				→	特記事項								ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→	実績		設置済	運営				→	特記事項										
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																								
女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																																																																																																							
	実績		27名	26名	31名	36名	38名	43名																																																																																																							
	特記事項																																																																																																														
看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%																																																																																																							
	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%	8.2%	9.6%																																																																																																							
	特記事項	看護師の離職率については、平成29年度、全国平均10.7%、奈良県12.7%となっている。本学の離職率は指標には達していないものの、平均8%代で推移している。看護師の年間育児部分休業取得者数(※1)は年々増加しており、部分休業制度により柔軟な勤務体制が取れることで、産休や育休を取得した後、部分休業を取得し復職する看護師が多く(※2)、看護師離職理由第一位(厚生労働省看護職員就業状況等実態調査より)の「出産・育児のため」の退職者が少ないためであると考えられる。 ※1 (看護師:年間育児部分休業取得者数)H27:82名→H28:92名→H29:99名→H30:114名 ※2 H30.4.1~H31.3.31の間に産休又は育休を取得した者 産休/育休/休職 奈良医大 9.6%(のべ90/935人(H31.3.31時点))																																																																																																													
就業規則の見直し	指標		見直し																																																																																																												
	実績		検討中	実施				→																																																																																																							
	特記事項																																																																																																														
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→																																																																																																							
	実績		設置済	運営				→																																																																																																							
	特記事項																																																																																																														

A

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																		
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																	
<p><b>2 がん拠点病院としての機能の充実</b></p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ倍増を目指す</li> <li>・がん治療の年間延べ患者数35,000名に対応する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度で専門的ながん医療の提供及び、がん医療に携わる人材の育成・確保</li> <li>・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働(再掲: I-7)</li> <li>・がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化</li> <li>・がん登録の推進</li> </ul>	<p>54</p> <p>(1)・がん看護外来の充実に努める。 ・緩和ケア地域連携カンファレンスの開催等、中核的な緩和ケアセンターとして引き続き運営する。 ・がん診療連携拠点病院等の指定要件の見直しについて国の動向を注視し、情報収集を行う。</p>	<p>・放射線療法に携わる看護師1名が「がん放射線療法看護認定看護師」の資格を取得した。 ・緩和ケアセンターの看護師1名が、国立がん研究センター主催の「がん患者の外見ケアに関する教育研修応用編」を受講した。 ・県内緩和ケア医療従事者を対象に研修会を開催しスキル向上を図るなど、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たした。(まほろばPEACE緩和ケア研修会1回 参加者65名) ・がん診療連携拠点病院等の指定要件の見直しに関する情報収集を行い、院内関連部署への周知及び県内のがん診療連携拠点病院等への情報提供を行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">がん治療件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 30,825件</td> <td>32,000件</td> <td>32,700件</td> <td>33,400件</td> <td>34,100件</td> <td>34,700件</td> <td>35,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>30,815件</td> <td>35,610件</td> <td>34,574件</td> <td>34,298件</td> <td>34,787件</td> <td>36,075件</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*放射線治療、化学療法の計</p>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件	34,787件	36,075件	特記事項								<p>55</p> <p>(2)・引き続きリニアック等の安定した運用を行う。 ・各種研修会の開催・受講等により、がん医療に携わる人材を育成する。 ・多職種連携によるチーム医療体制の充実に向けた取組を実施する。</p>	<p>・多職種が連携し、放射線療法に関する症例検討会を毎週開催することで、治療機器の安定した運用を行った。 ・県内医療従事者を対象とした各種研修会の開催により、人材育成を行った。(6回開催 138名参加) ・多職種連携による奈良県化学療法チーム研修会を開催(参加者15名)、またがんセンターボードを昨年度比1件増設(9件)し、チーム医療体制の充実を図った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件																												
	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件	34,787件	36,075件																												
	特記事項																																			
	<p>56</p> <p>(3)・院内がん登録の実施及び統計(2017年症例)の公表を行う。 ・県内の院内がん登録(2015年症例)の分析・評価を行い、結果を関係病院にフィードバックする。</p>	<p>・院内がん登録の実施及び統計(2017年症例)の公表を行った。 ・県内の拠点病院、支援病院から2015年症例のデータを収集し、5大がんのステージ別治療件数や施設別・部位別登録数の推移等の分析・評価を行った。結果を関係施設にフィードバックした。</p> <p>以上のとおり、計画を達成した。</p>	A																																	

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																																					
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																				
<p>3 治療成績の一層の向上</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>診療内容向上委員会を設置・運営する</li> <li>臨床指標(クリニカルインディケーター)を設定し、改善する</li> <li>臨床指標をホームページへ掲載し、毎年更新する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>診療の質と量に対する現状分析と一層の向上を検討する(仮称)診療内容向上委員会の設置・運営</li> <li>臨床指標の設定と管理及び、ホームページへの掲載と更新</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td>設置</td> <td>運営実績報告</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>7月1日設置</td> <td>運営(臨床指標決定)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">臨床指標の設定・公表</td> <td>指標</td> <td>設定・公表</td> <td>公表継続数値改善</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>設定10月1日公表</td> <td>設定10月1日公表</td> <td>設定10月1日公表</td> <td>設定10月1日公表</td> <td>設定3月26日公表</td> <td>設定3月28日公表</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容向上委員会の設置・運営	指標	設置	運営実績報告				→	実績	7月1日設置	運営(臨床指標決定)				→	特記事項							臨床指標の設定・公表	指標	設定・公表	公表継続数値改善				→	実績	設定10月1日公表	設定10月1日公表	設定10月1日公表	設定10月1日公表	設定3月26日公表	設定3月28日公表	特記事項							<p>57</p> <p>(1)・継続して臨床指標の集計及び他院とのベンチマーク等で現状分析を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点改善項目(2項目)について、モニタリングを開始し、取組を進める。(高度医療評価制度・先進医療診療実施数、指導医数)</li> <li>重点改善項目の追加を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各指標のベンチマークを行いホームページに掲載した。</li> <li>重点改善項目(2項目)についてモニタリングを開始した。同項目については、次年度も引き続き、改善に向けた取り組みを進めることとした。</li> <li>平成30年度臨床指標のベンチマークを行い、「褥瘡発生率」を重点改善項目に追加した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																
診療内容向上委員会の設置・運営	指標	設置	運営実績報告				→																																																
	実績	7月1日設置	運営(臨床指標決定)				→																																																
	特記事項																																																						
臨床指標の設定・公表	指標	設定・公表	公表継続数値改善				→																																																
	実績	設定10月1日公表	設定10月1日公表	設定10月1日公表	設定10月1日公表	設定3月26日公表	設定3月28日公表																																																
	特記事項																																																						

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																																																																																	
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																																
<b>4 患者満足の一層の向上</b> 〔中期目標〕 ・ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する ・入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する ・診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す  〔中期計画〕 医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。  〈取組内容〉 ・ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営 ・患者満足度調査、声のポスト等による患者意見の病院運営への反映 ・職員を対象としたコミュニケーション研修の実施 ・ハード・ソフト(総合案内、誘導案内、ボランティアによる親切な案内の実施等)両面にわたる患者の視点にたったアメニティづくり		58	(1)・患者意見を反映するため、引き続きホスピタリティマインド向上委員会を運営する。  ・受講者アンケートの結果等を踏まえ、研修内容を検証することで、効果的なホスピタリティマインド醸成研修を開催する。	・ホスピタリティマインド向上委員会で診察待ち時間等について検討し、医療費後払いサービスを開始した。  ・ホスピタリティマインド醸成研修会を18回(参加者841名)開催した。受講者のアンケートに基づく講師と議題にしたことにより「仕事に活かせそう」「理解できた」の割合が昨年度比4%アップし59%に上昇した。  以上のことから、年度計画を十分実施した。	A																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容に満足している患者の割合</td> <td>指標 H23 約90%</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>90%以上</td> <td>入院91.5% 外来96.6%</td> <td>入院92.1% 外来96.5%</td> <td>入院92.8% 外来97.0%</td> <td>入院93.4% 外来96.7%</td> <td>入院90.6% 外来97.4%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6">アンケート調査の結果診療面全般について満足している患者の割合は、入院90.6%、外来97.4%であり目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合</td> <td>指標 H23 35.3%</td> <td>35%</td> <td>34%</td> <td>33%</td> <td>32%</td> <td>31%</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>33.4%</td> <td>30.1%</td> <td>31.4%</td> <td>29.3%</td> <td>29.3%</td> <td>31.9%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6">外来患者数は平成25年度以来、平成28年度を除き右肩上がりに増加傾向にあり平成30年度の外来患者数は573,559人で対前年度比2.76%の増であった。調査日は2,827人と前年度調査日の2,576人から9.74%と大幅な増加で待ち時間を長いと感じる患者数が多くなったものとみられる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>設置</td> <td>ホスピタリティマインド向上委員会開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td>指標</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>研修体系の検討</td> <td>ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容に満足している患者の割合	指標 H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	実績	90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%	入院93.4% 外来96.7%	入院90.6% 外来97.4%	特記事項	アンケート調査の結果診療面全般について満足している患者の割合は、入院90.6%、外来97.4%であり目標を達成している。						診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標 H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	30%	実績	33.4%	30.1%	31.4%	29.3%	29.3%	31.9%	特記事項	外来患者数は平成25年度以来、平成28年度を除き右肩上がりに増加傾向にあり平成30年度の外来患者数は573,559人で対前年度比2.76%の増であった。調査日は2,827人と前年度調査日の2,576人から9.74%と大幅な増加で待ち時間を長いと感じる患者数が多くなったものとみられる。						ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標	設置	運営				→	実績	設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催				→	特記事項							ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標	実施					→	実績	研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施				→	特記事項							59	(2)・患者アメニティの向上を図るため、引き続き状況を調査し、優先順位を考え改修の立案を行う。  ・案内業務の充実と質の向上については、引き続き公開研修を実施し、また内容については声のポスト等からの患者の意見を反映させる。	○施設改修工事 ・A棟1階の5診療科の外来受付カウンター改修など、患者アメニティ向上のための施設改修工事を実施した。また廊下改修は次年度実施の予定である。  ○案内業務の充実と質の向上 ・医事委託業者の研修として10月及び2月に公開接遇研修を実施した。また、患者の意見を基にした研修については、医事委託業者社員の受付担当を対象とする定例勉強会を毎月1回開催した。以後も同様に開催を予定している。 ・患者への説明・案内用フロアマップのリニューアルを行い、院内各所の案内に設置した。  ○患者満足度調査の実施 ・外来患者向け及び入院患者向けに12月にアンケート方式で実施した。調査項目を入退院支援センターの開設等を踏まえ追加・見直しを実施した。2月に調査結果が報告された。  ○患者の満足度向上に向けた取組 ・長時間会計待ち患者の解消に向け運用体制を見直し対前年に比べ大幅な改善を達成した。 ・調剤待ち患者への対応として、カフェ及びレストランに調剤待ち表示板を増設した。 ・声のポストによる患者からの意見を踏まえ、料金自動支払機の起動時刻を前倒した。 ・院内でより快適に過ごしてもらえるよう、待合スペースに有線放送を導入した。 ・今後も、声のポストによる患者からの意見や外来・入院患者の現況を踏まえ、患者満足度向上に向けた取組を継続する。  以上のことから、年度計画を十分実施した。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																														
診療内容に満足している患者の割合	指標 H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上																																																																																														
	実績	90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%	入院93.4% 外来96.7%	入院90.6% 外来97.4%																																																																																														
	特記事項	アンケート調査の結果診療面全般について満足している患者の割合は、入院90.6%、外来97.4%であり目標を達成している。																																																																																																			
診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標 H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	30%																																																																																														
	実績	33.4%	30.1%	31.4%	29.3%	29.3%	31.9%																																																																																														
	特記事項	外来患者数は平成25年度以来、平成28年度を除き右肩上がりに増加傾向にあり平成30年度の外来患者数は573,559人で対前年度比2.76%の増であった。調査日は2,827人と前年度調査日の2,576人から9.74%と大幅な増加で待ち時間を長いと感じる患者数が多くなったものとみられる。																																																																																																			
ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標	設置	運営				→																																																																																														
	実績	設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催				→																																																																																														
	特記事項																																																																																																				
ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標	実施					→																																																																																														
	実績	研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施				→																																																																																														
	特記事項																																																																																																				



中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	60 (3)デジタル案内板等による医大病院線のバス運行の周知等、バスの利用促進に向けた取組を積極的に行い、患者の病院への利便性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月のアンケート調査によりバスの認知度が60%に止まっていることが解った。ポスター掲示に加えデジタルサイネージ等での広報を行うことでバス運行の周知を行い、来院者の病院への利便性向上を図った。</li> <li>1月に再度アンケートを行った結果、認知度が約10%アップの70%に上昇すると共にバス利用率が約20%アップの44%に上昇した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A
	61 (4)・患者満足度向上のため、入院時の患者説明、患者情報収集を入退院管理センターに集約する取組をモデル診療科で実施する。 ・モデル診療科での試行により、問題点をフィードバックし、実施方法の検討・改善を行って本格実施体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時の患者説明、患者情報収集を集約する取組をモデル診療科4科を対象に開始した。</li> <li>・試行結果について、患者及びモデル診療科の医師・看護師等へのアンケートを実施し、その結果から課題を抽出、本格稼働に向け、検討と改善を図った。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分実施した。</p>	A

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																																							
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																						
<p>5 老朽・狭隘施設への対策</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</li> <li>・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)中央手術棟の完成と運営</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)</li> <li>・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進</li> <li>・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手</li> </ul> <table border="1" data-bbox="136 635 943 976"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)中央手術棟の整備</td> <td>指標</td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td>第2期竣工</td> <td>フルオープン運営・機能充実</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>第2期竣工フルオープン</td> <td>E棟の運営</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備</td> <td>指標</td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>基本構想検討</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>老朽施設設計</td> <td>老朽施設設計</td> <td>工事着手</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)中央手術棟の整備	指標	第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実	→	→	実績	第1期オープン	→	→	第2期竣工フルオープン	E棟の運営	→	特記事項								教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績	基本構想検討	→	→	老朽施設設計	老朽施設設計	工事着手	特記事項								<p>62</p> <p>(1)将来像に掲げる教育・研究・診療それぞれの理念を実現する場となる新キャンパス施設及び現キャンパスにおける先行整備施設について、前年度に引き続き、法人内及び県との意見交換・協議による整備内容の具体化とコンセンサス形成を進め、施設整備基本計画をまとめ上げる。</p>	<p>・老朽かつ狭隘な施設への対策として、新キャンパスへの教育部門の移転について、先行整備を令和6年度中に完成し、医学科1年及び看護学科1年～4年を移転する計画が県から示された。</p> <p>・研究部門については継続整備にて整備することとされた。</p> <p>・耐震に問題がある施設(医局棟など)について、耐震改修などを検討するとともに、新外来棟の前倒し建設についても検討を行った。</p> <p>新キャンパス及び現キャンパスの先行整備について、検討を行ったものの施設整備基本計画に具体案を作成するに至らなかった。</p>	B
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																		
(仮称)中央手術棟の整備	指標	第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実	→	→																																																		
	実績	第1期オープン	→	→	第2期竣工フルオープン	E棟の運営	→																																																		
	特記事項																																																								
教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																																																		
	実績	基本構想検討	→	→	老朽施設設計	老朽施設設計	工事着手																																																		
	特記事項																																																								
	<p>63</p> <p>(2)・臨床医学研究棟の仮移転先であるA棟等の工事に着手する。</p> <p>・新A棟をはじめとする現キャンパスにおける附属病院施設の整備に関して、来院者の利便性を欠き、周辺交通渋滞の原因にもなっている患者用駐車場を先行整備するため、整備内容を検討・具体化し、新キャンパスの施設整備基本計画に含めてまとめ上げる。</p>	<p>・A棟改修工事については、建築・電気工事は平成30年7月11日に契約。機械工事について入札が不調等により、平成30年9月10日に契約。</p> <p>・大阪北部地震の影響を受け、老朽化が著しい臨床医学研究棟からの早期待避を図るため、A棟改修工事の工程を変更し、一時待避を図りながら、工事に着手した。</p> <p>・患者用駐車場の配置や動線について、現駐車場より多くの車を停めることのできる計画案を作成し検討を行ったが、耐震問題の対応のため検討途上となっている。</p> <p>A棟について工事に着手し計画を達成したが、現キャンパスにおける患者用駐車場について、検討途上となった。</p>	B																																																						

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																		
Vまちづくり 1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備 【中期目標】 ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する 【中期計画】 平成33年中の新キャンパスオープンを目指す、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。 <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討				→	基本計画検討・策定	特記事項								64 (1)将来像に掲げる理念を実現する場となる新キャンパスの教育・研究施設について、前年度に引き続き、法人内及び県との意見交換・協議による整備内容の具体化とコンセンサス形成を進め、施設整備基本計画をまとめ上げる。	法人自己評価 年度計画の実施状況及び評価理由 ・老朽かつ狭隘な施設への対策として、新キャンパスへの教育部門の移転について、先行整備を令和6年度中に完成し、医学科1年及び看護学科1年～4年を移転する計画が県から示された。 ・研究部門については継続整備にて整備することとされた。 ・3/20 役員会にて新キャンパス整備基本計画書(案)について審議・承認された。 ・「藤原京」をモチーフにしながら、畝傍山などへの眺望を確保し、また、歴史的計画の保全や活用を取り入れたキャンパス整備を目指すことにより、地域と調和した空間づくりを行うこととした。 ・キャンパス内を東西・南北に貫く道路を整備し、住民の方に自由に散歩や農作業に利用できるようにするとともに、外周に道路を整備し、地元住民の方の利便向上に貢献する整備内容とした。 以上のおり、法人内及び県とのコンセンサスを形成の上、教育の施設整備基本計画をまとめあげたが、研究部門が継続整備となったことから、施設整備基本計画に盛り込めなかった。	B
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																													
	実績		基本構想検討				→	基本計画検討・策定																													
	特記事項																																				

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																				
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																			
<p>2 地域に開かれたキャンパスづくり</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3)</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)</li> </ul> <table border="1" data-bbox="136 549 936 759"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画検討</td> <td>基本計画検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→	基本計画検討	基本計画検討・策定	特記事項								65	<p>(1)地域交流施設をはじめとする新キャンパスの諸施設について、県民への開放を踏まえた観点で、前年度に引き続き、法人内及び県との意見交換・協議による整備内容の具体化とコンセンサス形成を進め、施設整備基本計画をまとめ上げる。</p>	<p>・老朽かつ狭隘な施設への対策として、新キャンパスへの教育部門の移転について、先行整備を令和6年度中に完成し、医学科1年及び看護学科1年～4年を移転する計画が県から示された。</p> <p>・3/20 役員会にて新キャンパス整備基本計画書(案)について審議・承認された。</p> <p>・新キャンパス内に図書館や食堂・コンビニ・書店を整備し、学生・職員だけでなく広く県民に開放する計画とした。</p> <p>・「憩いの広場」を設け、県民と学生が交流する場を設ける計画とした。</p> <p>・約600名収容の講堂や約250名収容の講義室を設け、公開講座などを開催できる環境の計画とした。</p> <p>・継続整備において、交流施設を整備し、広く県民に開放する計画とした。</p> <p>以上のとおり、法人内及び県とのコンセンサスを形成の上、施設整備基本計画をまとめあげており、計画は達成できた。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																														
	実績		基本構想検討			→	基本計画検討	基本計画検討・策定																														
	特記事項																																					

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																		
<p><b>3 教育・研究部門等移転後の跡地活用</b></p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</li> <li>・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進めるMBT構想を踏まえ、県と市のまちづくりのグランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)</li> <li>・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進(再掲:Ⅳ-5)</li> <li>・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手(再掲:Ⅳ-5)</li> </ul>	<p>66</p> <p>(1)将来像に掲げる教育・研究・診療それぞれの理念を実現する場となる新キャンパス施設及び現キャンパスにおける先行整備施設について、県・橿原市が進めるまちづくりの内容・動向にも留意しつつ、前年度に引き続き、法人内及び県との意見交換・協議による整備内容の具体化とコンセンサス形成を進め、施設整備基本計画をまとめ上げる。</p>	<p>・老朽かつ狭隘な施設への対策として、新キャンパスへの教育部門の移転について、先行整備を令和6年度中に完成し、医学科1年及び看護学科1年～4年を移転する計画が県から示された。</p> <p>・研究部門については継続整備にて整備することとされた。</p> <p>・耐震に問題がある施設（医局棟など）について、耐震改修などを検討するとともに、新外来棟の前倒し建設についても検討を行った。</p> <p>新キャンパス及び現キャンパスの先行整備について、検討を行ったものの施設整備基本計画に具体案を作成するに至らなかった。</p>	B																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:Ⅳ-5)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>老朽施設設計</td> <td>工事着手</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:Ⅳ-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績		基本構想検討			→	老朽施設設計	工事着手	特記事項								<p>67</p> <p>(2)・臨床医学研究棟の仮移転先であるA棟等の工事に着手する。(再掲Ⅳ-5)</p> <p>・新A棟をはじめとする現キャンパスにおける附属病院施設の整備に関して、来院者の利便性を欠き、周辺交通渋滞の原因にもなっている患者用駐車場を先行整備するため、整備内容を検討・具体化し、新キャンパスの施設整備基本計画に含めてまとめ上げる。(再掲Ⅳ-5)</p> <p>・県・橿原市・本学が「医大・周辺まちづくりプロジェクト調整会議」を定期的開催し、まちづくりに向けた情報共有・調整を進めることにより、大和高田バイパス南側エリアにおけるまちづくりに参画する。</p>	<p>・A棟改修工事については、入札を行い建築・電気JVは平成30年7月11日に契約。機械JVについては入札が不調であったため再公告を行い、平成30年9月10日に契約。</p> <p>・大阪北部地震の影響を受け、老朽化が著しい臨床医学研究棟からの早期待避を図るため、A棟改修工事の工程を変更し、臨床医学研究棟からの一時待避を図りながら、工事に着手した。</p> <p>・患者用駐車場の配置や動線について、現駐車場より多くの車を停めることの出来る計画案を作成し検討を行ったが、耐震問題の対応のため検討途上となっている。</p> <p>・医大・周辺まちづくりプロジェクト調整会議（7/11、2/1、3/28）に出席し、バイパス南側のまちづくりについて検討を行った。</p> <p>A棟について工事に着手し計画を達成したが、現キャンパスにおける患者用駐車場について、検討途上となった。</p>	B
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:Ⅳ-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																													
	実績		基本構想検討			→	老朽施設設計	工事着手																													
	特記事項																																				

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																																						
				年度計画の実施状況及び評価理由																																																						
<p>4 移転を契機とした研究分野での地域貢献</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する</li> <li>(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する</li> <li>住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)</li> <li>研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</li> <li>漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営(再掲: I-3)</li> <li>「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)</li> </ul>		<p>68 (1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理のうえ、推進する。</p>		<p>・重点研究課題の研究成果を確認するため、研究推進戦略本部会議を11回開催した。また、キャンパス移転を見据えた基礎医学等の研究室の配置転換を行うとともに、産学官連携を推進するため産学連携推進費を見直した。</p> <p>・血栓止血制御に関する研究については、今年度より血栓止血研究センターを立ち上げ、血栓止血研究センター運営委員会(5/8,6/26,7/26,8/7,2/5)で、今後の研究体制及び専任教員を決定した。またその他、血栓止血先端医学講座、血友病教育講座(寄附講座)、血栓止血分子病態学講座(寄附講座)、血栓止血医薬生物学共同研究講座(共同研究講座)を設置した。</p> <p>・I V Rに関する研究については、今年度よりI V R研究センターを立ち上げ、I V R研究センター運営委員会(6/7,1/31)で今後の研究体制等を決定するとともに、動物用C Tの設置及び技術補助員を配置した。</p> <p>・上記以外の取組として、県民への研究成果の還元として、奈良県健康長寿大規模コホート研究について、2/16に県民公開講座「くらしと医学」で研究成果を発表した。</p> <p>・疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を開発するため、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。</p> <p>・奈良先端科学技術大学院大学と相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高めるため、連携活性化委員会を設置し今後の連携体制を決定した。11/20には両学の研究者が研究内容の発表を行い、お互いの理解促進を深めた。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にを行い、年度計画を上回って実施した。</p>		S																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td>評価項目の検討</td> <td>外部有識者を含む評価委員会の運営</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td>エビデンスの確立</td> <td>→</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 第4回MBTコロキウムの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6">・地域貢献としての評価指標として、講習会・セミナーの開催の実績目標は、成果発表として件数を把握しやすい。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標	設置	運営				→	実績	H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	外部有識者を含む評価委員会の運営	特記事項							住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標	エビデンスの確立	→	講習会等の実施			→	実績	漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 第4回MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催	特記事項	・地域貢献としての評価指標として、講習会・セミナーの開催の実績目標は、成果発表として件数を把握しやすい。						<p>69 (2)教育・研究部門の移転に伴う研究分野の一層の充実・発展のため、研究に関する評価委員会を運営し、研究成果の見える化について外部有識者を交え議論する。</p>		<p>・研究分野の一層の充実・発展を図るため、学外有識者を含む研究評価委員会を11/1,2/7に開催し、「研究成果の見える化」を目指し、大学としての研究力、特色ある分野、学内の共同研究グループの研究評価・分析をした。</p> <p>・研究者ごとの論文業績等研究データの蓄積のため、本学の助教以上の教員について、研究者情報データベースへの入力完成了。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実にを行い、年度計画を十分に実施した。</p>		A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																			
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標	設置	運営				→																																																			
	実績	H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	外部有識者を含む評価委員会の運営																																																			
	特記事項																																																									
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標	エビデンスの確立	→	講習会等の実施			→																																																			
	実績	漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 第4回MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催																																																			
	特記事項	・地域貢献としての評価指標として、講習会・セミナーの開催の実績目標は、成果発表として件数を把握しやすい。																																																								
		<p>70 (3)大和漢方医学薬学センターを運営し、本学の医師・薬剤師・医学生に対する教育・研究・診療を推進する。</p>		<p>・研究分野での地域貢献を図るため、教育・人材育成分野については、東洋医学に関する講義を医学生に対し行う(4回11コマ)。毎週月曜日に指導医による教育外来を実施し、今年度については、新たに臨床研究センターと共同で臨床医向けの漢方勉強会(12/3)を開催し将来の人材育成を行った。研究分野に関しては、漢方に関しての受託研究を企業と契約締結し研究を進めた(2件)。地域医療者への研修・普及を目的として、医師・歯科医師・薬剤師向けの漢方に関するセミナー(①4/12,②7/26,③10/11,④2/7)の計4回を実施するとともに、2/17については、実技編として漢方講義も行った。また奈良県が進める漢方のメッカ推進プロジェクト検討会にも参画し県民に対して啓発普及に努めた。</p> <p>以上のとおり、各課題への対応は着実に進んでいる。また研究成果への還元のため来年度も新たに企業等との漢方に関しての受託研究の契約も進んでおり、年度計画を十分に実施した。</p>		A																																																				

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	71	<p>(4)早稲田大学MBT研究所や企業とMBTに関する共同研究を継続するとともに、MBTコンソーシアム企業に対して医学情報・知識を提供し、MBTに関する諸事業を実施する。</p>	<p>・大和当帰を用いた園芸療法等の研究（農林水産政策科学研究委託事業）及び今井町でのまちなか医療の展開と景観の保全についての研究（戦略的創造研究推進事業）を早稲田大学と共同で実施した。また、MBTコンソーシアム企業と連携協力し、6つの分野（①見守り支援、②ビックデータ活用、③スマートコミュニティ、④健康創造都市・健康創造産業、⑤MBT研究所産学連携、⑥産学官金フリーディスカッション）において、本学のシーズや企業ニーズの情報交換を行うと共に、MBTコンソーシアム会員企業8社と共同研究契約を締結し、MBTの研究を推進した。</p> <p>・その他、MBT研究所、自治体及びコンソーシアム会員企業と共に、理学療法士の指導による、主に着席したままの健康体操のほか、メタボや疲労度測定、貯筋のすすめと題してウォーキングと筋トレで若返りを目指す運動教室を開催（奈良市学園前・橿原市今井町、栃木県高根沢町）し、地域住民へ研究成果を還元した。</p> <p>・本学、自治体及びコンソーシアム会員企業によるMBTの研究成果の一つである「妊娠期・子育て支援サービス」の有用性を検討するため実証実験を実施するとともに、コンソーシアム会員企業等と共に、国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」に応募し、採択された。4月よりウェアラブル端末を使用し、住民一人ひとりのバイタルデータ等を収集・解析する実証実験を行う。</p> <p>・MBTの研究成果を展示会等（はっと！！神戸健康フェア（4/7）・「着物でジャズ、今井町」（5/13）・奈良県防災総合訓練展示会（8/5）・第1回医療ITEXPO東京（9/12-14）・奈良県立医科大学健康フェア2018（9/17）・けいはんなビジネスメッセ（10/4-5）・日経デジタルヘルスディ2018（10/17-19）・くすりの町の漢方マルシェ（11/18）・日経セミナー（12/12）・イノベーションストリームKANSAI（12/19））に出展し研究成果の発表を広く行い周知した。</p> <p>・「MBT記念シンポジウム」（9/19）・「MBTオープンミーティング2018in東京」（11/27）や「MBT技術交流会」（2/20）を開催し、本学の研究シーズや研究成果を広く全国に公表するとともに、中国老人医療福祉全国大会（上海6/18）でMBTの研究成果を世界にも発表・周知した。</p> <p>・個別のニーズ相談体制については、広く一般企業も含めMBT相談体制の設置を行い産学官連携の強化を図った。</p> <p>・今後企業との活動の強化のための新たな拠点として、（株）タカトリ内に奈良県立医科大学産学官連携推進センター（MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所分室）を開設した。</p> <p>・MBT構想をより現実のものとするため、奈良医大発となる第1号大学発ベンチャー企業を認定し、見守りシステム等の開発を目指した。</p> <p>以上のとおり、各課題への対応は着実に進んでおり年度計画を上回って実施した。</p>	S

中期目標・中期計画		平成30年度計画		法人自己評価																																
				年度計画の実施状況及び評価理由																																
<p>5 健康づくり・予防医療等への貢献</p> <p>〔中期目標〕</p> <p>・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する</p> <p>〔中期計画〕</p> <p>MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。(再掲:Ⅲ-3)</p> <p>〈取組内容〉</p> <p>・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲:Ⅰ-3)</p> <p>・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲:Ⅰ-3)</p> <p>・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホースタディ)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲:Ⅰ-4)</p>		<p>72</p> <p>(1)重点研究推進計画に定めた住民の健康づくりやリビングサイエンスの推進を含む重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理のうえ、推進する。</p>		<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評価理由</p> <p>評定</p>																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)</td> <td>指標</td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究モデルケースに選定</td> <td>・コホースタディに関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td>・コホースタディ研究の公募・採択、研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定</td> <td>・コホースタディ研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催</td> <td>・コホースタディ研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催</td> <td>・コホースタディ研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの開催</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">大学が行う地域貢献に対する支援について、成果発表会等を通じて貢献するのが最も効果的な評価指標である。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討	→			実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究モデルケースに選定	・コホースタディに関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホースタディ研究の公募・採択、研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホースタディ研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホースタディ研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催	・コホースタディ研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの開催	特記事項	大学が行う地域貢献に対する支援について、成果発表会等を通じて貢献するのが最も効果的な評価指標である。									<p>・住民の健康増進を目的とした奈良県健康長寿大規模コホースタディ研究については、9/4と10/5の学内成果報告会で発表するとともに、研究推進戦略本部会議で研究成果を分析した。</p> <p>・上記研究課題のほか、血栓止血制御に関する研究、IVRに関する研究、超高齢社会のためのMBT（医学を基礎とするまちづくり）、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究といった本学が重点研究推進計画に定めた重点研究課題についても、研究推進戦略本部会議で、研究成果を確認した。</p> <p>・その他の活動としては、地域住民への健康づくりのため、「着物でジャズ、今井町」、「奈良医大健康フェア2018」において、メタボや笑顔測定などの健康ブースを出展すると共に、自治体、MBTコンソーシアム会員企業と共に生活習慣病予防、運動の意識改善を目的とした運動教室を開催し（奈良市学園前、橿原市今井町、栃木県高根沢町）、MBTの研究成果を還元した。</p> <p>・県民への研究成果の還元として、奈良県健康長寿大規模コホースタディ研究について、2/16に県民公開講座「くらしと医学」で研究成果を発表した。</p> <p>・疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を開発するため、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。また、企業と共同で血栓止血医薬生物学共同研究講座を設置した。</p> <p>・奈良先端科学技術大学院大学と相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高めるため、連携活性化委員会を設置し今後の研究体制等を決定した。11/20には両学の研究者が研究内容の発表を行い、お互いの理解促進を深めた。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実に進め、年度計画を上回って実施した。</p>	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討	→																															
	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究モデルケースに選定	・コホースタディに関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホースタディ研究の公募・採択、研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホースタディ研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホースタディ研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催	・コホースタディ研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの開催																													
	特記事項	大学が行う地域貢献に対する支援について、成果発表会等を通じて貢献するのが最も効果的な評価指標である。																																		



中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価	
	73	(2)県民が身近に感じる健康をテーマにイベントを実施することで、MBTに関する事業の周知を継続する。	<p>・MBTの研究成果を地域住民に還元するため、自治体及びコンソーシアム会員企業と共に、理学療法士の指導による、主に着席したままの健康体操のほか、メタボや疲労度測定、貯筋のすすめと題してウォーキングと筋トレで若返りを目指す運動教室を開催した。(奈良市学園前、橿原市今井町、橿原市高根沢町)</p> <p>また、「奈良医大健康フェア2018」、「着物でジャズ、今井町」に参画し健康相談を中心としたMBTの研究成果を還元した。</p> <p>・MBTコンソーシアム企業と連携協力し、6つの分野(①見守り支援、②ビックデータ活用、③スマートコミュニティ、④健康創造都市・健康創造産業、⑤MBT研究所産学連携、⑥産学官金フリーディスカッション)において、本学のシーズや企業ニーズの情報交換を行うと共に、MBTコンソーシアム会員企業8社と共同研究契約を締結し、MBTの研究を推進した。また、早稲田大学とは、共同で農林水産政策科学研究委託事業及び戦略的創造研究推進事業の外部資金を獲得し、地域への還元や地域企業等に役立つ共同研究を実施した。</p> <p>・本学、自治体及びコンソーシアム会員企業によるMBTの研究成果の一つである「妊娠期・子育て支援サービス」の有用性を検討するため実証実験を実施した。</p> <p>・コンソーシアム会員企業等と共に、国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」に応募し、採択された。4月よりウェアラブル端末を使用し、住民一人ひとりのバイタルデータ等を収集・解析する実証実験を行う。</p> <p>・その他の活動としては、MBTの研究成果を展示会等(はっとう!!神戸健康フェア(4/7)・「着物でジャズ、今井町」(5/13)・奈良県防災総合訓練展示会(8/5)・第1回医療ITEXPO東京(9/12-14)・奈良県立医科大学健康フェア2018(9/17)・けいはんなビジネスメッセ(10/4-5)・日経デジタルヘルスディ2018(10/17-19)・くすりの町の漢方マルシェ(11/18)・日経セミナー(12/12)・イノベーションストリームKANSAI(12/19))に出展し研究成果の発表を行い周知した。</p> <p>・「MBT記念シンポジウム」(9/19)・「MBTオープンミーティング2018in東京」(11/27)や「MBT技術交流会」(2/20)を開催し、本学の研究シーズや研究成果を広く全国に公表するとともに、中国老人医療福祉全国大会(上海6/18)でMBTの研究成果を世界にも発表・周知した。</p> <p>・個別のニーズ相談体制については、広く一般企業も含めMBT相談体制の設置を行い産学官連携の強化を図った。</p> <p>・今後企業との活動の強化のための新たな拠点として、(株)タカトリ内に奈良県立医科大学産学官連携推進センター(MBT(医学を基礎とするまちづくり)研究所分室)を開設した。</p> <p>・MBT構想をより現実のものとするため、奈良医大発となる第1号大学発ベンチャー企業を認定し、見守りシステム等の開発を目指した。</p> <p>以上のとおり、各課題への対応は着実に進んでおり年度計画を上回って実施した。</p>	S
	74	(3)奈良県健康長寿大規模コホート研究の進捗状況を確認し、住民の健康づくりやリビングサイエンスの推進に向け研究を継続実施する。	<p>・奈良県健康長寿大規模コホート研究の課題の成果報告会を9/4と10/5に開催した。また、研究推進戦略本部会議で研究成果を評価し、今後の進め方を決定した。</p> <p>・リビングサイエンスの推進に向けた、県民への研究成果の還元のため、奈良県健康長寿大規模コホート研究について、2/16に県民公開講座「くらしと医学」で健康増進に関する成果を発表した。</p> <p>以上のとおり、各課題への取組を着実に進め、年度計画を十分に実施した。</p>	A

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																															
<b>VI 法人運営</b> <b>1 ガバナンス体制の充実強化</b> [中期目標] ・評価委員会の全体評価で好成績をあげる [中期計画] 中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。 <取組内容> ・全教職員による法人の方針の共有と法人運営に対する意識醸成 ・中期計画の着実な実行のための進捗管理の実施 ・法人の取組みの情報発信 ・職員の確保と資質の向上に向けた取組(SD等)の実施																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">評価委員会の評価</td> <td>指標</td> <td>常に評価結果を高い水準で維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>項目別評価 IV:7 III:1</td> <td>項目別評価 IV:6 III:2</td> <td>項目別評価 IV:8</td> <td>項目別評価 IV:7 III:1</td> <td>96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)</td> <td>93.0% 達成 (評定A以上: 80/86項目)</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持					→	実績	項目別評価 IV:7 III:1	項目別評価 IV:6 III:2	項目別評価 IV:8	項目別評価 IV:7 III:1	96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)	93.0% 達成 (評定A以上: 80/86項目)	特記事項							75 (1)・職位別研修において、行動規範の徹底、法人の方針の周知を目的とした内容の研修をメニューに加えて実施する。 ・帰属意識の醸成を更に図るため、ユニフォームの刺繍を拡充する等シンボルマークの浸透を図る。	・将来像の「求める教職員像」の実現のため、昨年度構築した人材育成体系に基づき、職位別研修や能力開発研修等により全教職員が法人の運営方針等を共有し、一丸となって業務に取り組むことができるように育成を実施。 9月：4回（ロジカルシンキング研修、メンター研修、コーチング研修等） 10月：1回（チームビルディング研修） 11月：3回（統計基礎研修、分析力研修、ハラスメント研修） 12月：2回（マニュアル作成、ハラスメント研修） 1月：1回（労務管理研修） その他：12回（PC（EXCEL等）研修） 内定者研修：3回（国家試験対策、業務内容等） ・行動規範は全教職員に名刺サイズのカード型で配付。また職員証は、H30年度新規採用職員については新デザインの職員証を配付、H29年度以前より在籍している職員についてはシンボルマークを印刷したシールを作成・配付し、職員証への貼付 以上のことから、年度計画を十分に実施した。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																											
評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持					→																											
	実績	項目別評価 IV:7 III:1	項目別評価 IV:6 III:2	項目別評価 IV:8	項目別評価 IV:7 III:1	96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)	93.0% 達成 (評定A以上: 80/86項目)																											
	特記事項																																	
		76 (2)法人のガバナンス体制の充実を図るため、地方独立行政法人法の改正に則り、内部統制の整備及び業務運営を適正に実施していくための制度改正等について検討を行う。	○組織のあり方、事務組織規程、事務決裁規程等の検討を行うため、関係各課とともにワーキングを開催し、下記、検討を行い、各種関係規程について改正を行った。 ・法人の事務組織が現規程と乖離しているため、組織を明確にするための検討 ・組織上の位置付けが不明な学科目及び講座について、その目的等について検討 ・指揮命令が明確でない組織について、明確に位置づけするための検討 以上のことから、年度計画を上回って実施した。	S																														
		77 (3)中期計画の最終年度となる平成30年度年度計画について、成果目標・評価指標・取組内容が達成すべき水準となるよう、引き続きの確な進捗管理を行う。	・30年度計画の進捗管理については、執行役員会議において的確な課題の抽出を行い、計画・目標を達成できるよう、課題解消に向けた進め方等を各担当役員間で情報共有を行った。 ・課題への取組状況及び計画の進捗状況について、計画達成に懸念のある項目については、学内及び県と共有するとともに、対応策の検討を行うなど、各計画の進捗状況の管理を実施した。 上記のとおり、的確な進捗管理を行った結果、年度計画を十分に実施できた。	A																														

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	<p>78 (4)・学報、法人案内、キャンパスだよりについて、それぞれの目的に応じた内容の充実を図る。</p> <p>・「ナラプラス」等情報掲載サイトを昨年度よりも積極的に活用するとともに、新聞等に本学の取組を掲載する等、情報発信の一層の強化を図る。</p>	<p>・学報は学内および関連大学、施設等へ向けての情報発信として、学内より掲載希望記事を募集し、本学の取り組み・イベント・受賞報告等の記事の充実を図った。配布先は学内、関連大学・施設等のみならず、附属病院内にある歴史年表コーナーマガジンラックに学報を設置、来院者にも本法人の取組等を発信した。</p> <p>・法人案内（日本版/英語版）は一般の方へ向け、教育・研究・診療の特色を取り上げて作成、国内外からの来客者に配布し、本法人に対する更なる認知度の向上を図った。</p> <p>・キャンパスだよりは地域住民向けに内容を充実するため、学内に広く掲載記事の募集を行い掲載した。</p> <p>・県が運営する電子書籍ナラプラスに、県民を対象とする公開講座等の情報を掲載し、情報発信を行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施した。</p>	A
	<p>79 (5)・職員育成体系について、職員へ効果的な周知を行う。</p> <p>・職員育成体系に則り、職員の資質向上に向けた研修を実施し、その効果を研修修了後のアンケートにより測り、今後の改善に向けた検討を行う。</p> <p>・職員育成を適正に人事評価に反映させるための検討を行う。</p>	<p>・昨年度のヒアリング内容をもとに、各所属長に対し、各職種における職位像・人材育成内容について、再ヒアリングを実施</p> <p>・事務職員の人材育成について、昨年度の人材育成体系をもとに研修内容・計画を検討し、9月から研修を実施</p> <p>・研修と評価制度設計について、労働組合と定期的なワーキング（計5回）を実施</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施した。</p>	A

中期目標・中期計画		平成30年度計画							法人自己評価		
									年度計画の実施状況及び評価理由	評価	
<b>2 ワークライフバランスの充実強化</b> 【中期目標】 ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する ・就業規則を見直す ・年次有給休暇取得日数を平成22年に比べ倍増を目指す  【中期計画】 医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。  【取組内容】 ・仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲IV-1) ・職員の勤務環境や満足度の把握 ・短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し(再掲IV-1)											
1人あたりの年次有給休暇取得日数	指標	【医師】 H22 3.0日	H25 3.5日	H26 4日	H27 4.5日	H28 5日	H29 5.5日	H30 6日	ワークライフバランス検討委員会を開催し、仕事と生活のバランスがとれた勤務環境・体制の構築及び職員の満足度を高めるため、以下の内容を検討した。  ○医師の働き方に関するヒアリング結果について ・医師の働き方については、昨年度に実施した本学附属病院に勤務する全医師に対する勤務実態調査結果をもとに、全医局に対する病院長ヒアリングを実施し、現状を改めて把握し、実施可能な取組を検討した。 ・医師と看護師の業務負担軽減策として、医師については医師事務作業補助者5名、看護補助者8名を採用し、業務移管を積極的に推進した。 ・医師の当直明け勤務の免除を目的とした交替制勤務を麻酔科において試行を継続し、課題の抽出及び課題解消に向けた取組について検討した。 また、他診療科においても取り組むことが可能であるか等、対象診療科の検討を行った。  ○職員の超過勤務状況について ・ワークライフバランスを充実させるため、事務職、看護職及び医療技術職の各所属から超過勤務縮減総括責任者及び超過勤務縮減実行責任者を選任し、所属ごとの超過勤務縮減計画を策定し、法人企画部長、病院経営部長、人事課によるヒアリングを実施 (H30. 7) した。  ○学内保育園の定員増について ・働きやすい職場環境構築の一環として、学内保育園の定員を現在の90名から150名に増員するため、保育園の増築に着手し、平成30年10月から供用を開始した。  ○その他 ・全職員の出退勤時間等の実態把握のため、H30年11月より出退勤管理システムの試行を開始した。  以上のことから、年度計画を十分に実施した。	80	A
	実績		2. 8日	2. 4日	2. 9日	3. 1日	3. 2日	4. 7日			
	特記事項	医師夏期休暇(特別休暇)平均取得日数 H27:平均2.9日→H28:平均3.6日→H29:平均3.6日→H30:平均3.4日									
	指標	【看護師】 H22 4.1日	4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日			
	実績		3. 6日	4. 5日	3. 5日	3. 9日	3. 2日	3. 8日			
	特記事項	看護師夏期休暇(特別休暇)平均日数 H27:平均4.6日→H28:平均4.7日→H29:平均4.6日→H30:平均4.98日 看護師の年次有給休暇取得日数は減少しているが、育児部分休業取得者数は下記のとおり増加しており、看護師は勤務の関係上、年次有給休暇を取得するよりも部分休業取得により定期的に休むことを選択する傾向にある。 (看護師:年間育児部分休業取得者数)H27:82名→H28:92名→H29:99名→H30:114名									
就業規則の見直し(再掲:IV-1)	指標		見直し								
	実績		検討中	実施							
	特記事項										
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲:IV-1)	指標		設置	運営							
	実績		設置済	運営							
	特記事項										

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																									
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																								
<p><b>3 同窓会・歴代卒業生との連携</b></p> <p>〔中期目標〕 ・寄附件数1,000件を目指す</p> <p>〔中期計画〕 同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。</p> <p>〈取組内容〉 ・医学科・看護学科同窓会との連携・交流の強化と、大学への支援促進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">寄附件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 876件</td> <td>900件</td> <td>920件</td> <td>940件</td> <td>960件</td> <td>980件</td> <td>1,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>817件</td> <td>717件</td> <td>998件</td> <td>688件</td> <td>637件</td> <td>826件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">卒業生からの基金への寄附件数(累計)**</td> <td>指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>508件</td> <td>592件</td> <td>677件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td>423件</td> <td>821件(累計)</td> <td>1,155件(累計)</td> <td>1,503件(累計)</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>左記上段の「寄附件数」は、一般県民や企業からの寄附金を含む法人への寄附金の総件数であり、県への「ふるさと奈良県応援寄付金」を介した卒業生からの寄附金の件数は含まれていない。(卒業生からの寄附を特定する方法がないため、やむを得ず当該数値を使用) 平成27年度の「未来への飛躍基金」設立と当該基金への寄附開始に伴い、県への「ふるさと奈良県応援寄付金」を介した寄附金を含む卒業生からの全寄附件数を把握することが可能になったため、平成27年度以降は、上段の指標と並記することとする。 なお、下段の平成28年度以降の目標及び実績は、寄附金の性格(協力は単発で、継続的でないのが通例)を踏まえ、単年度件数ではなく、累積件数で表すこととし、初年度(H27)の2割増しを2年目(H28)以降各年度の目標件数とする。</small></p> <p>* 企業等からの法人への直接寄附件数。 ** 「未来への飛躍基金」に対する卒業生からの寄附件数。</p>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件	実績		817件	717件	998件	688件	637件	826件	卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件	実績			423件	821件(累計)	1,155件(累計)	1,503件(累計)	<p>81</p> <p>(1)同窓会や卒業生との連携を推進し、母校愛の育成と寄附金等協力意識の向上を図る。 ・引き続き、学報の同窓会会員への定期的発送により本学情報を適時発信するとともに、学報へ同窓会に関する記事を掲載する。</p> <p>・保護者懇談会を開催し、保護者に対して同窓会及び本学の取組並びに卒業生の実績・活躍等を紹介する。</p>	<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評定理由</p> <p>・同窓会会員(医学科概ね4,300名、看護学科概ね2,300名)へ年4回発行の学報を定期的に発送した。 ・入学式、医学科白衣授与式、卒業式に同窓会長及び副会長を引き続き招待した。 同窓会から、入学式及び卒業式において、各学生への記念品の寄贈及び優秀な学生に対する表彰と賞品を贈呈していただくとともに、白衣授与式においては、学生の白衣を寄贈していただくなど連携を密にした。 また上記各式典をはじめとする同窓会関係の記事を学報に掲載した。  ・入学式終了後、本学同窓会会員の協力を得て、市内ホテルにおいて新入学生保護者懇談会を開催し、同窓会及び本学の取組並びに卒業生の実績・活躍等を紹介して、母校愛及び寄附金協力意識の醸成を図った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施した。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																				
寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件																																			
	実績		817件	717件	998件	688件	637件	826件																																			
卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件																																				
	実績			423件	821件(累計)	1,155件(累計)	1,503件(累計)																																				

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
		<p>○平成30年度 寄附申込実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規寄附申込件数・金額：222件、55,469千円  (㊤ 150件、32,166千円)</li> <li>・反復寄附申込件数・金額：401件、90,552千円  (㊤ 366件、89,565千円)</li> <li>・合計寄附申込件数・金額：623件、146,021千円  (㊤ 516件、121,731千円)</li> </ul> <p>○卒業生からの基金への寄附納付実績&lt;H31.4.16現在&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度末累計：1,503件</li> <li>・単年度件数推移：㊤ 423件 → ㊤ 398件 → ㊤ 337件 → ㊤ 345件</li> </ul> <p>○寄附獲得へ向けた取組実績</p> <p>◇従前から取り組んでいる以下の取組について、引き続き実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各種イベント等（4/4入学者保護者懇談会、12/4白衣授与式、9/22・2/16県民公開講座、10/27同窓会基金推進委員会）でのPR</li> <li>②関係者への基金パンフレット等の送付（医学科同窓会員：5・11月・各約6千件、同門会員：10～11月・約3千件）</li> <li>③同窓会や学内からの紹介者への電話や戸別訪問等による寄附要請（通年・約60件）</li> <li>④医学科同窓会誌「厳樞」（5・11月発行）に広告掲載</li> <li>⑤「学報」（5・8・11・2月発行）に記事掲載</li> <li>⑥前年3万円以上の寄附者への返礼品の送付（9～1月・451件）</li> <li>⑦寄附者銘板の更新（3月、合計553人・団体分を更新）</li> </ol> <p>◇新たに以下の取組を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①基金パンフレットの全面改訂（9月発行）</li> <li>②前年度活動報告書の全面改訂及び内容充実（9月発行、従前4頁構成 → 8頁構成）</li> <li>③基金HPの全面改訂（3月リリース）</li> <li>④返礼品を従来の単品送付方式からカタログギフト方式に変更（9月）</li> <li>⑤「地域医療連携だより」（5月発行）に基金関連記事掲載</li> <li>⑥学内の各種会議で理事長、病院長、事務局長等幹部職員からの寄附要請（教授会議：7/10,10/16,12/11 病院運営協議会：5/15,6/19,8/21,12/8 医局長会：5/25,8/24 所属長会議：9/3,10/1 臨床医学協議会：6/19）</li> <li>⑦全所属に対し寄附に関心のある学内外関係者についての情報提供依頼（8～10月）</li> <li>⑧高額寄附者（過去に1回の寄附が100万円以上の寄附者）で寄附申込がない者へ、関係役員連名での寄附要請文の送付（9月・53件）</li> <li>⑨学部生保護者への寄附要請文の送付（11月・1,006件）</li> <li>⑩高額寄附者（過去に1回の寄附が50万円以上の寄附者）で寄附申込がない者へ、関係役員等からの電話等による寄附要請（11月・18件）</li> <li>⑪H30年分のふるさと寄附の県での受付期限を全職員に対しメール通知（12/10）</li> </ol> <p>○基金の活用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基金を活用した事業は、県も含めた学内外の関係者で構成する運営委員会の審議結果を踏まえ決定しており、H30年度の基金を活用した事業についても、同委員会での審議結果を踏まえ、従前から行っている学生への各種支援事業等に加え、新たに臨床研究中核病院の承認を得るために法人として取り組む諸事業にも基金を活用することとし、各対象事業に基金を充当した。</li> </ul> <p>&lt;基金活用事業予算&gt; ㊤ 156百万円 (㊤ 90百万円)</p> <p>&lt;基金充当額&gt; ㊤ 79百万円</p> <p>(主要内訳・単位：百万円)</p> <p>大学院医学科博士課程入学者に対する奨学金：6 リサーチクラークシップ（国内外での研究実習）：8 ADVANCED CLINICAL ENGLISH II（海外留学）：2 看護学科学学生への実習支援（実習用白衣・靴の授与）：1 看護学臨床研修（国際看護論Ⅱ）：1 クラブ活動への助成：2 新入学生応援事業：2 国家試験対策への支援：1 臨床英語での教育活動：2 未来基礎医学での研究支援活動：2 健康長寿イベント事業：1 臨床研究中核病院承認取得事業：45 募金活動推進費：6</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施した。</p>	A
	<p>(2)・3年間の実績を踏まえ、さらに幅広く募金方策を実施するとともに、効果的・効率的な情報発信を行うため、ホームページ・パンフレットなど情報発信ツールを見直し、新規寄附獲得に向けた募金方策の充実を図る。</p> <p>・寄附者へ定期的な情報発信を行い、基金活用の取組を適確に寄附者へ紹介し、反復寄附の獲得を行う。</p> <p>・学生・教職員のニーズや、大学を取り巻く環境の変化も考慮した効果的な活用策を検討・実施する。</p>	82	

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価																																		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																	
<b>4 繰越欠損金の解消</b> 〔中期目標〕 ・繰越欠損金の解消を目指す 〔中期計画〕 県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。 〈取組内容〉 ・経営状況の適時・的確な把握と問題点・課題の法人内での共有 ・診療収入等収入確保のための取り組みの検討・実施 ・医薬・診療材料費の抑制と適正な人件費比率の確保																																				
	83	(1)・法人経営プロジェクトチームにおいて各種データの収集・分析を行い、法人経営の課題を抽出し、各組織に提示することにより、経営改善の取組を行う。 ・経営改善方策を反映し、キャンパス移転・現キャンパス整備計画をも踏まえた第3期の収支見込を作成した上で、持続可能な経営基盤の確立に向け、運営費交付金等の制度設計など県と必要な協議を行う。	・法人経営プロジェクトチームにおいて、医師の働き方改革実施に向けて、医師の宿日直を含む勤務体制等の現状分析等を行い、実施に係る影響について議論を行った。 ・将来を見据えた必要人員数について、各所属へヒアリングを行い、組織・人員配置について検討を行った。 ・第3期の収支見込みを作成したうえで、県と運営費交付金等について、制度趣旨にまで立ち返って協議を行った結果、H31以降運営費交付金が増額されることとなった。 以上のことから、年度計画を十分実施した。	A																																
	84	(2)・附属病院における経営課題を明確にするため、前年度に引き続き附属病院長による診療科部長面談を複数回実施する。 ・前年度に引き続き、毎月の経営指標、四半期毎の過去5年間データ比較、年1回のSWOT分析等の情報提供を共有する。	・診療科部長面談を実施し、各診療科の課題抽出と改善に向けた取組を実施した。 ・診療科ごとに設定した目標値の達成状況を確認するとともに、結果を分析し、次年度の目標を設定した。 ・毎月の経営指標、四半期毎の過去5年間データ比較及びSWOT分析を行い、その結果について、病院経営・運営会議等各会議で情報共有を図った。 以上のことから、年度計画を十分実施した。	A																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">繰越欠損金の額</td> <td>指標</td> <td>H23 9.6億円</td> <td>6.0億円</td> <td>4.8億円</td> <td>3.6億円</td> <td>2.4億円</td> <td>1.2億円</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10.8億円</td> <td>10.5億円</td> <td>8.6億円</td> <td>20.3億円</td> <td>22.7億円</td> <td>22.0億円</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.3億円	22.7億円	22.0億円	特記事項										
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円																												
	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.3億円	22.7億円	22.0億円																												
	特記事項																																			

中期目標・中期計画	平成30年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	<p>(3)各プロジェクトの取組により診療報酬増を図る。</p> <p>入院診療対策プロジェクト 病床運用の効率化による(目標)入院患者数の確保</p> <p>手術対策プロジェクト 手術室の効率的な運用による手術件数の増(手術枠の定期的な見直し)</p> <p>保険診療対策プロジェクト 平均在院日数の適正化、施設基準の取得・維持等、精度向上による診療報酬請求の一層の適正化</p> <p>外来診療対策プロジェクト 丁寧な紹介、逆紹介の実施による患者数増</p> <p>・病院経費削減のためのプロジェクト立上げに向けた検討を進める。</p> <p>・平成30年度診療報酬改定に伴う新規施設基準について早急に対応を行い、届出猶予期限までに最大限取得する。</p> <p>・債権の適正な管理により、未収金の抑制を図る。</p>	<p>○入院診療対策プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病床運用の効率化のため、同日入院や退院調整等の取り組みを行い、一日平均入院患者数目標850人/日に対し、実績849人/日を確保した。(平成29年度実績844人から5人増)</li> </ul> <p>○手術対策プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各診療科の手術予定枠の見直しや効率的な運用に努めたこと等により、手術件数対前年度比290件増加の8,879件を達成した。</li> </ul> <p>○保険診療対策プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保険担当医長会議において保険請求に係る各種データを報告し周知徹底したこと等により、平均在院日数12.42日、対前年度比0.32日短縮を達成した。</li> <li>・保険診療セミナーを12月及び3月に開催し、減点対策など精度向上による診療報酬請求の一層の適正化に努めるとともに、再審査請求等必要な対応を行った。</li> </ul> <p>○外来診療・地域連携対策プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来医長会議における返書実施の周知徹底など、紹介元医療機関との連携強化に継続して取り組み、紹介率93.6%(前年度93.3%)、逆紹介率77.8%(71.5%)を達成した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院におけるマンデー会議を中心にコスト削減プロジェクトを立ち上げ、重点項目として、不要な検査の削減に取り組んだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設基準については、院内体制の変化や診療実績などを踏まえ随時基本診療料等の届出を行うとともに、未届けの項目についても随時届出の可否について検証を実施した。</li> </ul> <p>以上により、入院、外来ともに患者数、手術件数、単価増等となり、増収となった。</p> <p>入院収入：24,212百万円(対予算102.2%、対前年度1,103百万円増) 外来収入：17,677百万円(対予算111.2%、対前年度1,573百万円増)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未収金抑制対策として、引き続き、診療当日の診療費未払い患者に対する翌日電話督促の実施、定期督促(翌々月)、連帯保証人への督促、弁護士法人への回収委託を実施した。</li> </ul> <p>また、医療費支払い方法の多様化を図るため、医療費あと払いサービスを導入した(H30.4～)。H31.4からは、デビットカード決済を導入した。</p> <p>【医療費個人未収金額】 平成30年度末 210,670千円(対前年度 11.5%減)</p> <p>よって、年度計画を十分に実施した。</p>	A
	<p>(4)他院購入実績データを活用した価格交渉や安価な代替品への切替等により、医薬・診療材料費の適正化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬材料費抑制のため、院長・医薬材料対策プロジェクト担当教授等出席の価格交渉会議に延べ31社を呼び出し交渉を行った。</li> <li>・今年度は手術件数が前年度比290件増加したこと等により診療材料費が同比約2億円増加、また値引率が低い高額薬剤の購入額が前年度比約15億円増加した。</li> <li>・平成30年1月23日付け厚生労働省通知「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」により全国的に値引率が悪化した。</li> <li>・以上から医薬材料比率は前年度比1.3%上昇したが、前記取り組みにより70大学病院が参加している医薬材料の値引率ベンチマークで当院は医薬材料共に3位であった。</li> </ul> <p>以上のことから年度計画を十分実施した。 (医薬材料比率) H25：43.4%、H26：44.6%、H27：46.3%、H28：45.5%、H29：45.2%、H30：46.5%</p>	A



全体評価

平成30年度は、第二期中期計画(6年間)の6年目の年度となり、5年目までに行った中期目標達成に向けた取組みの成果を踏まえて、年度計画を設定した。年度計画に掲げた取組みを着実に実施した結果、概ね予定した成果を得ることができた。主な取組み状況は、以下のとおりである。

中期目標達成に向けた平成30年度の主な取組み

I 地域貢献に関する取組み

1 医療人の育成(医師関連・看護師関連)に関する取組みの状況

- 派遣要請元病院の人事・総務担当者との面談を実施し、実績データ(稼働状況、患者数、医師数等)収集や医師派遣の現状等に関する意見交換を行い、病院それぞれの実態やニーズの把握を行った。
- 地域包括ケアを支える人材の育成のため、臨床医学教育課程において在宅医療学を開講し、第4学年で講義を実施した。
- 看護学科において、新たに「社会人基礎力講座」を実施するとともに、4年生対象であった基本的看護技術トレーニングの対象学年を3年生に変更し、本学附属病院への就職促進のためのイベントを実施した。

2 看護師の地域貢献に関する取組みの状況

- 認知症看護について、地域の看護師への知識・技術の教育のため「認知症予防および認知症を持つ患者への対応力向上研修」を開催した。参加者43名(院外26名)。

3 研究成果等の地域への還元に関する取組みの状況

- 地域企業等への研究成果の還元のひとつとして、疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を開発するため、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。

4 健康増進の県民アプローチの充実に関する取組みの状況

- 県・市町村の保健事業にかかる調査・データ分析を行うとともに、分析結果や研究成果をニューズレターで紹介し、学会や学術雑誌にも公表した。

5 断らない救急医療体制の整備に関する取組みの状況

- 中南和地域の連携病院と意見交換会を開催し、連携強化を図ることで土日祝のERと重症腹症(腹痛・吐下血)救急患者受入ネットワークを安定して運営した。  
また、ER実施日の拡大については、2021年度に24時間365日の実施を目指すこととした。

6 周産期医療体制の強化に関する取組みの状況

- 県内周産期従事者を対象にした長期療養児在宅医療・在宅(小児)訪問推進研修会(参加者66名 全員院外)を開催した。

7 他の医療機関との連携強化に関する取組みの状況

- 予約診療の促進に取り組んだことにより、予約実績が13,509件と昨年より957件増加し、紹介率93.6%、逆紹介率77.8%を達成した。

8 県内医療人への助言・指導に関する取組みの状況

- 県内病院の臨床研究を支援するため、医の倫理審査委員会を毎月開催するとともに、特定臨床研究を審査する本学の臨床研究審査委員会について、厚生労働大臣の認定を取得した。

## II 教育に関する取組み

### 1 リベラルアーツ教育の実践、医の心をもった医療人の育成等に関する取組みの状況

- 「良き医療人育成のためのプログラム」について、臨床医学教育課程に「医師・患者関係学」に関する講義を導入し、医師・患者関係を理解するための実践的教育を実施することを決定した。

### 2 教育内容の評価に関する取組みの状況

- 授業評価から授業内容や教育手法の課題等を的確に把握するため、医学科、看護学科それぞれ10名程度の学生にインタビューを実施し、学生の意見も取り入れた新たな授業評価アンケート調査票の作成することを決定した。

## III 研究に関する取組み

### 1 研究の適切な成果評価に関する取組みの状況

- 研究に関する評価について、極めて高い研究業績をあげた研究者に対する顕彰制度「奈良県立医科大学賞」を創設した。

### 2 有能な研究者の獲得に関する取組みの状況

- 学生の自主的な研究活動に対する支援として、学生研究活動成果発表会を実施し、優れた自主研究に対する学生2名に奨励金（図書カード5000円分）を交付した。

### 3 健康・予防医療等研究範囲の拡大に関する取組みの状況

- 県民の健康増進を目的とした奈良県健康長寿大規模コホート研究について、学内において成果報告会を行うとともに、研究推進戦略本部会議で研究成果を分析した。

## IV 診療に関する取組み

### 1 医師・看護師等の離職防止と人材確保に関する取組みの状況

- 医師と看護師の業務負担軽減策として、医師については医師事務作業補助者5名、看護補助者8名を採用し、業務移管を積極的に推進した。
- 女性が働きやすい環境構築の一環として、院内保育園の定員を現在の90名から150名に増員するために増築工事を実施し、平成30年10月から供用を開始した。

### 2 がん拠点病院としての機能の充実にに関する取組みの状況

- 県内の拠点病院、支援病院から2015年の症例データを収集し、5大がんのステージ別治療件数や施設別・部位別登録数の推移等の分析・評価を行い、結果を関係施設にフィードバックした。

### 3 治療成績の一層の向上に関する取組みの状況

- 重点改善項目（高度医療評価制度・先進医療診療実施数、指導医数）について、モニタリングを開始した。同項目については、次年度も引き続き、改善に向けた取り組みを進めることとした。

### 4 患者満足の一層の向上に関する取組みの状況

- ホスピタリティマインド向上委員会で診察待ち時間等について検討し、医療費後払いサービスを開始した。
- 患者満足度向上に向けて、医事委託の運用体制を見直し、長時間会計待ち患者の解消に寄与した。また、調剤待ち患者への対応として、カフェ及びレストランに調剤待ち表示板を増設した。

## V まちづくりに関する取組み

## 1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備に関する取組みの状況

○新キャンパス整備について、キャンパス内を東西・南北に貫く道路を整備し、住民の方に自由に散歩や農作業に利用できるようにするとともに、外周に道路を整備し、地元住民の方の利便向上に貢献する内容とした。

## 2 地域に開かれたキャンパスづくりに関する取組みの状況

○地域に開かれたキャンパスづくりに向け、図書館・食堂・コンビニエンスストア・書店・交流施設等、広く県民に開放できる施設を整備する施設整備基本計画書をまとめた。

## 3 教育・研究部門等移転後の跡地活用に関する取組みの状況

○A棟改修工事について、大阪北部地震の影響を受け、老朽化が著しい臨床医学研究棟からの早期待避を図るため、当初工程を変更するとともに、臨床医学研究棟からの一時待避を図りながら、着手した。

## 4 移転を契機とした研究分野での地域貢献に関する取組みの状況

○大和当帰を用いた園芸療法等の研究（農林水産政策科学研究委託事業）及び今井町でのまちなか医療の展開と景観の保全についての研究（戦略的創造研究推進事業）を早稲田大学と共同で実施した。

## 5 健康づくり・予防医療等への貢献に関する取組みの状況

○奈良県健康長寿大規模コホート研究について、学内において成果報告会を開催するとともに、県民への研究成果の還元のため、県民公開講座「くらしと医学」で健康増進に関する成果を発表した。

## VI 法人運営に関する取組み

## 1 ガバナンス体制の充実強化に関する取組みの状況

○組織のあり方、事務組織規程、事務決裁規程等の検討を行うため、関係各課とともにワーキングを開催し、各種関係規程について改正を行った。

○今年度採用の職員から、シンボルマークを印刷した新デザインの職員証を配付した。

## 2 ワークライフバランスの充実強化に関する取組みの状況

○事務職、看護職及び医療技術職の各所属から超過勤務縮減総括責任者及び超過勤務縮減実行責任者を選任し、所属ごとの超過勤務縮減計画を策定した。

○全職員の出退勤時間等の実態把握のため、H30年11月より出退勤管理システムの試行を開始した。

## 3 同窓会・歴代卒業生との連携に関する取組みの状況

○入学式終了後、本学同窓会会員の協力を得て、市内ホテルにおいて新入学生保護者懇談会を開催し、同窓会及び本学の取組並びに卒業生の実績・活躍等を紹介して、母校愛及び寄付金協力意識の醸成を図った。

## 4 繰越欠損金の解消に関する取組みの状況

○本学附属病院の適正な病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化及び施設基準の取得・維持等により、診療収入の確保を図るとともに、医薬・診療材料費の適正化を図るため、医薬材料対策プロジェクトによる価格交渉を行うなど、経営改善に努めた。

(その他)

[年度計画を大幅に下回っている取組み]

該当なし

第2期中期目標期間(平成25～30年度)計画の実績(総括)

【第2期中期計画の法人自己評価】  
 S:計画を上回って実施している(100%超)  
 A:計画を十分実施している(90%～100%)  
 B:計画を十分には実施していない(60%～90%)  
 C:計画を大幅に下回っている。又は、計画を実施していない(~60%)

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度)取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務所属																																																						
				第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																								
1 地域貢献<教育関連>																																																												
1 医療人の育成(医師関連) 医師派遣システムの適切な実行((仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営)																																																												
<p>【中期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営する</li> <li>・医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指す</li> </ul> <p>【中期計画】</p> <p>教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。</p>																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>H26年3月設置準備完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*</td> <td>指標</td> <td>H23 51名</td> <td>51名</td> <td>54名</td> <td>57名</td> <td>60名</td> <td>63名</td> <td>66名** (60%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>56名</td> <td>48名</td> <td>64名</td> <td>65名</td> <td>66名</td> <td>66名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6">                     ●平成30年度新卒予定者119名、うち116名が医師国家試験を受験。合格者は107名だが、うち2名については進路が不明であるため、その2名を除いた105名のうち、46名が附属病院、23名が県内病院に就職しており、県内就職者数は69名となった。                      ※H30の県内就職率は61.9%(H30卒業の入学時定員113名に対する比率)                      ●上記合格者105名のうち、5名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた100名を本計画における合格者数とする。また、県内就職者数についても、上記69名のうち、4名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた65名が県内就職者数となる。                      ●県内卒後臨床研修就職者数の実績については、平成28年度までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考える。                      【既卒者で附属病院への就職者数】                      ・H30:1名 ・H29:4名 ・H28:4名 ・H27:2名 ・H26:2名                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*緊急医師確保修学資金による増13名含む                  **研究医養成コース進学見込2名除く定員111名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数</p>							項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標	設置準備	設置・運営開始					実績	H26年3月設置準備完了	運営					特記事項							医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)	実績		56名	48名	64名	65名	66名	66名	特記事項	●平成30年度新卒予定者119名、うち116名が医師国家試験を受験。合格者は107名だが、うち2名については進路が不明であるため、その2名を除いた105名のうち、46名が附属病院、23名が県内病院に就職しており、県内就職者数は69名となった。 ※H30の県内就職率は61.9%(H30卒業の入学時定員113名に対する比率) ●上記合格者105名のうち、5名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた100名を本計画における合格者数とする。また、県内就職者数についても、上記69名のうち、4名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた65名が県内就職者数となる。 ●県内卒後臨床研修就職者数の実績については、平成28年度までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考える。 【既卒者で附属病院への就職者数】 ・H30:1名 ・H29:4名 ・H28:4名 ・H27:2名 ・H26:2名					
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																					
(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標	設置準備	設置・運営開始																																																									
	実績	H26年3月設置準備完了	運営																																																									
	特記事項																																																											
医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)																																																				
	実績		56名	48名	64名	65名	66名	66名																																																				
	特記事項	●平成30年度新卒予定者119名、うち116名が医師国家試験を受験。合格者は107名だが、うち2名については進路が不明であるため、その2名を除いた105名のうち、46名が附属病院、23名が県内病院に就職しており、県内就職者数は69名となった。 ※H30の県内就職率は61.9%(H30卒業の入学時定員113名に対する比率) ●上記合格者105名のうち、5名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた100名を本計画における合格者数とする。また、県内就職者数についても、上記69名のうち、4名が研究医養成コースへの進路者であり、その者を除いた65名が県内就職者数となる。 ●県内卒後臨床研修就職者数の実績については、平成28年度までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考える。 【既卒者で附属病院への就職者数】 ・H30:1名 ・H29:4名 ・H28:4名 ・H27:2名 ・H26:2名																																																										
		1 県内の公立・公的病院等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえて医師のマッチングを行う(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師派遣要請に対応した医師のマッチングを行う県立医大医師派遣センターを設置した。</li> <li>・医師配置を円滑に行うために、各医療機関を訪問し、派遣要請の受付方法等の周知を図るとともに、派遣要請元の実態調査を行った。</li> <li>・病院へ個別訪問し、医師確保の状況や診療の方向性などの派遣要請内容を精査し、医師適正派遣調整会議において、配置の透明性及び客観性を確保するための検討を行い、実施した。</li> </ul>		人病管教																																																						
		2 南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター開院にあたっては、各関係者間で情報交換を行い、必要な医師数(開院時53名:要請数の98%)を確保・派遣できた。</li> </ul>		人病管教																																																						
		3 「奈良学」の開設等を通じた、奈良を愛し奈良に貢献する医療人の育成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、1年生の早期から県内の医療機関を訪問し、奈良県の医療状況を知り、奈良の医療に貢献する意思を涵養することを目的として1週間連続で講義を行う「奈良学」を導入した。</li> <li>【主なプログラム内容】</li> <li>・県内病院見学</li> <li>・奈良県の医療に関するシンポジウム</li> <li>・グループ毎に奈良の名所を探訪する文化・歴史・自然学習等</li> <li>・1年生の医学科、看護学科合同の科目とすることで、早期から多職種と連携する力を養うとともに、毎年度の授業評価を踏まえ、継続的にカリキュラムのブラッシュアップを実施した。</li> <li>・県内の地域包括ケアを支える人材育成のため、在宅医学を臨床医学教育課程の授業科目として開講した。また、講義だけではなく、臨床実習においても一部実施する等、継続的に授業内容の拡充を図った。</li> <li>・魅力ある卒後臨床研修プログラム提供のため、著名講師を招聘し講演等を実施するとともに、タスクフォースによるミーティングを実施し、適宜臨床研修プログラムのブラッシュアップを図った。</li> </ul>		教人病管																																																						
		総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の医療機関等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえ、医師適正派遣調整会議において配置の透明性及び客観性を確保するための検討を行い、的確な医師派遣を行うなど県立医大医師派遣センターの設置及び運営を行った。</li> <li>・平成28年度に設立された南和広域医療企業団 南奈良総合医療センターにおいて、開院にあたっての必要医師数を関係者間で協議し、必要な医師数の確保及び配置を行った。</li> <li>・県内の地域医療に対する意識を涵養するため、「奈良学」を導入するとともに、魅力ある卒後臨床研修プログラムの提供を行い、医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数の目標数66名を達成した。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を十分実施した。</p>		自己評価 A																																																						

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務所属																																																																																	
<p>医師派遣システムの適切な実行((仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営)</p> <p>[中期目標] ・(仮称)県費奨学生配置センターを設置・運営する ・公立・公的病院等からの要望に対応した最適な医師配置(配置数)40名を目指す ・地域に貢献する医師の育成数延べ86名を目指す</p> <p>[中期計画] (仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。</p>				<p>第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価</p> <p>&lt;事務主管課:人事課&gt;</p>																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>10月設置完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県費奨学金による医師配置数*</td> <td>指標</td> <td>H24 6名配置</td> <td>8名</td> <td>15名</td> <td>17名</td> <td>22名</td> <td>29名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>8名</td> <td>13名</td> <td>12名</td> <td>13名</td> <td>21名</td> <td>29名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td>奨学金の貸与を受けた者が必ず義務年限を予定どおりに果たすことが前提の指標設定であるが、本人の選択の自由を完全に否定することは困難であるため、法人の努力が必ずしも示されているとは言い難い指標となっている。実績値の増加については、県の制度改正によるところが大きい。法人の離脱者防止の取組の効果があつたと考える。</td> <td>6名(8名中)</td> <td>3名(7名中)</td> <td>2名(3名中)</td> <td>6名(8名中)</td> <td>6名(8名中)</td> <td>6名(9名中)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">緊急医師確保枠を主とする医師の育成数</td> <td>指標</td> <td>H24 述べ13名</td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td>延べ86名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td>延べ89名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*医師確保研修学修資金の義務履行者を主とする医師配置数(※近畿大学医学部奈良病院含む)</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標	設置準備	設置・運営開始					実績	10月設置完了	運営					特記事項							県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名	実績		8名	13名	12名	13名	21名	29名	特記事項	奨学金の貸与を受けた者が必ず義務年限を予定どおりに果たすことが前提の指標設定であるが、本人の選択の自由を完全に否定することは困難であるため、法人の努力が必ずしも示されているとは言い難い指標となっている。実績値の増加については、県の制度改正によるところが大きい。法人の離脱者防止の取組の効果があつたと考える。	6名(8名中)	3名(7名中)	2名(3名中)	6名(8名中)	6名(8名中)	6名(9名中)	緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ89名	特記事項								<p>4 県費奨学生の配置を行う(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営</p>		<p>・県費奨学生の配置を行うため、県費奨学生配置センターを設置した。 ・奈良県に従事する医療人を育成するために、県費奨学生の各種交流会の開催、情報誌としてGlobalを発行した。 ・奈良県の地域医療の現状理解と関心を深めるために地域基盤型医療教育プログラムを必須単位化し、奨学生としてのマインド醸成に働きかけた。 ・離脱対策として、新入学生保護者オリエンテーションと緊急医師確保枠奨学生総会の開催により奨学生及び保護者へ制度の主旨の理解の浸透を図った。 ・学生の学習状況や進路等の相談ができる環境づくりとして年1回の全奨学生面談を必須とした。 ・他大学のキャリア形成支援や離脱対策等について、情報収集、意見交換した。 ・特定診療科に関する条例改正を受け、的確な情報提供ができるよう県と協力し複数回の説明会を開催した。</p>		<p>人病管 教</p>	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																
(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標	設置準備	設置・運営開始																																																																																				
	実績	10月設置完了	運営																																																																																				
	特記事項																																																																																						
県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名																																																																															
	実績		8名	13名	12名	13名	21名	29名																																																																															
	特記事項	奨学金の貸与を受けた者が必ず義務年限を予定どおりに果たすことが前提の指標設定であるが、本人の選択の自由を完全に否定することは困難であるため、法人の努力が必ずしも示されているとは言い難い指標となっている。実績値の増加については、県の制度改正によるところが大きい。法人の離脱者防止の取組の効果があつたと考える。	6名(8名中)	3名(7名中)	2名(3名中)	6名(8名中)	6名(8名中)	6名(9名中)																																																																															
緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名																																																																															
	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ89名																																																																															
	特記事項																																																																																						
		<p>2* 南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援(再掲:1-1)</p>		<p>・南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター開院にあたっては、関係者と綿密に情報交換・共有し、必要な医師数を確保及び派遣した。</p>		<p>人病管 教</p>																																																																																	
		<p>5 県費奨学生のキャリアパスの構築と運用による地域に貢献する医師の育成</p>		<p>・奨学生の今後のキャリアパスや特定診療科について、奈良県 医師・看護師確保対策室と意見交換を行い、県費奨学生のキャリア形成を支援した。 ・緊急医師確保枠入学者、奨学生へ制度の趣旨等についての意識付けの方法、保護者説明会開催の検討及び実施した。 ・全員に年1回の面談を義務づけし、志望診療科およびキャリア形成の意識調査を実施した。 ・緊急医師確保枠奨学生総会を開催し、学生・保護者への制度主旨・キャリアパスを説明し理解の浸透を図った。 上記取組を行い、奈良県の地域医療に貢献する医師の育成を行った。</p>		<p>人病管 教</p>																																																																																	
		<p>総括</p> <p>上記のとおり、奈良県内に従事する医療人を育成するため、学生及び保護者へ制度の主旨の理解の浸透を図るとともに、奨学生のキャリア形成について、検討を行い、キャリアパスを明確にした。また、奨学金の貸与を受けた者の選択の自由を完全に否定することは困難であり、本法人としては、当初予測できなかった奨学生の離脱について、早期から離脱防止の取組を実施し、実績値が増加したことは、県の制度改正によるところが大きい。法人の離脱者防止の取組の効果があつたと考える。</p> <p>以上のことから、計画を十分実施した。</p>		<p>自己評価</p> <p>A</p>		<p>人</p>																																																																																	

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																	
医療人の育成(看護師関連) [中期目標] ・看護学科卒業生の県内就職率60%を目指す [中期計画] (仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。									<事務主管課:教育支援課>																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護学科卒業生の県内就職者数</td> <td>指標</td> <td>H23 33名</td> <td>33名</td> <td>38名</td> <td>45名</td> <td>50名</td> <td>52名</td> <td>54名* (51名**) (60%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>48名</td> <td>62名</td> <td>50名</td> <td>52名</td> <td>46名</td> <td>56名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">           ※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8%            ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人         </td> </tr> </tbody> </table> <p>*H30卒業見込み90名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数  **H29より編入学試験(3年次)の廃止(H26決定)のため、H30年度卒業定員は85人となった</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	看護学科卒業生の県内就職者数	指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (51名**) (60%)	実績		48名	62名	50名	52名	46名	56名	特記事項	※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人							6 (仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及び大学と附属病院の連携による看護学生の県内就職に向けた取組の推進							・地域看護の充実を図るため、平成25年度に本学附属病院看護部、本学看護学科、県看護協会相互の情報交換等で連携・協議を行い、平成26年度に「看護実践・キャリア支援センター」を設立し、卒前学生への基本的看護技術トレーニングを開始した。 ・平成27年度からは、看護学科学生へのキャリアデザインプログラムを作成・実施し、平成28年度からは、卒前学生への基本的看護技術トレーニングを実施するとともに看護実践・キャリア支援センター運営委員会を中心に情報交換を行い具体的な研修計画を立案し実行した。 ・平成29年度からは、県看護協会と連携し教育プログラムを充実するほか、県内就職率向上の取り組みとして、奈良県看護協会会長の講義を実施した。 ・さらに、平成30年度には、奈良医大への就職促進策として奈良医大看護師との交流事業を実施した。  ・平成25年度から奈良県と看護師の県内就業を促すための奨学金制度導入の協議を重ね、平成28年度から奈良県からの補助金を財源とした奨学金を受給する看護学科学生を対象として、「在宅看護特別教育プログラム」を実施し、県内の在宅看護を牽引するリーダーの養成を開始した。30年度末に卒業した受講生1名が本学附属病院で勤務しながらプログラムを受講中である。		教 病 管 人
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																					
看護学科卒業生の県内就職者数	指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (51名**) (60%)																																				
	実績		48名	62名	50名	52名	46名	56名																																				
	特記事項	※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人																																										
									自己 評価		教																																	
		総 括							・「看護実践・キャリア支援センター」を設立・運営し、附属病院と連携しながら上記の取組を実施したことにより、看護学科卒業生の県内就職者数の目標人数54名を達成した。 ・平成28年度から奈良県からの補助金を財源とした奨学金を受給する看護学科学生を対象として、「在宅看護特別教育プログラム」を実施し、県内の在宅看護を牽引するリーダーの養成を開始した。 以上のことから、計画を十分に実施した。		A																																	

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																														
				第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																
2 看護師の地域貢献				〈事務主管課:病院管理課〉																																
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護師や専門看護師の総数を平成24年11月現在と比べ1.5倍を目指す</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">認定看護師・専門 看護師数</td> <td>指標</td> <td>H23 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>26名</td> <td>33名</td> <td>36名</td> <td>33名</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>CNS(Certified Nurse Specialist):看護系大学院の修士課程において所定の単位を取得し、公益社団法人日本看護協会に認定を受けた、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師。</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	認定看護師・専門 看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	35名	実績		26名	33名	36名	33名	37名	特記 事項								7	認定看護師養成研修への派遣、看護学研究科へのCNSコース設置等によるキャリア支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本看護協会の認定看護師制度の情報等を報告会で提供、また専門・認定看護師資格取得の意向を調査し、資格取得を勧めた。</li> <li>専門・認定看護師の資格取得志望者の発掘のため、資格取得者による未取得者への実地指導により動機付けを図った。</li> <li>以上の取り組みから認定看護師・専門看護師数の合計は37名となり、目標値を2名超えた。</li> <li>より専門性の高い医療行為を行える高度実践看護師の養成をするため、学生のニーズ調査や国等の単位互換等の方針、方向性も検討しながら、大学院看護学研究科に高度実践看護師(CNS)教育課程のクリティカルケア分野及び周麻酔期看護師教育課程を平成30年度に設置し、学生募集を開始した。</li> <li>「成人慢性期看護学」領域の開設及び教授着任も決定し、高度実践看護師教育課程にがん看護分野を開設することを決定した。</li> <li>平成27年度に看護師特定行為研修に係る指定研修機関としての指定を受け、看護師特定行為研修「急性期コース(定員5名)」を開講した。平成30年度には、「在宅コース(定員5名)」を開講し研修を実施した。</li> <li>看護師の再教育の機会を提供するため履修証明制度の試案を検討した。</li> </ul>	病管
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
認定看護師・専門 看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	35名																													
	実績		26名	33名	36名	33名	37名																													
	特記 事項																																			
		8	看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の看護職員のレベルアップ研修を継続すると共に退院支援の推進、在宅医療および看護に習熟した看護師の育成に向けてプログラムを作成した。</li> <li>在宅看護の能力向上のため、在宅看護特別教育プログラムに沿って、訪問看護ステーションでの研修を実施した。</li> <li>研修プログラムを評価し、研修期間の見直し等プログラムの充実を図った。</li> </ul>	病管																															
		9	病院看護部と大学看護学科、看護協会の相互の情報交換等の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院看護部、大学看護学科、看護協会が地域看護の充実を図るため、情報交換し教育プログラムを作成した。</li> <li>看護協会の臨地実習指導者講習会修了者が大学看護学科の基礎看護技術演習に参加、教育指導者育成プログラムでは看護学科の各領域に看護部から参加することで、3者の連携強化を図った。</li> </ul>	病管 教人																															
		10	(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及びスキルスラボの設置、地域へのオープン化	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させるため、平成26年度に看護実践・キャリア支援センターを設置し運営した。また、地域の看護師のスキルアップを支援するため、平成27年度、本学にスキルスラボを設置するとともにスキルスラボ委員会において、運営体制を確立し、地域の看護師等が利用できるようにオープン化を実施した。</li> </ul>	教 病管																															
		総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護師・専門看護師数の合計は37名となり、H24年度の1.5倍の35名を2名超えて目標を達成した。</li> <li>看護学研究科にCNS(高度実践看護師)教育課程のクリティカルケア分野をH30.4月に設置、H28.1月には看護師特定行為研修に係る研修機関としての指定を受け、「急性期コース」を開講。また、H30.4月からは「在宅コース」を開講し看護師のレベルアップを図る体制を構築した。</li> <li>病院看護部、大学看護学科、看護協会が地域看護の充実を図るため、情報交換しながら教育プログラムを作成した。</li> <li>H26.4月に設置した看護実践・キャリアセンターが中心となり、3組織の情報交換を行うことで相互の連携を深めた。</li> <li>平成27年度にはスキルスラボの地域へのオープン化のあり方について方針を決定、平成30年度からスキルスラボのオープン化を実施し地域の看護師のレベルアップを図った。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p>	自己 評価  A	病管																														



中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価	事務所属																																																											
I 地域貢献<研究関連>																																																														
3 研究成果等の地域への還元		<事務主管課:研究推進課>																																																												
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する</li> <li>(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する</li> <li>住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する</li> </ul> <p>[中期計画]</p> <p>住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。</p>	<p>11 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営</p>	<p>研究成果等を地域へ還元するため以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進戦略本部を平成25年度に設置し、研究推進戦略本部会議を月に1回程度定期的に開催し、平成28～29年度にかけて、研究に関する将来構想、研究活動に係る課題ごとの基本方針及び重点研究2016推進計画を策定した。</li> <li>重点研究2016推進計画の策定にあたっては、平成28年度に学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、提言を受け、3分野6テーマの重点研究課題を設定した。</li> <li>1) 地域に根差し地域と歩む研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>①健康寿命延伸のための特色ある3つのサブホート研究</li> <li>②超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)の研究</li> </ul> </li> <li>2) 日本を世界を牽引する研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>③血栓止血の制御に関する研究</li> <li>④画像下での低侵襲医療に関する研究</li> </ul> </li> <li>3) 良き医療人を育てる研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤良き医療人に関する研究</li> <li>⑥卒業医療人のキャリアパスに関する研究</li> </ul> </li> </ul> <p>・地域貢献の観点として、健康寿命延伸のための特色ある3つのサブホート研究及び超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)の研究を重点研究課題として、平成28年度から平成30年度の研究推進戦略本部で進捗管理し研究推進に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点研究である血栓止血制御、I V Rに関する研究については、各センターを立ち上げ研究を推進した。</li> <li>産学連携を推進するため、民間企業と共同研究講座を設置した。(生体分子不均衡制御学共同研究講座、血栓止血薬生物学共同研究講座)</li> <li>産学連携事業の一環として、奨学を目的とする民間企業等からの寄附金により、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「TV-iClinix講座」等を設置した。</li> <li>奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向け連携活性化委員会を設置するとともに、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。</li> </ul>	<p>研 関 係 各 課</p>																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td>評価項目の検討</td> <td>学外有識者を含む評価委員会の運営</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンスの確立</td> <td></td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フアの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フアの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>MBT(Medicine-Based Town): 医学を基礎とするまちづくり</p>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	学外有識者を含む評価委員会の運営	特記事項								住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立		講習会等の実施			→	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催	特記事項								<p>12 研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度に外部有識者を含む研究評価委員会を設置した。</li> <li>平成26～28年度には、本学における研究面での地域貢献及び社会貢献を図るため、他学の取組を参考にしながら、研究に関する評価のあり方、評価項目について検討した。</li> <li>平成29年度には、研究者情報データベースのシステムを構築した。</li> <li>平成30年度には、研究者ごとの論文業績等研究データの蓄積及び地域への情報提供のため、本学の助教以上の教員について、研究者情報データベースへの入力完成させた。</li> <li>平成30年度には、外部有識者を含む研究評価委員会を運営・開催し、「研究成果の見える化」を目指し、大学としての研究力、特色ある分野、学内の共同研究グループの研究を評価・分析した。</li> </ul>	<p>研 関 係 各 課</p>
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																						
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→																																																						
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	学外有識者を含む評価委員会の運営																																																						
	特記事項																																																													
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立		講習会等の実施			→																																																						
	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フアの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBTイベントの開催																																																						
	特記事項																																																													
	<p>13 漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大和漢方医学薬学センターを設置(H25)し、運営委員会を開催し漢方の運営方針を決定した。</li> <li>主な取組として、漢方についての教育・人材育成分野については、東洋医学に関する講義を医学生に対して行うとともに、指導医による教育外来の実施や臨床医向けの勉強会を行った。</li> <li>地域医療関係者に漢方に関するセミナーを毎年度開催(21回)し研修・普及を行った。なお県民等へは、漢方シンポジウム(3回)を開催し広く普及を行った。</li> <li>県民に対しての啓発普及を目的に、奈良県が進める漢方のメッカ推移プロジェクトに参画した。</li> </ul>	<p>研 関 係 各 課</p>																																																											

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価	事務 所属
	14 「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化	<p>研究成果等を地域へ還元するため以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度については、住居医学(MBT)とまちづくりに実績がある早稲田大学と医学と都市計画学により新しいビジョンを示した「医学を基礎とするまちづくり」(水曜社)を刊行した。</li> <li>・平成26年度については、内閣府の「地域活性化モデル」に奈良県・橿原市・明日香村と共同にて提案するとともに内閣府の「地域再生計画」申請し採択された。</li> <li>・平成27年度については、橿原市と「連携に関する協定」を締結するとともに、MBTに関する記念シンポジウムを開催(293社 632名)し全国的にMBTの関心が高まった。</li> <li>・平成28年度については、リビングサイエンスへの取組強化のためMBT研究所を設置し、MBT研究所運営会議を開催(年3～4回)し取組について決定した。</li> <li>・研究成果の地域還元として、展示会への出展・技術相談会の開催やシンポジウムを多数企画した。</li> <li>・地域企業等への還元のため、100を超えるMBTコンソーシアム企業と連携しMBT研究を継続して実施した。</li> <li>・東京でMBTコロキウムを開催(610人 210企業)しMBT活動の成果を発表するとともに、新産業創生のための企業と医師との交流相談会(307人 75企業 76人の教授陣が参加)を開催した。</li> <li>・平成29年度にはまちづくりに実績がある早稲田大学と国立研究開発法人科学技術振興機構委託事業や農林水産研究所委託事業に採択され共同研究を開始した。</li> <li>・セキュリティ、医療、生活サポート等、安全な視点を加えた、健康づくりの仕組みを構築するため、MBT研究所・栃木県高根沢町、北関東総合警備保障(株)との連携協定を締結した。</li> <li>・周産期の妊産婦を対象に、電話相談を中心とした見守り支援サービスに向けた実証実験を行うため、富士通(株)・奈良医大・MBTコンソーシアムと連携した。</li> <li>・MBTコンソーシアム委員会へMBT研究所も参画し、部会会議の活動を強化した。</li> <li>・まちづくりフィールドを具現化するため橿原市今井町にMBT活動の一環として改修・整備を行っていた住宅施設がゲストハウスとして新しく竣工し今井町ゲストハウスとして共用を開始した。</li> <li>・県民参加のイベントを健康相談会を開催(健康フェア2017・MBT健康長寿フェア in 今井町 高取町薬の町漢方マルシェ)した。</li> <li>・大学院内の専攻科目に「MBT学」を設置した。</li> <li>・平成30年度には、MBTの研究成果の周知を図るため展示会等(はっとう！！神戸健康フェア・「着物でジャズ、今井町」による健康相談・奈良県防災総合訓練展示会・第1回医療ITEXPO東京・奈良県立医科大学健康フェア2018・けいはんなビジネスメッセ・日経デジタルヘルスディ2018・くすりの町の漢方マルシェによる健康相談・日経セミナー・イノベーションストリームKANSA)に出展し健康に関する研究成果を発表した。</li> <li>上記以外では、「MBT記念シンポジウム」(9/19)・「MBTオープンミーティング2018in東京」(11/27)や「MBT技術交流会」(2/20)を開催し、本学の研究シーズや研究成果を広く全国に公表するとともに、中国老人医療福祉全国大会(上海6/18)でMBTの研究成果を世界にも発表・周知した。</li> <li>・活動の普及強化のための新たな拠点として、(株)タカトリ内に奈良県立医科大学産学官連携推進センター(MBT(医学を基礎とするまちづくり)研究所分室)を開設した。</li> <li>・MBT構想をより現実のものとして拡張させるため、大学発ベンチャー企業を認定した。</li> <li>・橿原市・コンソーシアムとともに自治体と医療が連携した「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証実験を行った。</li> <li>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</li> </ul>	研 関 係 各 課

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属
		第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		
	<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の取組を通して、本学における研究面での地域貢献及び社会貢献に取り組んだ。</li> <li>・研究推進戦略本部会議を開催し、重点研究課題の進捗管理や県民への研究成果を還元した。</li> <li>・大和漢方医学薬学センターを設置・運営し、漢方における人材育成や地域医療関係者や県民等に向けたセミナー等開催することで漢方の普及に貢献した。</li> <li>・MBTの研究成果を還元した。</li> <li>・産学連携推進のため、民間企業と共同研究講座を設置した。(生体分子不均衡制御学共同研究講座、血栓止血医薬生物学共同研究講座)</li> <li>・AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「V-iClinix講座」等を設置した。</li> <li>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</li> <li>・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を図るため、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。</li> <li>・活動の強化のための新たな拠点として、(株)タカトリ内に奈良県立医科大学産学官連携推進センター (MBT (医学を基礎とするまちづくり) 研究所分室) を開設した。</li> <li>・地域企業等への還元のため、100を超えるコンソーシアム企業と連携しMBT研究を継続して実施した。</li> <li>・自治体・コンソーシアム会員企業とともに、地域住民への健康づくりのため、運動教室や健康に関するブースをイベントにて出展した。</li> <li>・自治体・コンソーシアム会員企業とともに自治体と医療が連携した「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証実験を行った。</li> <li>・MBT構想をより現実のものとするため、大学発ベンチャー企業を認定した。(奈良医大認定1号)</li> </ul> <p>以上のことから、計画を上回って十分に実施した。</p>	自己 評価	S	研

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																												
4 健康増進の県民アプローチの充実									第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																														
<p>〔中期目標〕</p> <p>・県民の健康増進支援組織を設置・運営する</p> <p>〔中期計画〕</p> <p>市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。</p> <table border="1" data-bbox="255 363 931 517"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県民の健康増進支援組織の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置検討</td> <td>設置・運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>県民健康増進支援センター設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→	実績		県民健康増進支援センター設置	運営				→	特記事項								15	県民の健康増進を図る支援組織の設置・運営	<p>・本法人内に県民健康増進支援センターを設置し、5年間で県・県内32市町村の健康増進事業に協力した。</p> <p>・会議や研修会、ニューズレターで積極的に広報を行い、県市町村からの分析や助言依頼等も年々増加(H26:20件、H27:23件、H28:24件、H29:25件、H30:26件)した。また、公的統計データの利用申請を行い、ビッグデータを用いた分析も実施した。</p> <p>・得られた成果を学術学会等で積極的に発信することに努め、PubMed対象の英文学術論文数が延べ17本となった。</p>	総 研 教 経 企
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→																															
	実績		県民健康増進支援センター設置	運営				→																															
	特記事項																																						
		16	公開講座の充実等による予防医学や健康づくりに関する情報の提供	<p>・年2回、県民向けの公開講座である「くらしと医学」をより身近で実践的なテーマで開催、県民に予防医学の研究成果を還元すると共に日常の健康づくりを推進した。</p> <p>・より多くの県民に聴講してもらえるよう、H29年からはチラシの配布のみならず、駅へのポスター掲示、県や民間のデジタルサイネージの活用等、広報の工夫を行った。</p>	総 研 教 経 企																																		
		17	奈良県健康長寿コホースタディ、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元	<p>・平成27～30年度にかけて、県民の予防医学、健康づくりのための適切な情報を提供するため、奈良県民合計1万人を対象とした3つのサブコホート研究を「奈良県健康長寿大規模コホースタディ」として開始し、継続的に推進した。</p> <p>・平成28～30年度には、研究推進戦略本部会議で成果報告会を開催し、進捗管理を行った。</p> <p>・平成30年度には、県民の健康増進への意識向上、セルフケアの支援を目的に県民公開講座「くらしと医学」で報告会を開催し研究成果を地域に還元した。</p> <p>・県民へのMBT構想の普及のための一つのツールとして健康相談を中心とした「健康フェア」を開催し研究成果を還元した。</p>	研 関 係 各 課																																		
		総括	<p>・県民の健康増進支援組織を設置・運営し、会議や研修会公開講座を通して、予防医学や健康づくりに関する情報提供を行った。</p> <p>・また、奈良県民1万人以上を対象とした3つのサブコホート研究を「奈良県健康長寿大規模コホースタディ」として開始した。</p> <p>以上のことから、計画を十分実施できた。</p>	自己 評価	A	総																																	

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務所属																																																											
I 地域貢献<診療関連>																																																																	
5 断らない救急医療体制の整備						事務主管課:病院管理課																																																											
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重篤な救急患者の高度救命救急センターの受入率を100%に近づける</li> <li>重篤な救急患者を断らないシステムを構築する</li> <li>県内救急搬送のコーディネート機能を活用する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。</p>		18 重篤な救急患者等のスムーズな受入のための院内体制再構築及び、県内救急搬送コーディネート機能の支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>重篤な救急患者等のスムーズな受入体制整備のため、院内で協議を重ねた。</li> <li>H27年度から関連病院との重症腹症（腹痛・吐血）救急患者受入ネットワークと土日ERを開始し、H29年度からは土日祝（年末年始・GW除く）ERIに拡大した。</li> <li>H28年にドクターヘリを導入、H29年度には当院屋上にヘリポートを設置（平成30年2月26日から運用開始）したこと等により、救急患者受入数はH29年度169件がH30年度は234件に増加した。</li> <li>重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率は、受け入れ患者数がH25年度比増加したにも関わらず向上した。</li> </ul>		病管																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 85.7%</td> <td>87%</td> <td>89%</td> <td>91%</td> <td>93%</td> <td>95%</td> <td>100%に近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>81.2% (151/186件)</td> <td>98.7% (75/76件)</td> <td>91.3% (167/183件)</td> <td>95.1% (194/204件)</td> <td>94.0% (328/349件)</td> <td>91.8% (370/403件)</td> </tr> <tr> <td>参考指標 (救急患者受入率)</td> <td></td> <td>66.6%</td> <td>79.8%</td> <td>81.8%</td> <td>89.6%</td> <td>89.3%</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内救急搬送コーディネート機能の運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内救急搬送コーディネート機能の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>ERプロジェクトの実施</td> <td>ERの拡大に向け検討・協議</td> <td>土日ERの実施</td> <td>休日ERの検討</td> <td>土日祝ERの実施</td> <td>土日祝ERの継続</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)	94.0% (328/349件)	91.8% (370/403件)	参考指標 (救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%	89.3%	89.6%	県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始				→	実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討	土日祝ERの実施	土日祝ERの継続	特記事項								19 救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制の整備		<ul style="list-style-type: none"> <li>中南と地域の救急患者受入等意見交換会において、救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制について協議し、患者の受け入れと転院ルールを構築した。</li> <li>H27年度から関連病院との重症腹症（腹痛・吐血）救急患者受入ネットワークと土日ERを開始し、H29年度からは土日祝（年末年始・GW除く）ERIに拡大した。</li> </ul>		病管	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																										
重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける																																																									
	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)	94.0% (328/349件)	91.8% (370/403件)																																																									
	参考指標 (救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%	89.3%	89.6%																																																									
県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始				→																																																									
	実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討	土日祝ERの実施	土日祝ERの継続																																																									
	特記事項																																																																
		20 高度救急医療を担う医師、看護師等の確保及び、専門医や認定看護師等の養成		<ul style="list-style-type: none"> <li>H25年度に高度救急医療を担う看護師を増員した。（HCUに看護師11名を増員）</li> <li>ドクターカーへの救命救急センター看護師の同乗を開始した。</li> <li>H29年度には、3名の看護師が特定行為研修の急性期コースを修了した。</li> <li>H30年度には、救急看護認定看護師志望の看護師3名を発掘した。</li> </ul>		病管 人																																																											
		21 医師等救急医療従事者の負担軽減対策（補助員配置、サービス、手当等）への取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師3名が特定行為研修の急性期コースを修了した。</li> <li>救急科看護師3名がドクターヘリOJT研修を受講しスキルアップを図った。</li> <li>ドクターカーへの救命救急センター看護師の同乗をH25年度から開始した。</li> <li>以上の取り組みで医師業務のタスクシフティングを図った。</li> <li>H27年度からER勤務医師への手当を創設した。</li> </ul>		病管 人 医 サ 経 企																																																											
		総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>重篤な救急患者等のスムーズな受入体制整備のため、院内で協議すると共に、中南と地域の救急患者受入等意見交換会において、病院間連携体制等について協議を重ね、患者の受け入れと転院ルールを構築した。</li> <li>H27年度から関連病院との重症腹症（腹痛・吐血）救急患者受入ネットワークと土日ERを開始し、H29年度からは土日祝（年末年始・GW除く）に実施日を拡大した。</li> <li>H28年度にドクターヘリを導入、H29年度には当院屋上にヘリポートを設置（平成30年2月26日から運用開始）したこと等により、H29年度169件がH30年度は234件に受入数が増加しており、救急患者受け入れ体制が強化された。</li> <li>重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率が受け入れ患者数がH25年度比増加（H25受け入れ要請 186人→H30 403人）したにも関わらず向上（H25 81.2%→H30 91.8%）した。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p>		自己評価 A 病管																																																											

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																																																																			
				第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																																																					
6 周産期医療体制の強化 〔中期目標〕 ・新生児・母体の県内受入率を100%に近づける 〔中期計画〕 総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。		6		〈事務主管課:病院管理課〉																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">母体県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 92.4%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>100%に 近づける</td> <td>100%に 近づける</td> <td>100%に 近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>92.6%</td> <td>94.7%</td> <td>95.2%</td> <td>90.4%</td> <td>97.6%</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">新生児県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>99.3%</td> <td>98.0%</td> <td>99.2%</td> <td>99.3%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内搬送コーディネートの運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内搬送 コーディネ ット機能 の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>母体搬送 コーディネ ット体制 の検討</td> <td>母体搬送 コーディネ ットの 開始</td> <td>母体搬送 コーディネ ットの 実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける	100%に 近づける	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%	97.6%	97.1%	特記事項								新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績		100%	100%	99.3%	98.0%	99.2%	99.3%	特記事項								県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ット機能 の検討	運用開始				→	実績		母体搬送 コーディネ ット体制 の検討	母体搬送 コーディネ ットの 開始	母体搬送 コーディネ ットの 実施			→	特記事項								22	GCUの増床等、総合周産期母子医療センターの機能充実	・H28年度E棟オープン時からNICUを3床、GCUを12床増床(NICU21床、GCU24床、MFICU6床)し総合周産期母子医療センターの機能充実を図った。	病管
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																	
母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける	100%に 近づける																																																																																	
	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%	97.6%	97.1%																																																																																	
	特記事項																																																																																								
新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																																	
	実績		100%	100%	99.3%	98.0%	99.2%	99.3%																																																																																	
	特記事項																																																																																								
県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ット機能 の検討	運用開始				→																																																																																	
	実績		母体搬送 コーディネ ット体制 の検討	母体搬送 コーディネ ットの 開始	母体搬送 コーディネ ットの 実施			→																																																																																	
	特記事項																																																																																								
		23	施設間ネットワークとの連携による、県内母体・新生児搬送コーディネート機能の充実	・H26年度から当院、奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院等が奈良県周産期医療ネットワークを形成し、コーディネーター制度を運用。 ・奈良県周産期医療協議会において県内の周産期医療の現状を把握し、周産期医療体制について協議した。 ・総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体県内搬送受入率は向上傾向(H25 92.6%→H30 97.1%)にある。 また、新生児の県内搬送受入率は6年間概ね100%を確保した。	病管																																																																																				
		24	高度周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材養成・確保	・研修プログラムを作成すると共に、院内向けに新生児医療勉強会等を開催し、スタッフのスキル向上を行った。 ・県内周産期従事者を対象にした長期療養児在宅医療・在宅(小児)訪問推進研修会のジュニアコースとシニアコースを開催し、人材養成を行った。	病管																																																																																				
		総括	・NICUを3床、GCUを12床増床(NICU21床、GCU24床、MFICU6床)し、総合周産期母子医療センターの機能充実を図った。 ・県外への母体搬送は、当院が受け入れ不可で他府県に紹介した例は、H25年度18件発生したがH30年度は7件と11件減少した(県内受入率H25 92.6%→H30 97.1%)。また新生児の県内搬送受入率も6年間概ね100%で推移しており、母体搬送コーディネート機能は強化された。 ・奈良県周産期医療協議会において県内の周産期医療の現状を把握し、周産期医療体制について協議した。 ・院内向け研修プログラムを作成すると共に研修会を開催し、スタッフのスキル向上を行った。 ・県内周産期従事者を対象にした長期療養児在宅医療・在宅(小児)訪問推進研修会のジュニアコースとシニアコースを開催し、人材養成を図った。 以上のことから、計画を十分に実施した。	自己 評価  A	病管																																																																																				

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																																																																																				
									第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																																																																						
									〈事務主管課:経営企画課〉																																																																																																						
7 他の医療機関との連携強化 〔中期目標〕 ・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患」の地域医療連携バスの運用件数200件を目指す ・認知症疾患医療センターを設置・運営する ・中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する ・紹介率75%、逆紹介率60%を目指す 〔中期計画〕 各種地域医療連携バス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。		25 連携登録医制度の導入、予約診療等の拡充による逆紹介等の促進							<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携登録医制度を導入(平成25年度)し、連携体制を構築した。(H30年度末登録数 359名)</li> <li>・地域医療機関に予約診療を推進し、予約診療件数(件/年)の増加に取り組んだ。 (㉔9,431 ㉕10,224 ㉖11,398 ㉗11,712 ㉘12,552 ㉙13,509)</li> <li>・紹介率㉕75.4%→㉖93.6%(18.2%の増加)、逆紹介率㉕43.9%→㉖77.8%(33.9%の増加)となり大幅に増加した。</li> </ul>		経企																																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">地域医療連携バスの運用件数</td> <td>指標</td> <td>H23 137件</td> <td>140件</td> <td>150件</td> <td>165件</td> <td>200件</td> <td>200件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>127件</td> <td>200件</td> <td>479件</td> <td>447件</td> <td>545件</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間運用件数は596件であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 74.2%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>75.4%</td> <td>79.3%</td> <td>84.7%</td> <td>90.7%</td> <td>93.6%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間紹介率は93.6%であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">逆紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 42.1%</td> <td>43%</td> <td>48%</td> <td>53%</td> <td>56%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>43.9%</td> <td>52.0%</td> <td>59.0%</td> <td>63.9%</td> <td>71.5%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間逆紹介率は77.8%であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中核的な緩和ケアセンターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>構想策定</td> <td>本格稼働</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>機能充実とあり方の検討</td> <td>新指針への対応</td> <td>整備要件への対応</td> <td>機能の充実</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	地域医療連携バスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	200件	200件	実績		127件	200件	479件	447件	545件	特記事項	年間運用件数は596件であり、目標達成している。							紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%	93.6%	特記事項	年間紹介率は93.6%であり、目標達成している。							逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	60%	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%	71.5%	特記事項	年間逆紹介率は77.8%であり、目標達成している。							中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働			→	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実	→	特記事項								26 各種地域医療連携バスの拡充、退院調整の効果的運用等による地域医療連携の推進							<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携バスの運用促進に向け既存バス(脳卒中バス、虚血心疾患バス、乳がんバス)の運用方法等の見直しを図った。</li> <li>・平成30年度に入退院支援センターを設置し、退院調整の効果的運用に向け体制を強化した。</li> <li>・地域包括ケアシステム奈良医大モデル推進会議を平成29年度に発足し、奈良医大としての取組むべき方針を確認した。</li> <li>・中和地域における在宅医療の現状理解を深めるため、中和在宅診療研究会を平成30年度に発足し継続開催している。</li> <li>・地域中核病院と連携協定を締結(平成29年度:平成記念病院、平成30年度:大和高田市立病院)し病連携に取り組んだ。</li> </ul>		経企
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																								
地域医療連携バスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	200件	200件																																																																																																								
	実績		127件	200件	479件	447件	545件																																																																																																								
	特記事項	年間運用件数は596件であり、目標達成している。																																																																																																													
紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%																																																																																																								
	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%	93.6%																																																																																																								
	特記事項	年間紹介率は93.6%であり、目標達成している。																																																																																																													
逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	60%																																																																																																								
	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%	71.5%																																																																																																								
	特記事項	年間逆紹介率は77.8%であり、目標達成している。																																																																																																													
中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働			→																																																																																																								
	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実	→																																																																																																								
	特記事項																																																																																																														
		27 本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働							<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26年度に本県緩和ケア提供体制の中で、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たすべく稼働。</li> <li>・地域の病院・在宅療養支援診療所等との連携強化を図るため、緩和ケア地域連携カンファレンスを毎月実施し、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たした。(当院医師、看護師等と県内在宅診療所の医師、訪問看護ステーション看護師等が参加)</li> </ul>		病管																																																																																																				
		28 地域医療機関と連携して認知症高齢者受け入れのための基幹型認知症疾患医療センターの設置							<ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度に認知症医療等の連携拠点としての役割を果たすべく、基幹型認知症疾患センターを設置した。</li> <li>・連絡協議会の開催や県政策会議に参加するなど支援対策の構築に向けて取り組むとともに、地域の保健医療介護関係者の認知症対応力向上を目的とした事例検討会を開催し、基幹型認知症疾患医療センターとしての役割を果たした。</li> </ul>		病管																																																																																																				
		29 地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実							<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関に対し地域医療連携室の活動状況を伝える「地域医療連携室だより」を毎年度発行した。</li> <li>・見やすい画面へ地域連携室のホームページを修正すると共に、最新情報に随時更新した。</li> <li>・医療従事者等のニーズに沿ったテーマ(診療報酬改定の影響等)で「なら地域医療連携実務者協議会」を毎年度2回開催した。</li> <li>・地域医療機関の連携登録医と当院医師との交流を図るため、「連携登録医のつどい」を開催した。</li> <li>・医療機関による情報共有及び意見交換のため「地域医療連携懇話会」を毎年開催した。</li> </ul>		病管																																																																																																				
		総括							<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約診療の推進及び地域医療機関との連携を通じ、紹介率及び逆紹介率について、目標を大きく上回る実績を確保した。</li> <li>・地域連携バスの運用促進を図り、目標を大きく上回る運用件数を確保した。</li> <li>・病連携の推進を図り、地域中核病院2院と連携協定を締結した。</li> <li>・地域の医療従事者を対象にした講演会や研修会を開催し、情報共有やスキルアップ等に取り組んだ。</li> <li>・地域の病院・在宅療養支援診療所等との連携強化を図るため、中核的な緩和ケアセンターとして、緩和ケア地域連携カンファレンスを毎月実施した。</li> <li>・連絡協議会の開催や県政策会議に参加するなど支援対策の構築に向けて取り組むとともに、地域の保健医療介護関係者の認知症対応力向上を目的とした事例検討会を開催し、基幹型認知症疾患医療センターとしての役割を果たした。</li> </ul>		経企																																																																																																				
		以上のことから、計画を十分に達成した。							自己評価 A																																																																																																						

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																
<p>8 県内医療人への助言・指導</p> <p>〔中期目標〕</p> <p>・医療関係者に対する研修会等の開催回数を平成23年度に比べ倍増を目指す</p> <p>〔中期計画〕</p> <p>県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">研修会等の開催回数</td> <td>指標</td> <td>H23 2回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>3回</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>7回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	実績		3回	7回	6回	7回	6回	特記事項								<p>29*</p> <p>地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実(再掲: I-7)</p>		<p>自己評価</p> <p>第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価</p> <p>&lt;事務主管課: 病院管理課&gt;</p> <p>・医療従事者等のニーズに沿ったテーマ(診療報酬改定の影響等)で毎年度「なら地域医療連携実務者協議会」を開催し、県内医療従事者のスキル向上を図った。</p> <p>・医療機関に対し「地域医療連携室だより」を毎年度発行し、情報発信を行った。</p> <p>・がん診療拠点病院(まほろばPEACE緩和ケア研修会等)、総合周産期母子医療センター(長期療養児在宅医療研修会等)、基幹型認知症疾患医療センター(認知症事例検討会等)として、県内医療従事者等を対象に研修会等を開催し人材育成を行った。</p>		病管	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回																															
	実績		3回	7回	6回	7回	6回																															
	特記事項																																					
		<p>30</p> <p>臨床技能習得のためのスキルスラボの設置・運営及び地域へのオープン化</p>		<p>地域の医療技術者のスキルアップを支援するため、平成27年度、本学にスキルスラボを設置するとともに、スキルスラボ委員会において運営体制を確立し、県医師会や県看護協会と連携して地域の医療技術者が利用できるようにオープン化を実施した。</p>		教 病管																																
		<p>総括</p> <p>・医療関係者に対する研修会等のH30年度の開催回数は、目標の4回を上回る7回開催した。</p> <p>・医療従事者等のニーズに沿ったテーマ(診療報酬改定の影響等)で毎年度「なら地域医療連携実務者協議会」を開催し、県内医療従事者のスキル向上を図った。</p> <p>・医療機関に対し「地域医療連携室だより」を毎年度発行し、情報発信を行った。</p> <p>・がん診療拠点病院(まほろばPEACE緩和ケア研修会等)、総合周産期母子医療センター(長期療養児在宅医療研修会等)、基幹型認知症疾患医療センター(認知症事例検討会等)として、県内医療従事者等を対象に研修会等を開催し、人材育成を行った。</p> <p>・平成27年度にはスキルスラボの地域へのオープン化のあり方について方針を決定、平成30年度から地域の医療従事者が臨床技能を習得できるようスキルスラボのオープン化を実施した。</p> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p>		<p>自己評価</p> <p>A</p>		病管																																



中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																																																																																																																																												
II 教育																																																																																																																																																																							
1 リベラルアーツ教育の実践 医の心をもった医療人の育成 医療経営に関する教育の確保																																																																																																																																																																							
<事務主管課:教育支援課>																																																																																																																																																																							
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部有識者を含む一般教育検討委員会を設置・運営する</li> <li>リベラルアーツ教育に沿った新カリキュラムを導入する</li> <li>医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合90%を目指す</li> <li>大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。</p>																																																																																																																																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入</td> <td>指標</td> <td>・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査</td> <td>新カリキュラム(案)策定</td> <td>新カリキュラム導入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学の加学履修実施</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入</td> <td>新カリキュラムの本格導入</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 30.6%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>38% (93%)</td> <td>38% (91%)</td> <td>35% (92%)</td> <td>19% (85%)</td> <td>36% (91%)</td> <td>43% (91%)</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 33.2%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>41% (95%)</td> <td>40% (91%)</td> <td>36% (93%)</td> <td>28% (90%)</td> <td>30% (94%)</td> <td>12% (93%)</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> <td>指標</td> <td colspan="9">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="9">「医療経営学」を主科目として学生募集</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="9"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">31</td> <td colspan="7">一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築</td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部委員も参画した「一般教育検討委員会」を設置し、新カリキュラムの原案を平成25年に作成した。</li> <li>その原案を基に、本学と奈良県との「奈良県立医科大学の将来像策定会議」で約2年間かけて議論し、「良き医療人の育成」を目的とした新カリキュラム「教育改革2015」を策定し、導入した。</li> <li>また、外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)を踏まえ、継続的にカリキュラム等のブラッシュアップを行った。</li> </ul> </td> <td>教 人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">32</td> <td colspan="7">アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握</td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生支援のあり方、教育・学内環境を改善するための基礎資料とするために、学生生活の実態や健康状態、医師又は看護師になる自覚やカリキュラムの満足度に関する調査を学生生活実態調査として3年毎(H25、H28)に実施し、その結果を学生白書として取りまとめ、学生及び教職員に配付するとともに学生支援委員会で検討した。</li> <li>医師又は看護師になる自覚やカリキュラムの満足度に関する調査については、毎年、全学年に実施し、学生の意見を的確に把握するため、回答の選択理由についても把握した。</li> </ul> </td> <td>教</td> </tr> <tr> <td colspan="2">33</td> <td colspan="7">大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置</td> <td colspan="2"> <p>医療人として必要な経営概念の理解・修得を目指した人材育成を目的として「医療経営学」を大学院医学研究科修士課程に設置し、主科目として学生の募集を行い、1名の修了者を輩出した。</p> </td> <td>教</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総括</td> <td colspan="7"> <ul style="list-style-type: none"> <li>本学と奈良県が共同で設置する「奈良医大の将来像策定会議」で約2年間かけて議論し、「良き医療人の育成」を目的とした新カリキュラム「教育改革2015」を策定し、導入することに加え、外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえ、毎年度カリキュラムのブラッシュアップを実施した。</li> <li>毎年度、全学年を対象に「学生の意識及び授業に関するアンケート調査」を実施し、「医師及び看護師としての自覚を持っている学生の割合」の平均が、医学科：90.8%、看護学科：92.6%と、双方の学科ともに90%を越えた。</li> <li>第2期中期計画の2年目に当たる平成26年度に医療経営学を設置するとともに、平成27年度には、主科目として学生募集を行い、本計画の早期から医療人として必要な経営概念の理解・修得を目指した人材育成を実施した。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p> </td> <td>自己 評価  A</td> <td>教</td> </tr> </tbody> </table>											項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入				実績	・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学の加学履修実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入	新カリキュラムの本格導入			特記事項							医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)	36% (91%)	43% (91%)	特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。							指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		41% (95%)	40% (91%)	36% (93%)	28% (90%)	30% (94%)	12% (93%)	特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。							大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営									実績	「医療経営学」を主科目として学生募集									特記事項										31		一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築							<ul style="list-style-type: none"> <li>外部委員も参画した「一般教育検討委員会」を設置し、新カリキュラムの原案を平成25年に作成した。</li> <li>その原案を基に、本学と奈良県との「奈良県立医科大学の将来像策定会議」で約2年間かけて議論し、「良き医療人の育成」を目的とした新カリキュラム「教育改革2015」を策定し、導入した。</li> <li>また、外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)を踏まえ、継続的にカリキュラム等のブラッシュアップを行った。</li> </ul>		教 人	32		アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握							<ul style="list-style-type: none"> <li>学生支援のあり方、教育・学内環境を改善するための基礎資料とするために、学生生活の実態や健康状態、医師又は看護師になる自覚やカリキュラムの満足度に関する調査を学生生活実態調査として3年毎(H25、H28)に実施し、その結果を学生白書として取りまとめ、学生及び教職員に配付するとともに学生支援委員会で検討した。</li> <li>医師又は看護師になる自覚やカリキュラムの満足度に関する調査については、毎年、全学年に実施し、学生の意見を的確に把握するため、回答の選択理由についても把握した。</li> </ul>		教	33		大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置							<p>医療人として必要な経営概念の理解・修得を目指した人材育成を目的として「医療経営学」を大学院医学研究科修士課程に設置し、主科目として学生の募集を行い、1名の修了者を輩出した。</p>		教	総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>本学と奈良県が共同で設置する「奈良医大の将来像策定会議」で約2年間かけて議論し、「良き医療人の育成」を目的とした新カリキュラム「教育改革2015」を策定し、導入することに加え、外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえ、毎年度カリキュラムのブラッシュアップを実施した。</li> <li>毎年度、全学年を対象に「学生の意識及び授業に関するアンケート調査」を実施し、「医師及び看護師としての自覚を持っている学生の割合」の平均が、医学科：90.8%、看護学科：92.6%と、双方の学科ともに90%を越えた。</li> <li>第2期中期計画の2年目に当たる平成26年度に医療経営学を設置するとともに、平成27年度には、主科目として学生募集を行い、本計画の早期から医療人として必要な経営概念の理解・修得を目指した人材育成を実施した。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p>							自己 評価  A	教
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																
外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入																																																																																																																																																																			
	実績	・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学の加学履修実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入	新カリキュラムの本格導入																																																																																																																																																																		
	特記事項																																																																																																																																																																						
医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																																																																																															
	実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)	36% (91%)	43% (91%)																																																																																																																																																															
	特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。																																																																																																																																																																					
	指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																																																																																															
	実績		41% (95%)	40% (91%)	36% (93%)	28% (90%)	30% (94%)	12% (93%)																																																																																																																																																															
特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。																																																																																																																																																																						
大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営																																																																																																																																																																					
	実績	「医療経営学」を主科目として学生募集																																																																																																																																																																					
	特記事項																																																																																																																																																																						
31		一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築							<ul style="list-style-type: none"> <li>外部委員も参画した「一般教育検討委員会」を設置し、新カリキュラムの原案を平成25年に作成した。</li> <li>その原案を基に、本学と奈良県との「奈良県立医科大学の将来像策定会議」で約2年間かけて議論し、「良き医療人の育成」を目的とした新カリキュラム「教育改革2015」を策定し、導入した。</li> <li>また、外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)を踏まえ、継続的にカリキュラム等のブラッシュアップを行った。</li> </ul>		教 人																																																																																																																																																												
32		アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握							<ul style="list-style-type: none"> <li>学生支援のあり方、教育・学内環境を改善するための基礎資料とするために、学生生活の実態や健康状態、医師又は看護師になる自覚やカリキュラムの満足度に関する調査を学生生活実態調査として3年毎(H25、H28)に実施し、その結果を学生白書として取りまとめ、学生及び教職員に配付するとともに学生支援委員会で検討した。</li> <li>医師又は看護師になる自覚やカリキュラムの満足度に関する調査については、毎年、全学年に実施し、学生の意見を的確に把握するため、回答の選択理由についても把握した。</li> </ul>		教																																																																																																																																																												
33		大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置							<p>医療人として必要な経営概念の理解・修得を目指した人材育成を目的として「医療経営学」を大学院医学研究科修士課程に設置し、主科目として学生の募集を行い、1名の修了者を輩出した。</p>		教																																																																																																																																																												
総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>本学と奈良県が共同で設置する「奈良医大の将来像策定会議」で約2年間かけて議論し、「良き医療人の育成」を目的とした新カリキュラム「教育改革2015」を策定し、導入することに加え、外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえ、毎年度カリキュラムのブラッシュアップを実施した。</li> <li>毎年度、全学年を対象に「学生の意識及び授業に関するアンケート調査」を実施し、「医師及び看護師としての自覚を持っている学生の割合」の平均が、医学科：90.8%、看護学科：92.6%と、双方の学科ともに90%を越えた。</li> <li>第2期中期計画の2年目に当たる平成26年度に医療経営学を設置するとともに、平成27年度には、主科目として学生募集を行い、本計画の早期から医療人として必要な経営概念の理解・修得を目指した人材育成を実施した。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p>							自己 評価  A	教																																																																																																																																																													

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																																																			
<b>2 教育内容の評価</b> [中期目標] ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す ・評価体制の構築と評価を実施する  [中期計画] 教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。		34 双方向の授業評価システムの構築及び実施による授業の改善		・授業評価を全教育課程の全授業で実施するとともに、教員に評価結果を基にした授業改善調査及び経年的な改善の有無を調査を実施した。 ・毎年度、評価結果及び集計結果を取りまとめ、担当教員へ通知するとともに、経年的な分析を踏まえてHPへ公表し、授業の改善を行った。 ・授業評価から授業内容や教育手法の課題等を的確に把握するため、医学科、看護学科それぞれの学生にインタビューを実施し、学生の意見も取り入れた新たな授業評価アンケート調査票を2019年度中に開発し、試行することを決定した。		教																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 38% 授業 31%</td> <td>カリキュラム 41% 授業 33%</td> <td>カリキュラム 40% 授業 35%</td> <td>カリキュラム 46% 授業 36%</td> <td>カリキュラム 36% 授業 23%</td> <td>カリキュラム 34% 授業 22%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 16% 授業 14%</td> <td>カリキュラム 10% 授業 4%</td> <td>カリキュラム 8% 授業 7%</td> <td>カリキュラム 11% 授業 10%</td> <td>カリキュラム 19% 授業 9%</td> <td>カリキュラム 14% 授業 16%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">授業内容・教員の評価体制</td> <td>指標</td> <td></td> <td>評価体制の検討・構築</td> <td></td> <td></td> <td>評価の実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>医学科・看護学科全科目の授業評価を実施</td> <td>両学科の全科目の授業評価を実施</td> <td>両学科の全科目の授業評価を実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%	カリキュラム 40% 授業 35%	カリキュラム 46% 授業 36%	カリキュラム 36% 授業 23%	カリキュラム 34% 授業 22%	カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 16% 授業 14%	カリキュラム 10% 授業 4%	カリキュラム 8% 授業 7%	カリキュラム 11% 授業 10%	カリキュラム 19% 授業 9%	カリキュラム 14% 授業 16%	授業内容・教員の評価体制	指標		評価体制の検討・構築			評価の実施			実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施				特記事項								35 教員の表彰制度の導入		・適正に教員の教育能力を評価するためにFD活動実績と医学教育フォーラムにおけるレポートの内容がともに優れた者を表彰する制度を構築した。 ・本学の学報に表彰記事を掲載し、積極的な広報を実施した。		教
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																		
カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																																	
	実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%	カリキュラム 40% 授業 35%	カリキュラム 46% 授業 36%	カリキュラム 36% 授業 23%	カリキュラム 34% 授業 22%																																																																	
カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																																	
	実績		カリキュラム 16% 授業 14%	カリキュラム 10% 授業 4%	カリキュラム 8% 授業 7%	カリキュラム 11% 授業 10%	カリキュラム 19% 授業 9%	カリキュラム 14% 授業 16%																																																																	
授業内容・教員の評価体制	指標		評価体制の検討・構築			評価の実施																																																																			
	実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施																																																																				
	特記事項																																																																								
		36 FD研修会の実施による教育能力の向上		・教員を対象とした研修会を定期的実施するとともに、新任教員の受講義務化を徹底した。 ・効果的な教育手法の普及を図るため、研修会の実施形式を従来までの聴講型だけでなく、討論形式の参加型の講演も取り入れる等、研修形式及び研修内容等の工夫を実施した。		教																																																																			
		総括		・毎年度、全教育課程の全授業で授業評価を実施するとともに、評価結果及び集計結果を取りまとめ、担当教員へ通知するなど、授業改善のための材料として活用した。また、内容や様式を継続的に見直すとともに、2019年度には学生の意見も取り入れた新たな授業評価アンケート調査票を開発し、試行することも決定した。 ・FD活動実績と医学教育フォーラムにおけるレポートの内容がともに優れた者を表彰する制度を構築し、構築後の4年間で13名の教員を表彰した。 ・教員を対象とした研修会を毎年度、複数回実施するとともに、本研修への新任教員の受講の義務化を図るなど参加者増に繋げる取り組みを実施した。また、教員により効果的な教育手法の普及を促進するため、継続的に、研修形式及び研修内容の工夫を行った。  FD活動の活性化及び教員と学生の双方向性の授業評価システムの取組により、カリキュラムと授業の進め方の指標について、医学科は目標値には達していないが改善され、看護学科は目標値を5ポイント程度上回っており、講義・実習の充実が図られたことから、計画を十分に実施した。		自己 評価  A	教																																																																		

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																
<p>3 老朽・狭隘施設への対策</p> <p>[中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</p> <p>[中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想 策定</td> <td>→</td> <td>基本設計 着手</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>建築工事 発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想 検討</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>基本計画 検討</td> <td>基本計画 検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手	→	→	建築工事 発注準備	実績		基本構想 検討	→	→	→	基本計画 検討	基本計画 検討・策定	特記 事項								<p>37 平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進</p>	<p>・平成28年度末に「奈良県立医科大学の将来像」の成案を取りまとめた。 併せて施設整備の成案として、キャンパスのあり方を整理した「キャンパスマスタープラン」、施設整備内容を整理した「施設整備基本構想」及び整備概要を視覚化した「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を取りまとめた。 ・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を県とともに報道発表し、広く世間に公表した。 ・平成30年2月に県から①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度(令和6年度)中に「先行整備」が竣工すること③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年を対象となることが示された。 ・平成28年に新キャンパス整備基本計画策定業務を委託し、他の大学病院の視察を行ったうえ、県と協議を重ねながら検討を行い、平成31年3月に同計画の成案を取りまとめた。 ・都市計画法上の「地区計画」決定に向け、県・橿原市と協議を重ねながら、地元理解を求めるため地元説明会を開催した。</p>	<p>事務 所属 &lt;事務主管課:キャンパス整備推進室&gt;</p>
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
新キャンパスの整備	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手	→	→	建築工事 発注準備																														
	実績		基本構想 検討	→	→	→	基本計画 検討	基本計画 検討・策定																														
	特記 事項																																					
	<p>38 教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営</p>	<p>・県と医大による教育・研究部門等移転対策検討委員会において基本構想の検討を進めていたが、本学の将来像の再構築も合わせて行うよう県から指示された。 ・新たに「医大の将来像策定会議」及び同WG、教育・研究・診療・まちづくりに関するサブWGを設置し検討を重ねた。 (開催回数) H25 策定会議 2回 同WG 5回 H26 策定会議 9回 同WG 10回 H27 策定会議 9回 同WG 9回 H28 策定会議 10回 同WG 10回</p>	<p>事務 所属 キャン 施管 教</p>																																			
	<p>総括</p>	<p>・教育・研究部門等移転対策検討委員会で行っていた基本構想については、「医大の将来像策定」(県と共同検討)と併行して行うことが県から指示され、平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」が「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」とともに公表された。 ・平成30年2月15日に県から整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度(令和6年度)中に「先行整備」が竣工すること③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年を対象となることが示された。 ・その後、先行整備を主とした施設整備基本計画を策定した。</p> <p>以上のことから、平成33年度中の新キャンパスオープンという計画は、「先行整備」として規模を縮小されたうえ、その竣工が平成36年度(令和6年度)中となったため、目標達成に至らなかった。</p>	<p>自己 評価 B</p>	<p>事務 所属 キャン</p>																																		

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																														
Ⅲ 研究																																				
1 研究の適切な成果評価																																				
〔中期目標〕 ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する																																				
〔中期計画〕 研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む 評価委員会の設 置・運営 (再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>H26年3月 設置</td> <td>評価のあり 方検討</td> <td>学外有識者 委員の選定</td> <td>評価手法の 構築</td> <td>評価項目の 検討</td> <td>学外有識者 を含む評価委員 会の運営</td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>							項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む 評価委員会の設 置・運営 (再掲: I-3)	指標	設置	運営					実績	H26年3月 設置	評価のあり 方検討	学外有識者 委員の選定	評価手法の 構築	評価項目の 検討	学外有識者 を含む評価委員 会の運営	特記 事項						
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
外部有識者を含む 評価委員会の設 置・運営 (再掲: I-3)	指標	設置	運営																																	
	実績	H26年3月 設置	評価のあり 方検討	学外有識者 委員の選定	評価手法の 構築	評価項目の 検討	学外有識者 を含む評価委員 会の運営																													
	特記 事項																																			
11*	研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進戦略本部を平成25年度に設置し、研究推進戦略本部会議を月に1回程度定期的に開催し、平成28～29年度にかけて研究に関する将来構想、研究活動に係る課題ごとの基本方針及び重点研究2016推進計画を策定した。</li> <li>健康寿命延伸のための特色ある3つのサブコホート研究、超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)の研究、血栓止血の制御に関する研究、画像下での低侵襲医療に関する研究及び良き医療人を育てる研究を、平成28年度に重点研究課題とし、以降平成30年度まで研究推進戦略本部会議で進捗管理を行い研究を推進した。</li> <li>平成30年度には、極めて高い研究業績をあげた研究者に対する顕彰制度「奈良県立医科大学賞」を創設した。</li> </ul>				研 関 係 各 課																														
12*	研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度に外部有識者を含む研究評価委員会を設置した。</li> <li>平成26～28年度には、本学における研究面での地域貢献及び社会貢献を図るため、他学の取組を参考にしながら、本学における研究成果の適切な評価のあり方、評価項目について検討した。</li> <li>適切な評価のためには研究者ごとの論文業績等研究データの蓄積が必要であるため、平成29年度に研究者情報データベースのシステム構築を行うとともに平成30年度には、本学の助教以上の教員について、研究者情報データベースへの入力を完成した。</li> <li>平成30年度には、外部有識者を交えた研究評価委員会を開催・運営し、「研究成果の見える化」を目指し、大学としての研究力、特色ある分野、学内の共同研究グループの研究を評価・分析した。</li> </ul>				研 関 係 各 課																														
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の取組を通して、本学における研究成果について評価できる体制を整備した。</li> <li>外部有識者を交えた研究評価委員会を設置、運営を実施した。</li> <li>医学研究について極めて高い研究業績をあげ、本学に貢献した研究者をたたえることを目的とした「奈良県立医科大学賞」を新設した。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を十分実施した。</p>	自己 評価	A	研																																

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																																											
									第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																													
									＜事務主管課:研究推進課＞																																																													
<p>2 有能な研究者の獲得</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎医学系教員14名以上の育成を目指す</li> <li>・PubMed対象の英文学術論文数を延べ1,400件を目指す</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>PubMed: アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス</p> </div> <p>〔中期計画〕</p> <p>研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。</p>		<p>11*</p> <p>研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)</p>							<p>・将来像及び重点研究2016推進計画の議論の中で研究に対する取組が進みPubMed英文論文数も大幅に増加し、目標の1,400件に対し、2,398件を達成した。 有能な研究者の獲得及び本学の認知度の向上を目的とし以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進戦略本部を平成25年度に設置し、研究推進戦略本部会議を月に1回程度定期的に開催し、平成28～29年度にかけて、研究に関する将来構想、研究活動に係る課題ごとの基本方針及び重点研究2016推進計画を策定した。</li> <li>・平成28年度には、良き医療人を育てる研究を重点研究課題として定め、研究推進戦略本部で進捗管理をし研究推進に取り組んだ。</li> <li>・同年度有能な研究者の獲得に向け、血栓止血の制御に関する研究及び画像下での低侵襲医療に関する(IVR)研究を、日本を世界を牽引する重点研究課題として定め、以降30年度まで研究推進戦略本部において進捗管理し研究推進に取り組んだ。</li> <li>・平成30年度には、血栓止血制御に関する研究については血栓止血研究センター(大学講座1:血栓止血先端医学講座、寄附講座2:血友病教育講座、血栓止血分子病態学講座、共同研究講座1:血栓止血医薬生物学共同研究講座)を立ち上げ、IVRIに関する研究についてはIVR研究センターを設置した。</li> <li>・産学連携事業の一環として、奨学を目的とする民間企業等からの寄附金により、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「V-Clinix講座」等を設置した。</li> <li>・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向け連携活性化委員会を設置するとともに、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。</li> </ul>		研 関 係 各 課																																																											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">PubMed対象の英文学術論文数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H23 214件</td> <td>226件</td> <td>(累計) 446件</td> <td>(累計) 678件</td> <td>(累計) 916件</td> <td>(累計) 1160件</td> <td>(累計) 1400件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>240件</td> <td>(累計) 541件</td> <td>(累計) 913件</td> <td>(累計) 1356件</td> <td>(累計) 1871件</td> <td>(累計) 2398件</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎医学系教員育成数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H24 2名</td> <td>延べ4名</td> <td>延べ6名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ12名</td> <td>延べ14名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ5名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ13名</td> <td>延べ14名</td> <td>延べ15名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">研究医コース受講者数</td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件	(累計) 1871件	(累計) 2398件	特記事項								基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名	延べ14名	延べ15名	特記事項	研究医コース受講者数																
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																														
PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件																																																														
	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件	(累計) 1871件	(累計) 2398件																																																														
	特記事項																																																																					
基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名																																																														
	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名	延べ14名	延べ15名																																																														
	特記事項	研究医コース受講者数																																																																				
		<p>39</p> <p>基礎医学・社会医学研究者の増加を図るための研究医養成コースの充実</p>							<p>・基礎医学・社会医学研究者の増加を図るため、平成24年度に開始した研究医養成コース2年次編入学生を連携大学より11名を選抜し、学内受講生3名と合わせて延べ14名が受講した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9名が卒業し、内6名が臨床研修中で、3名は臨床研修を経て基礎医学系大学院に進学した。</li> <li>・受講生には奨学金(月額20万円)を貸与し、学会参加旅費を助成するなど研究支援を実施した。</li> <li>・学生の自主的な研究活動に対する支援制度を構築し、学生が学会、研究会等へ参加する際の交通費の助成(平成27年度から4年間:30件)及び各教室で研究活動を行った場合、当該教室に学生研究活動費の助成(平成27年度から4年間:22件)を実施した。</li> <li>・平成29年4月に「未来基礎医学講座」を開設し、学生の研究活動支援を開始した。</li> </ul>		教 研																																																											
		<p>40</p> <p>研究助教制度、顕彰制度、若手研究者支援制度の導入等、研究体制強化の取組実施</p>							<p>・学内共同研究プロジェクトとして、特別共同研究(横断的共同研究)助成事業を平成25年度に開始し、平成30年度まで継続的に実施し、学内における連携研究を推進した。 (助成研究課題:計14課題、H25:2課題、H26:3課題、H27:3課題、H28:2課題、H29:3課題、H30:1課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研究者を育成するため、若手研究者研究助成事業を平成25年度に開始し、平成30年度まで継続的に実施し、優秀な若手研究者に対し研究を支援した。 (助成研究課題:計53課題、H25:4課題、H26:9課題、H27:10課題、H28:10課題、H29:10課題、H30:10課題)</li> </ul>		研 関 係 各 課																																																											

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属
			第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		
	41	女性研究者の継続・復職支援の充実等による女性研究者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性研究者支援センターを中心として、ライフイベント中の女性研究者への研究支援員配置制度を平成25～30年度にかけて継続的に実施し、女性研究者の支援を図った。</li> <li>・教職員等の意識向上のため、ハラスメント研修会等、FD・SD講演会を平成26～30年度にかけて継続的に実施した。</li> <li>・女性研究者支援に関する広報・啓発として「まほろばだより」を平成25～30年度にかけて継続的に年4回発行した。</li> <li>・「女性研究者学術研究奨励賞」を創設し、平成25～30年度にかけて毎年度優秀者1名を決定し、授賞式を実施した。</li> <li>・平成28～30年度にかけて、本学女性教員に対し、科学研究費獲得支援事業獲得に向けて面談及び応募書類の添削指導等の支援を継続的に実施した。</li> </ul>		研 関係 各課
	総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来像及び重点研究2016推進計画の議論の中で研究に対する取組が進みPubMed英文論文数も大幅に増加し、目標の1,400件に対し、2,398件を達成した。</li> <li>・上記のとおり、有能な研究人材を育成・獲得し、本学の研究競争力を高める取組を実施した。</li> <li>・文部科学省科学研究費助成事業の採択率は本学では平均25%程度であるが、若手研究者研究助成事業に採択された53課題については、23課題が採択(43%)され平均を大きく上回った。</li> </ul> <p>また計画を上回る取組としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・M B Tの多数の研究成果を情報発信し、成果の報道は県内外を問わず中期計画期間中96件に及んだ。</li> <li>・産学連携を推進するため、民間企業と共同研究講座を設置した。(生体分子不均衡制御学共同研究講座、血栓止血医薬生物学共同研究講座)</li> <li>・AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。</li> <li>・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を図るため、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を上回って実施した。</p>		自己 評価	研 S



中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属	
			第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の普及強化のための新たな拠点として、(株)タカトリ内に奈良県立医科大学産学官連携推進センター (MBT(医学を基礎とするまちづくり)研究所分室)を開設した。</li> <li>・研究成果の地域への還元や地域企業等に役立つ研究成果創出のため、早稲田大学とも連携し共同研究を実施した。</li> <li>・MBTの研究成果の一つである健康や予防医学に関する研究成果を発表するとともに、生活習慣病予防、運動の意識改善を目的とした運動教室をコンソーシアム企業と開催し、県民に対して健康について意識の向上に貢献した。</li> <li>・地域企業等への還元のため、100を超えるコンソーシアム企業と連携しMBT研究を継続して実施した。</li> <li>・橿原市・コンソーシアムとともに自治体と医療が連携した「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証実験を行った。</li> <li>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</li> </ul>			
	17*	奈良県健康長寿コホースタディ、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲:I-4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27～30年度にかけて、県民の予防医学、健康づくりに貢献するため、奈良県民合計1万人を対象とした3つのサブコホート研究を「奈良県健康長寿大規模コホースタディ」として開始し、継続的に推進した。</li> <li>・平成28～30年度にかけて、研究推進戦略本部会議で毎年度奈良県健康長寿コホート研究に関する進捗状況報告会を開催し、定期的に進捗管理した。</li> <li>・健康増進に関する研究成果の県民への普及活動として、平成30年度には、奈良県健康長寿コホート研究について、県民公開講座「くらしと医学」で研究成果を発表した。</li> <li>・県民へのMBT構想の実現普及のための一つのツールとして健康相談を中心とした「健康フェア」を開催し研究成果を還元した。</li> </ul>			研 関係 各課
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記のとおり、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスの推進に向けた取組を実施した。</li> <li>・健康長寿コホート研究の成果発表会では、県民から興味深いという感想を多く得ることができ、健康についての関心向上が図られており、今後益々コホート研究の取組が推進される。</li> <li>・MBTの研究成果の一つである健康や予防医学の研究成果の発表や運動教室については、県民に対して健康について意識の向上に貢献した。</li> <li>・産学官連携を推進するため、(株)タカトリ内にMBT研究所分室を開設した。</li> <li>・MBT構想をより現実のものとするため、大学発ベンチャー企業を認定した。</li> <li>・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を図るため、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。</li> <li>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を上回って実施した。</p>		自己 評価	研 S



中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容						自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																					
<p>4 研究環境の改善</p> <p>[中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</p> <p>[中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。(再掲:Ⅱ-3)</p> <table border="1" data-bbox="264 359 943 501"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想 策定</td> <td>→</td> <td>基本設計 着手</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事 発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想 検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画 検討</td> <td>基本計画 検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td colspan="8"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手			→	建築工事 発注準備	実績		基本構想 検討				→	基本計画 検討	基本計画 検討・策定	特記 事項									<p>37* 平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3)</p>						<p>自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価 〈事務主管課:キャンパス整備推進室〉</p> <p>・平成28年度末に「奈良県立医科大学の将来像」の成案を取りまとめた。 併せて施設整備の成案として、キャンパスのあり方を整理した「キャンパスマスタープラン」、施設整備内容を整理した「施設整備基本構想」及び整備概要を視覚化した「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を取りまとめた。 ・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を県とともに報道発表し、広く世間に公表した。 ・平成30年2月に県から①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度(令和6年度)中に「先行整備」が竣工すること③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年を対象となることが示された。その結果、研究部門の整備は「継続整備」で行うこととなった。 ・平成28年に新キャンパス整備基本計画策定業務を委託し、他の大学病院の視察を行ったうえ、県と協議を重ねながら検討を行い、平成31年3月に同計画の成案をとりまとめた。 ・都市計画法上の「地区計画」決定に向け、県・橿原市と協議を重ねながら、地元理解を求めるため地元説明会を開催した。</p>		キャン 施管 研 教
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																							
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手			→	建築工事 発注準備																																						
	実績		基本構想 検討				→	基本計画 検討	基本計画 検討・策定																																						
	特記 事項																																														
		<p>38* 教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)</p>						<p>・県と医大による教育・研究部門等移転対策検討委員会において基本構想の検討を進めていたが、本学の将来像の再構築も合わせて行うよう県から指示された。 ・新たに「医大の将来像策定会議」及び同WG、教育・研究・診療・まちづくりに関するサブWGを設置し検討を重ねた。 (開催回数) H25 策定会議 2回 同WG 5回 H26 策定会議 9回 同WG 10回 H27 策定会議 9回 同WG 9回 H28 策定会議 10回 同WG 10回</p>		キャン 施管 研 教																																					
		<p>総括</p> <p>・教育・研究部門等移転対策検討委員会で行っていた基本構想については、「医大の将来像策定」(県と共同検討)と併行して行うことが県から指示され、平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」が「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」とともに公表された。 ・平成30年2月15日に県から整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度(令和6年度)中に「先行整備」が竣工すること③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年を対象となることが示された。その結果、研究部門の整備は「継続整備」で行うこととなった。 ・その後、先行整備を主とした施設整備基本計画を策定した。</p> <p>以上のことから、平成33年度中の新キャンパスオープンという計画は、「先行整備」として規模を縮小されたうえ、その竣工が平成36年度(令和6年度)度中となったため、目標達成に至らなかった。</p>						自己 評価	キャン B																																						

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																																																																																											
		第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																																																																													
IV 診療																																																																																																															
1 医師・看護師等の離職防止と人材確保			<事務主管課:人事課>																																																																																																												
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する</li> <li>女性医師数35名を目指す(後期臨床研修医を除く)</li> <li>看護師の離職率を5%未満を目指す</li> <li>就業規則を見直す</li> </ul> <p>[中期計画]</p> <p>医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。</p>	42	<p>仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営</p> <p>・全職員のワークライフバランスを検討するワークライフバランス検討委員会を設置した。 ・ワークライフバランス検討委員会を開催し、アンケート結果等から課題の分析、短時間勤務の導入、年次有給休暇取得推進のための検討、超過勤務縮減のための課題検討などを行い、必要な制度改正等を実施した。</p>	人 経 企																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">女性医師数*</td> <td>指標</td> <td>H24 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>27名</td> <td>26名</td> <td>31名</td> <td>36名</td> <td>38名</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護師の離職率</td> <td>指標</td> <td>H23 7.49%</td> <td>7.0%</td> <td>6.5%</td> <td>6.0%</td> <td>5.5%</td> <td>5.0%</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H25 7.1%</td> <td>8.1%</td> <td>7.2%</td> <td>7.7%</td> <td>8.2%</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就業規則の見直し</td> <td>指標</td> <td></td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ワークライフバランス検討委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*女性医師数:女性の臨床系教員(中央部門含む)</p>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		27名	26名	31名	36名	38名	43名	特記事項								看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%	8.2%	9.6%	特記事項								就業規則の見直し	指標		見直し						実績		検討中	実施					特記事項								ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営					実績		設置済	運営					特記事項								43	<p>短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し</p> <p>・ワークライフバランス検討委員会において、アンケート結果等から課題を分析し、部分休業制度の拡充、夏季休暇の取得可能期間の拡大といった制度改正を実施し、仕事と生活を両立できる職場環境を整えた。</p> <p>・学内保育園の定員を90名から150名に増員し、平成30年10月から供用を開始するとともに、職員採用において、学内保育園の設置について周知を図った。</p>	人 経 企
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																								
女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																																																																																																							
	実績		27名	26名	31名	36名	38名	43名																																																																																																							
	特記事項																																																																																																														
看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%																																																																																																							
	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%	8.2%	9.6%																																																																																																							
	特記事項																																																																																																														
就業規則の見直し	指標		見直し																																																																																																												
	実績		検討中	実施																																																																																																											
	特記事項																																																																																																														
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営																																																																																																											
	実績		設置済	運営																																																																																																											
	特記事項																																																																																																														
	総括	<p>・医師の働き方については、本学附属病院に勤務する全医師に対して、勤務実態調査を実施し、ワークライフバランス検討委員会にて医師の過重労働軽減等のための対策を検討した。 ・モデル診療科において、交替制勤務を試行的に導入し、医師の当直明けの勤務を免除した。 ・超過勤務縮減については、各所属での業務効率化による超過勤務縮減への取組、勤務体制の見直し(早出、遅出出勤の試行等)を行い、労働環境の改善、ワークライフバランスの充実を図った。 ・定員を現在の90名から150名に増員するため、保育園の増築に着手し、平成30年10月から供用を開始した。 ・育児・介護休業法の改正(育児休業取得可能期間最長2年間・職員への個別周知)に対応するため、育児休業規程、介護休業規程の改正を実施した。 ・医師・看護師の働き方改革について、勤務体制の見直し及び労働環境の改善等を行い、ワークライフバランスの改善を図るとともに医師の確保や看護師等の離職防止を図った。</p> <p>本学の離職率は指標には達していないものの、平均8%代で推移している。 看護師の年間育児部分休業取得者数は年々増加しており、部分休業制度により柔軟な勤務体制が取れることで、産休や育休を取得した後、部分休業を取得し復職する看護師が多く、看護師離職理由第一位(厚生労働省看護職員就業状況等実態調査より)の「出産・育児のため」の退職者が少ないためであると考えられる。</p> <p>以上のことから計画を十分実施した。</p>	自己 評価	人 A																																																																																																											

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																	
									第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																			
<p>2 がん拠点病院としての機能の充実</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ倍増を目指す</li> <li>がん治療の年間延べ患者数35,000名に対応する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。</p>									<p>&lt;事務主管課:病院管理課&gt;</p>																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">がん治療件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 30,825件</td> <td>32,000件</td> <td>32,700件</td> <td>33,400件</td> <td>34,100件</td> <td>34,700件</td> <td>35,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>30,815件</td> <td>35,610件</td> <td>34,574件</td> <td>34,298件</td> <td>34,787件</td> <td>36,075件</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*放射線治療、化学療法計</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件	34,787件	36,075件	特記事項								<p>27*</p> <p>本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働（再掲:1-7）</p>							<p>・H26年度に本県緩和ケア提供体制の中で、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たすべく稼働した。</p> <p>・H27年度にはシエラメネジャーの配置、緊急緩和ケア病床の設置、看護カンパニー（がん看護外来）を開始し機能強化を図った。</p> <p>・がん患者の疼痛等のスクリーニング等、がん診療連携拠点病院に求められる機能を整備した。</p> <p>・H30年度には放射線療法に携わる看護師1名が「がん放射線療法看護認定看護師」の資格を取得した。</p>		病管
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																					
がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件																																				
	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件	34,787件	36,075件																																				
	特記事項																																											
		<p>44</p> <p>高度で専門的ながん医療の提供及び、がん医療に携わる人材の育成・確保</p>							<p>・H26年度からがん診療連携拠点病院(多診療科によるカンファレンス)を開始し、各科連携体制、集学的がん治療の充実を図っている。H30年度には9件のがん診療連携拠点病院が稼働し、高度で専門的ながん医療の提供体制を確保した。</p> <p>・H27、H28年度のE棟整備に併せ、がん診療に関する施設・機器を整備し機能を強化した。(最新型リニアックへの更新、PET-CTの新設、ロボット手術の導入等)</p> <p>・がん専門医臨床研修事業等、がん医療に携わる人材養成のため研修会を実施した。</p> <p>・放射線療法医師、化学療法医師等のがん専門医の育成・確保を図ったことで、がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ2倍の12名確保した。</p>		病管 医相																																	
		<p>45</p> <p>がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化</p>							<p>・多職種が連携し、放射線療法に関する症例検討会を開催、また、奈良県化学療法チーム研修会や緩和ケアチーム研修会を毎年度開催し、チーム医療体制の充実を図った。</p>		病管																																	
		<p>46</p> <p>がん登録の推進</p>							<p>・県内のがん診療連携拠点病院及び支援病院から院内がん登録(2011～2015)データを収集し、5大がんのステージ別治療件数や施設別・部位別登録数の推移等の分析と評価を行い、各施設にフィードバックした。</p> <p>・2012年から予後調査を開始し、予後判明率95%以上を確保している。</p>		経企																																	
		<p>総括</p> <p>・H26年度からがん診療連携拠点病院(多診療科によるカンファレンス)を開始し、各科連携体制、集学的がん治療の充実を図った。</p> <p>・H30年度には9件のがん診療連携拠点病院が稼働し、高度で専門的ながん医療の提供体制を確保した。</p> <p>・H27、H28年度に高度先進的な施設・機器を整備し県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療提供体制を構築した。</p> <p>・多職種連携による奈良県化学療法チーム研修会や緩和ケアチーム研修会を毎年度開催し、チーム医療体制の充実を図った。</p> <p>・拠点病院として、がん専門医臨床研修事業等、がん医療に携わる人材養成のため研修会を実施した。</p> <p>・奈良県内の院内がん登録の分析、評価を実施し、結果を奈良県及び関係病院にフィードバックした。</p> <p>・がん診療に特化した医師数は12名を確保(H31.3時点)、またがん治療の年間延べ件数は、目標を約1,000件超える36,075件で共に目標を達成した。</p> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p>							<p>自己評価</p> <p>A</p>		病管																																	

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容								自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																																																								
									第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																																										
3 治療成績の一層の向上																																																																																			
〔中期目標〕																																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>診療内容向上委員会を設置・運営する</li> <li>臨床指標(クリニカルインディケーター)を設定し、改善する</li> <li>臨床指標をホームページへ掲載し、毎年更新する</li> </ul>																																																																																			
〔中期計画〕																																																																																			
(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容向上委員会 の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営 実績報告</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>7月1日 設置</td> <td>運営(臨床 指標決定)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">臨床指標の設定・ 公表</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設定・公表</td> <td>公表継続 数値改善</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 3月26日 公表</td> <td>設定 3月28日 公表</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30			診療内容向上委員会 の設置・運営	指標		設置	運営 実績報告						→	実績		7月1日 設置	運営(臨床 指標決定)						→	特記 事項										臨床指標の設定・ 公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善						→	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 3月26日 公表	設定 3月28日 公表			特記 事項									
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																											
診療内容向上委員会 の設置・運営	指標		設置	運営 実績報告						→																																																																									
	実績		7月1日 設置	運営(臨床 指標決定)						→																																																																									
	特記 事項																																																																																		
臨床指標の設定・ 公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善						→																																																																									
	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 3月26日 公表	設定 3月28日 公表																																																																											
	特記 事項																																																																																		
47																																																																																			
診療の質と量に対する現状分析と一層の向上を検討する(仮称)診療内容向上委員会の設置・運営																																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>当院の医療の質と量に対する現状分析を行い、治療成績の向上を図るため、医療の質評価委員会を設置し、各年度の臨床指標の設定と分析ならびに公表等について審議した。</li> </ul>																																																																																			
48																																																																																			
臨床指標の設定と管理及び、ホームページへの掲載と更新																																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>国立大学附属病院が公表している病院機能指標と同じ手法で集計した結果を臨床指標として公表する方針を決定した。</li> <li>当院の指標を集約した上で、国立大学附属病院とのベンチマークを行った結果をホームページに掲載した。</li> <li>結果について、医療安全・質評価・教育対策プロジェクトの議論を踏まえ、改善が必要と思われる項目を重点改善項目とし、同プロジェクトを中心に改善に向けた取り組みを行った。</li> </ul>																																																																																			
総括																																																																																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療の質評価委員会を設置し、各年度の臨床指標の設定と分析ならびに公表等について審議した。</li> <li>臨床指標(クリニカルインディケーター)を設定して、ホームページに公表した。</li> <li>国立大学附属病院とのベンチマークを行い、重点改善項目を設定して医療安全・質評価・教育対策プロジェクトを中心に改善に取り組んだ。</li> </ul>																																																																																			
以上のことから、計画を十分に実施した。																																																																																			
										自己 評価	経企																																																																								
										A	経企																																																																								

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																																																																																												
4 患者満足の一層の向上				第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																																																																														
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する</li> <li>・入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する</li> <li>・診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。</p>		49		<p>ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営</p>		<p>病管 医サ</p>																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容に満足している患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 約90%</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>90%以上</td> <td>入院91.5% 外来96.6%</td> <td>入院92.1% 外来96.5%</td> <td>入院92.8% 外来97.0%</td> <td>入院93.4% 外来96.7%</td> <td>入院90.6% 外来97.4%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 35.3%</td> <td>35%</td> <td>34%</td> <td>33%</td> <td>32%</td> <td>31%</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>33.4%</td> <td>30.1%</td> <td>31.4%</td> <td>29.3%</td> <td>29.3%</td> <td>31.9%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置</td> <td>ホスピタリティマインド向上委員会開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td>指標</td> <td></td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>研修体系の検討</td> <td>ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	実績		90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%	入院93.4% 外来96.7%	入院90.6% 外来97.4%	特記事項								診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	30%	実績		33.4%	30.1%	31.4%	29.3%	29.3%	31.9%	特記事項								ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催				→	特記事項								ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施					→	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施				→	特記事項								50		<p>職員を対象としたコミュニケーション研修の実施</p>		<p>病管</p>	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																											
診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上																																																																																																											
	実績		90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%	入院93.4% 外来96.7%	入院90.6% 外来97.4%																																																																																																										
	特記事項																																																																																																																	
診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	30%																																																																																																										
	実績		33.4%	30.1%	31.4%	29.3%	29.3%	31.9%																																																																																																										
	特記事項																																																																																																																	
ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→																																																																																																										
	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催				→																																																																																																										
	特記事項																																																																																																																	
ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施					→																																																																																																										
	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施				→																																																																																																										
	特記事項																																																																																																																	
		51		<p>ハード・ソフト(総合案内、誘導案内、ボランティアによる親切な案内の実施等)両面にわたる患者の視点にたったアメニティづくり</p>		<p>医サ 経企 病管 医相 施管</p>																																																																																																												
		52		<p>患者満足度調査、声のポスト等による患者意見の病院運営への反映</p>		<p>医サ 病管 医相</p>																																																																																																												
		総括		<p>・上記の取組を通して、医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図ることができた。</p> <p>・なお、平成30年度は「診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合」が31.9%と目標の30%を達成できなかったが、調査日の患者数が前年度の調査日との対比で9.74%増加した状況であることを考慮すると診療待ち時間の対策は計画どおりに実施できていると考えられる。</p> <p>以上のことから、計画を十分に実施した。</p>		<p>自己 評価</p> <p>A</p> <p>医サ</p>																																																																																																												

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																																											
				第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																																													
5 老朽・狭隘施設への対策				〈事務主管課:キャンパス整備推進室〉																																																													
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</li> <li>・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する</li> </ul> <p>[中期計画]</p> <p>附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。</p>		53 (仮称)中央手術棟の完成と運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築工事及び電気設備工事については、平成28年5月31日に完了し、引き渡しを受けた。また、機械設備工事については、平成28年6月15日に完了し、引き渡しを受けた。</li> <li>・竣工式以降、約1ヶ月かけて随時E棟への引越を行い、平成28年10月3日にフルオープンした。</li> </ul>		施管 経企 病管																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)中央手術棟の整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td>第2期竣工</td> <td>フルオープン運営・機能充実</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>第1期オープン</td> <td></td> <td></td> <td>第2期竣工フルオープン</td> <td>E棟の運営</td> <td>E棟の運営</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>老朽施設設計</td> <td>老朽施設設計</td> <td>工事着手</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)中央手術棟の整備	指標		第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実		→	実績		第1期オープン			第2期竣工フルオープン	E棟の運営	E棟の運営	特記事項								教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績		基本構想検討			老朽施設設計	老朽施設設計	工事着手	特記事項								38* 教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県と医大による教育・研究部門等移転対策検討委員会において基本構想の検討を進めていたが、本学の将来像の再構築も合わせて行うよう県から指示された。</li> <li>・新たに「医大の将来像策定会議」及び同WG、教育・研究・診療・まちづくりに関するサブWGを設置し検討を重ねた。</li> <li>(開催回数) H25 策定会議 2回 同WG 5回 H26 策定会議 9回 同WG 10回 H27 策定会議 9回 同WG 9回 H28 策定会議 10回 同WG 10回</li> </ul>		キャ 施管 経企 病管
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																									
(仮称)中央手術棟の整備	指標		第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実		→																																																									
	実績		第1期オープン			第2期竣工フルオープン	E棟の運営	E棟の運営																																																									
	特記事項																																																																
教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																																																									
	実績		基本構想検討			老朽施設設計	老朽施設設計	工事着手																																																									
	特記事項																																																																
		54 老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>・E棟オープン後に生じるA棟の空きスペースを活用し、臨床医学研究棟の機能を移転することが平成27年8月25日の「医大の将来像策定会議まちづくりサブワーキング」で了解され、9月2日の役員会で確認された。</li> <li>・そのことを受け、A棟活用研棟委員会が設置され、臨床医学研究棟の機能移転に向け検討を重ねた。</li> <li>・平成28・29年度に基本設計・実施設計を行い、平成30年7月に工事着手。</li> </ul>		キャ 施管 経企 病管																																																											
		55 教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年11月の第27回医大の将来像策定会議において「新A棟整備に伴う病院施設の整備に向けた基本方針」を示し、検討を行った。</li> <li>・平成28年度に「奈良県立医科大学の将来像」「キャンパス整備イメージ」「施設整備基本構想」「キャンパスマスタープラン」及びをとりまとめ、その中で新キャンパス移転後における新外来棟の整備のイメージを示した。</li> </ul>		キャ 施管 経企 病管																																																											
		総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)中央手術棟はは若干の工期の遅れ(約3ヶ月)が生じたが、ほぼ予定通りに竣工し、計画通り平成28年度に運用を開始している。</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会で行っていた基本構想については、「医大の将来像策定」(県と共同検討)と併行して行うことが県から指示され、平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」が「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」とともに公表された。</li> <li>・新キャンパス移転の進捗の関連から、臨床医学研究棟の新築ではなくE棟移転後のA棟の空きスペースを活用することに方針変換し、より早期の臨床医学研究棟の機能移転を目指し工事に着手した。</li> <li>・医大の将来像の策定に合わせて新キャンパス移転後の新外来棟の整備についてイメージを示した。</li> </ul> <p>(仮称)中央手術棟はおおむね順調に推移したが、医大の将来像策定作業により大幅にスケジュールが変更され計画に遅れが生じたため、目標達成に至らなかった。</p>		自己 評価  B キャ																																																											

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																		
Vまちづくり																																								
1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備				＜事務主管課:キャンパス整備推進室＞																																				
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す</li> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</li> </ul> <p>〔中期計画〕</p> <p>平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。</p>		<p>37*</p> <p>平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:II-3)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度末に「奈良県立医科大学の将来像」の成案を取りまとめた。</li> <li>併せて施設整備の成案として、キャンパスのあり方を整理した「キャンパスマスタープラン」、施設整備内容を整理した「施設整備基本構想」及び整備概要を視覚化した「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を取りまとめた。</li> <li>・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を県とともに報道発表し、広く世間に公表した。</li> <li>・平成30年2月に県から①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度(令和6年度)中に「先行整備」が竣工すること、③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年が対象となることが示された。</li> <li>・平成28年に新キャンパス整備基本計画策定業務を委託し、他の大学病院の視察を行ったうえ、県と協議を重ねながら検討を行い、平成31年3月に同計画の成案をとりまとめた。</li> <li>・都市計画法上の「地区計画」決定に向け、県・橿原市と協議を重ねながら、地元理解を求めため地元説明会を開催した。</li> </ul>		キャン 施管 教研																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:II-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画検討</td> <td>基本計画検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→	基本計画検討	基本計画検討・策定	特記事項								<p>38*</p> <p>教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県と医大による教育・研究部門等移転対策検討委員会において基本構想の検討を進めていたが、本学の将来像の再構築も合わせて行うよう県から指示された。</li> <li>・新たに「医大の将来像策定会議」及び同WG、教育・研究・診療・まちづくりに関するサブWGを設置し検討を重ねた。 (開催回数) H25 策定会議 2回 同WG 5回 H26 策定会議 9回 同WG 10回 H27 策定会議 9回 同WG 9回 H28 策定会議 10回 同WG 10回</li> </ul>		キャン 施管 教研
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																
新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																																
	実績		基本構想検討			→	基本計画検討	基本計画検討・策定																																
	特記事項																																							
		<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・研究部門等移転対策検討委員会で行っていた基本構想については、「医大の将来像策定」(県と共同検討)と併行して行うことが県から指示され、平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」が「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」とともに公表された。</li> <li>・平成30年2月15日に県から整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度中に「先行整備」が竣工すること③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年を対象となることが示された。</li> <li>・その後、先行整備を主とした施設整備基本計画を策定した。</li> </ul> <p>以上のことから、平成33年度中の新キャンパスオープンという計画は、「先行整備」として規模を縮小されたうえ、その竣工が平成36年度中となったため、目標達成に至らなかった。</p>		<p>自己 評価</p> <p>B</p>		キャン																																		

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																												
2 地域に開かれたキャンパスづくり 〔中期目標〕 ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する  〔中期計画〕 新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。									〈事務主管課:キャンパス整備推進室〉																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td></td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画検討</td> <td>基本計画検討・策定</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手			建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→	基本計画検討	基本計画検討・策定	特記事項								37*	平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度末に「奈良県立医科大学の将来像」の成案を取りまとめた。</li> <li>併せて施設整備の成案として、キャンパスのあり方を整理した「キャンパスマスタープラン」、施設整備内容を整理した「施設整備基本構想」及び整備概要を視覚化した「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を取りまとめた。</li> <li>平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を県とともに報道発表し、広く世間に公表した。</li> <li>平成30年2月に県から①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度(令和6年度)中に「先行整備」が竣工すること、③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年を対象となることが示された。</li> <li>平成28年に新キャンパス整備基本計画策定業務を委託し、他の大学病院の視察を行ったうえ、県と協議を重ねながら検討を行い、平成31年3月に同計画の成案をとりまとめた。</li> <li>都市計画法上の「地区計画」決定に向け、県・橿原市と協議を重ねながら、地元理解を求めるため地元説明会を開催した。</li> <li>新キャンパスの基本計画策定において、図書館やグラウンドなどひろく住民に開放する施設について検討した。</li> </ul>	キャン 施 教 研
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手			建築工事発注準備																															
	実績		基本構想検討			→	基本計画検討	基本計画検討・策定																															
	特記事項																																						
		38*	教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県と医大による教育・研究部門等移転対策検討委員会において基本構想の検討を進めていたが、本学の将来像の再構築も合わせて行うよう県から指示された。</li> <li>新たに「医大の将来像策定会議」及び同WG、教育・研究・診療・まちづくりに関するサブWGを設置し検討を重ねた。</li> </ul> <p>(開催回数)</p> <table border="1"> <tr> <td>H25 策定会議</td> <td>2回</td> <td>同WG</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>H26 策定会議</td> <td>9回</td> <td>同WG</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>H27 策定会議</td> <td>9回</td> <td>同WG</td> <td>9回</td> </tr> <tr> <td>H28 策定会議</td> <td>10回</td> <td>同WG</td> <td>10回</td> </tr> </table>	H25 策定会議	2回	同WG	5回	H26 策定会議	9回	同WG	10回	H27 策定会議	9回	同WG	9回	H28 策定会議	10回	同WG	10回	キャン 施 教 研																		
H25 策定会議	2回	同WG	5回																																				
H26 策定会議	9回	同WG	10回																																				
H27 策定会議	9回	同WG	9回																																				
H28 策定会議	10回	同WG	10回																																				
総括				<ul style="list-style-type: none"> <li>教育・研究部門等移転対策検討委員会で行っていた基本構想の検討を、県の指示により「医大の将来像策定」という場において行ったため、予定より2年多く時間を要した。</li> <li>その後、当初計画になかった基本計画を策定した。</li> <li>平成30年2月15日に県から整備は「先行整備」「継続整備」の2段階にすること②平成36年度(令和6年度)中に「先行整備」が竣工すること③「先行整備」では医学科1年及び看護学科1年～4年を対象となることが示された。</li> <li>新キャンパスの基本計画策定において、図書館やグラウンドなどひろく住民に開放する施設について検討した。</li> </ul> <p>以上のことから、平成33年度中の新キャンパスオープンという計画は、「先行整備」として規模を縮小されたうえ、その竣工が平成36年度(令和6年度)中となったため、目標達成に至らなかった。</p>	自己 評価  B	キャン																																	



中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属																																	
			第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価																																			
<p>3 教育・研究部門等移転後の跡地活用</p> <p>[中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する</p> <p>[中期計画] 現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進めるMBT構想を踏まえ、県と市のまちづくりのランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>老朽施設設計</td> <td>工事着手</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績		基本構想検討			→	老朽施設設計	工事着手	特記事項								<p>38*</p> <p>教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3)</p>	<p>・県と医大による教育・研究部門等移転対策検討委員会において基本構想の検討を進めていたが、本学の将来像の再構築も合わせて行うよう県から指示された。 ・新たに「医大の将来像策定会議」及び同WG、教育・研究・診療・まちづくりに関するサブWGを設置し検討を重ねた。 (開催回数) H25 策定会議 2回 同WG 5回 H26 策定会議 9回 同WG 10回 H27 策定会議 9回 同WG 9回 H28 策定会議 10回 同WG 10回</p>	<p>＜事務主管課:キャンパス整備推進室＞</p>	<p>キャン 施管 経企 病管</p>
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																														
	実績		基本構想検討			→	老朽施設設計	工事着手																														
	特記事項																																					
	<p>54*</p> <p>老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進(再掲:IV-5)</p>	<p>・E棟オープン後に生じるA棟の空きスペースを活用し、臨床医学研究棟の機能を移転することが平成27年8月25日の「医大の将来像策定会議まちづくりサブワーキング」で了解され、同9月2日の役員会で確認された。 ・そのことを受け、A棟活用検討委員会が設置され、臨床医学研究棟の機能移転に向け検討を重ねた。 ・平成28・29年度に基本設計・実施設計を行い、平成30年7月に工事着手した。</p>		<p>キャン 施管 経企 病管</p>																																		
	<p>55*</p> <p>教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手(再掲:IV-5)</p>	<p>・平成28年11月の第27回医大の将来像策定会議において「新A棟整備に伴う病院施設の整備に向けた基本方針」を示し、検討を行った。 ・平成28年度に「奈良県立医科大学の将来像」「キャンパス整備イメージ」「施設整備基本構想」「キャンパスマスタープラン」及びをとりまとめ、その中で新キャンパス移転後における新外来棟の整備のイメージを示した。</p>		<p>キャン 施管 経企 病管</p>																																		
	<p>総括</p>	<p>・教育・研究部門等移転対策検討委員会で行っていた基本構想の検討を、県の指示により「医大の将来像策定」と併行して行うこととなったため、予定より2年多く時間を要した。 ・新キャンパス移転の進捗の関連から、臨床医学研究棟の新築ではなくE棟移転後のA棟の空きスペースを活用することに方針変換し、より早期の臨床医学研究棟の機能移転を目指し工事に着手した。 ・医大の将来像の策定に策定に合わせて新キャンパス移転後の新外来棟の整備について方針を示した。  医大の将来像策定作業により大幅にスケジュールが変更され計画に遅れが生じたため、目標達成に至らなかった。</p>	<p>自己 評価</p> <p>B</p>	<p>キャン</p>																																		

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																																								
4 移転を契機とした研究分野での地域貢献 〔中期目標〕 ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する ・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する  〔中期計画〕 新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。									＜事務主管課:研究推進課＞																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む 評価委員会の設置・運営 (再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月 設置</td> <td>評価のあり 方検討</td> <td>学外有識者 委員の選定</td> <td>評価手法の 構築</td> <td>評価項目の 検討</td> <td>学外有識者を含 む評価委員 会の運営</td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や (仮称)大和漢方 医学薬学センター 等 (再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンス の確立</td> <td>講習会等 の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポ ジウム2013 開催 第1回大和漢 方医学セミ ナー開催</td> <td>漢方薬シンポ ジウム2014 開催 第2回、第3回 大和漢方医学 セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポ ジウム2015 開催 第4回、第5回 大和漢方医学 セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大 和漢方医学セミ ナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナーの 開催 第4回 MBT健康フェ アの開催</td> <td>大和漢方医学 セミナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナー の開催 MBTイベント の開催</td> <td>大和漢方医学 セミナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナー の開催 MBTイベント の開催</td> </tr> <tr> <td>特記 事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む 評価委員会の設置・運営 (再掲: I-3)	指標		設置	運営			→	実績		H26年3月 設置	評価のあり 方検討	学外有識者 委員の選定	評価手法の 構築	評価項目の 検討	学外有識者を含 む評価委員 会の運営	特記 事項								住居医学講座や (仮称)大和漢方 医学薬学センター 等 (再掲: I-3)	指標		エビデンス の確立	講習会等 の実施			→	実績		漢方薬シンポ ジウム2013 開催 第1回大和漢 方医学セミ ナー開催	漢方薬シンポ ジウム2014 開催 第2回、第3回 大和漢方医学 セミナー開催	漢方薬シンポ ジウム2015 開催 第4回、第5回 大和漢方医学 セミナー開催	第6回、第7回大 和漢方医学セミ ナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナーの 開催 第4回 MBT健康フェ アの開催	大和漢方医学 セミナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナー の開催 MBTイベント の開催	大和漢方医学 セミナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナー の開催 MBTイベント の開催	特記 事項								11* 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)							研究分野の一層の充実を図るため以下の取組を実施した。 ・研究推進戦略本部を平成25年度に設置し、研究推進戦略本部会議を月に1回程度定期的に開催し、平成28～29年度にかけて、研究に関する将来構想、研究活動に係る課題ごとの基本方針及び重点研究2016推進計画を策定した。 ・重点研究2016推進計画の策定にあたっては、平成28年度に学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、提言を受け、3分野6テーマの重点研究課題を設定した。 1) 地域に根差し地域と歩む研究 ①健康寿命延伸のための特色ある3つのサブコホート研究 ②超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)の研究 2) 日本を世界を牽引する研究 ③血栓止血の制御に関する研究 ④画像下での低侵襲医療に関する研究 3) 良き医療人を育てる研究 ⑤良き医療人に関する研究 ⑥卒後医療人のキャリアパスに関する研究 ・上記重点研究課題については、平成28～30年度にかけて研究推進戦略本部会議で毎年度定期的に進捗管理を行い研究を推進した。 ・産学連携を推進するため、民間企業と共同研究講座を設置した。(生体分子不均衡制御学共同研究講座、血栓止血医薬生物学共同研究講座) ・産学連携事業の一環として、奨学を目的とする民間企業等からの寄附金により、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「TV-iClinix講座」等を設置した。 ・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向け連携活性化委員会を設置するとともに、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。		研 関 係 各 課
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																												
外部有識者を含む 評価委員会の設置・運営 (再掲: I-3)	指標		設置	運営			→																																																												
	実績		H26年3月 設置	評価のあり 方検討	学外有識者 委員の選定	評価手法の 構築	評価項目の 検討	学外有識者を含 む評価委員 会の運営																																																											
	特記 事項																																																																		
住居医学講座や (仮称)大和漢方 医学薬学センター 等 (再掲: I-3)	指標		エビデンス の確立	講習会等 の実施			→																																																												
	実績		漢方薬シンポ ジウム2013 開催 第1回大和漢 方医学セミ ナー開催	漢方薬シンポ ジウム2014 開催 第2回、第3回 大和漢方医学 セミナー開催	漢方薬シンポ ジウム2015 開催 第4回、第5回 大和漢方医学 セミナー開催	第6回、第7回大 和漢方医学セミ ナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナーの 開催 第4回 MBT健康フェ アの開催	大和漢方医学 セミナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナー の開催 MBTイベント の開催	大和漢方医学 セミナー開催 奈良臨床漢方 医学セミナー の開催 MBTイベント の開催																																																											
	特記 事項																																																																		
		12* 研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)							・平成25年度に外部有識者を含む研究評価委員会を設置した。 ・平成26～28年度には、本学における研究面での地域貢献を図るため、研究に関する評価のあり方、評価項目を検討した。 ・平成29年度には、研究者情報データベースのシステムを構築した。 ・平成30年度には、研究者ごとの論文業績等研究データの蓄積及び地域への情報提供のため、本学の助教以上の教員について、研究者情報データベースへの入力完成させた。 ・平成30年度には、外部有識者を交えた研究評価委員会を運営・開催し、教育・研究部門の移転に伴う研究分野の一層の充実・発展のための議論を行い、大学としての研究力、特色ある分野、学内の共同研究グループの研究を評価・分析した。		研 関 係 各 課																																																								
		13* 漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営(再掲: I-3)							・大和漢方医学薬学センターを設置(H25)し、運営委員会を開催し漢方の運営方針を決定した。 ・主な取組として、漢方についての教育・人材育成分野については、東洋医学に関する講義を医学生に対して行うとともに、指導医による教育外来の実施や臨床医向けの勉強会を行った。 ・地域医療関係者に漢方に関するセミナーを毎年度開催(21回)し研修・普及を図った。なお県民等へは、漢方シンポジウム(3回)を開催し広く普及を行った。 ・漢方についての研究の普及促進のため研究助成を実施した。(H28～H29 5件) ・県民に対しての啓発普及を目的に、奈良県が進める漢方のメッカ推移プロジェクトに参画した。		研 関 係 各 課																																																								

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価	事務 所属
	14* 「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)	<p>研究分野の一層の充実・発展を図るため以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度については、住居医学(MBT)とまちづくりに実績がある早稲田大学と医学と都市計画学により新しいビジョンを示した「医学を基礎とするまちづくり」(水曜社)を刊行した。</li> <li>・平成26年度については、内閣府の「地域活性化モデル」に奈良県・橿原市・明日香村と共同にて提案するとともに内閣府の「地域再生計画」申請し採択された。</li> <li>・平成27年度については、橿原市と「連携に関する協定」を締結するとともに、MBTに関する記念シンポジウムを開催(293社 632名)し全国的にMBTへの関心が高まった。</li> <li>・平成28年度は、リビングサイエンスへの取組強化のためMBT研究所の設置し、また一般社団法人MBTコンソーシアムと共同で技術相談会や展示会に出展し研究成果を発表した。</li> <li>・東京でMBTコロキウムを開催(610人 210企業)しMBT活動の成果を発表するとともに、新産業創生のための企業と医師との交流相談会(307人 75企業 76人の教授陣が参加)を開催した。</li> <li>・平成29年度には、まちづくりに実績がある早稲田大学と国立研究開発法人科学技術振興機構委託事業や農林水産研究所委託事業に採択され共同研究を開始した。</li> <li>・セキュリティ、医療、生活サポート等、安全な視点を加えた、健康づくりの仕組みを構築するため、MBT研究所・栃木県高根沢町、関東総合警備保障(株)との連携協定を締結した。</li> <li>・周産期の妊産婦を対象に、電話相談を中心とした見守り支援サービスに向けた実証実験を行うため、富士通(株)・奈良医大・MBTコンソーシアムによる連携を行った。</li> <li>・MBTコンソーシアム会員会議へMBT研究所も参画し、部会会議の活動を強化した。</li> <li>・スポーツ庁「歩く」をテーマにしたFun+Walkプロジェクトのプレイベントに大学機関として参画し、今井町においてデモンストレーションを行った。</li> <li>・文科省とJST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」に公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構(けいはんな)が参画し、本学細井理事長・学長がけいはんなリサーチコンプレックス事業のオーガナイザーとして就任。本学は3課題の研究を実施した。</li> <li>・WHO健康開発総合研究センターと関西公立私大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施した。</li> <li>・平成30年度には、MBTコンソーシアム企業と連携協力し、6つの分野(①見守り支援、②ビックデータ活用、③スマートコミュニティ、④健康創造都市・健康創造産業、⑤MBT研究所産学連携、⑥産学官金フリーディスカッション)において、本学のシーズや企業ニーズの情報交換を行うと共に、MBTコンソーシアム会員企業8社と共同研究契約を締結した。</li> <li>・運動教室を開催(奈良市学園前、橿原市今井町、栃木県高根沢町)し、地域住民へ研究成果を還元した。</li> <li>・総務省や国土交通省に応募したMBTコンソーシアムとのMBTの研究成果が補助事業に採択した。</li> <li>・共同研究の一つである「妊娠時からの子育て世代 包括見守り」の実証(橿原市・コンソーシアム)についてNHK等の取材を受け全国発信されるなど報道機関も関心を寄せておりMBTのエビデンスを確立した。</li> <li>・MBTの活動は県内のみならず、兵庫県、栃木、北海道、さらにはクアラルンプール等と海外にもアプローチを行った。</li> </ul>	研 関 係 各 課

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属
			第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		
			<p>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</p>		
	総括	<p>・上記のとおり、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスの推進に向けた取組を実施した。</p> <p>・漢方についての研究力の強化のため研究助成を実施。</p> <p>・企業等から個別のニーズ相談に対応するため学内にMBT相談体制を設置。</p> <p>・共同研究の一つである「妊娠時からの子育て世代 包括見守り」の実証実験がNHK等の取材を受け全国発信されるなど報道機関も関心を寄せており、MBT構想の研究成果での地域貢献を行った。</p> <p>・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向け連携活性化委員会の設置や連携活性化交流会を実施するなど研究分野の強化を行った。</p> <p>・文科省とJST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」に公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構(けいはんな)が参画し、本学細井理事長・学長がけいはんなリサーチコンプレックス事業のオーガナイザーとして就任。本学は3課題の研究を実施。</p> <p>・産学官連携を推進するため、榊タカトリ内にMBT研究所分室を設置した。</p> <p>・MBT構想をより現実のものとするため、大学発ベンチャー企業を認定した。</p> <p>・MBTの活動は県内のみならず、兵庫県、栃木、北海道、さらにはクアラルンプール等と海外にもアプローチを行った。</p> <p>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</p> <p>・AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「ViClinix講座」を設置した。</p> <p>以上のことから、計画を上回って実施した。</p>		自己 評価	S  研

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価	事務 所属																																
<p>5 健康づくり・予防医療等への貢献</p> <p>〔中期目標〕 ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する</p> <p>〔中期計画〕 MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。(再掲:Ⅲ-3)</p> <table border="1" data-bbox="257 379 936 643"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td>・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定</td> <td>・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催</td> <td>・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催</td> <td>・コホート研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの実施</td> </tr> <tr> <td></td> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	指標		新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討		→	実績		・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催	・コホート研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの実施		特記事項							<p>11* 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲:Ⅰ-3)</p>	<p>自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価</p> <p>〈事務主管課:研究推進課〉</p> <p>・研究推進戦略本部を平成25年度に設置し、研究推進戦略本部会議を月に1回程度定期的に開催し、平成28～29年度にかけて、研究に関する将来構想、研究活動に係る課題ごとの基本方針及び重点研究2016推進計画を策定した。</p> <p>・重点研究2016推進計画の策定にあたっては、平成28年度に学外の高名な識者による学外有識者委員会を設置し、提言を受け、3分野6テーマの重点研究課題を設定した。</p> <p>1) 地域に根差し地域と歩む研究</p> <p>①健康寿命延伸のための特色ある3つのサブコホート研究 ②超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)の研究</p> <p>2) 日本を世界を牽引する研究</p> <p>③血栓止血の制御に関する研究 ④画像下での低侵襲医療に関する研究</p> <p>3) 良き医療人を育てる研究</p> <p>⑤良き医療人に関する研究 ⑥卒後医療人のキャリアパスに関する研究</p> <p>・健康づくり・予防医学の観点として、健康寿命延伸のための特色ある3つのサブコホート研究及び超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)の研究を重点研究課題として、平成28～30年度の研究推進戦略本部で進捗管理を行い研究を推進した。</p> <p>・産学連携を推進するため、民間企業と共同研究講座を設置した。(生体分子不均衡制御学共同研究講座、血栓止血医薬生物学共同研究講座)</p> <p>・産学連携事業の一環として、奨学を目的とする民間企業等からの寄附金により、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「V-iClinix講座」等を設置した。</p> <p>・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向け連携活性化委員会を設置するとともに、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。</p>	<p>研 係 各 課</p>
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																												
リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	指標		新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討		→																												
	実績		・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催	・コホート研究の進捗確認と成果発表会の実施 ・MBTイベントの実施																											
	特記事項																																		
	<p>14* 「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲:Ⅰ-3)</p>	<p>研究分野の一層の充実・発展を図るため以下の取組を実施した。</p> <p>・平成25年度については、住居医学(MBT)とまちづくりに実績がある早稲田大学と医学と都市計画学により新しいビジョンを示した「医学を基礎とするまちづくり」(水曜社)を刊行した。</p> <p>・平成26年度については、内閣府の「地域活性化モデル」に奈良県・橿原市・明日香村と共同にて提案するとともに内閣府の「地域再生計画」申請し採択された。</p> <p>・平成27年度については、橿原市と「連携に関する協定」を締結するとともに、MBTに関する記念シンポジウムを開催(293社 632名)し全国的にMBTへの関心が高まった。</p> <p>・平成28年度は、リビングサイエンスへの取組強化のためMBT研究所を設置。また一般社団法人MBTコンソーシアムと共同で技術相談会や展示会に出展し研究成果を発表した。</p> <p>・東京でMBTコロキウムを開催(610人 210企業)しMBT活動の成果を発表するとともに、新産業創生のための企業と医師との交流相談会(307人 75企業 76人の教授陣が参加)を開催した。</p> <p>・平成29年度には、まちづくりに実績がある早稲田大学と国立研究開発法人科学技術振興機構委託事業や農林水産研究所委託事業に採択され共同研究を開始した。</p> <p>・セキュリティー、医療、生活サポート等、安全な視点を加えた、健康づくりの仕組みを構築するため、MBT研究所・栃木県高根沢町、関東総合警備保障(株)との連携協定を締結した。</p>	<p>研 係 各 課</p>																																

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価	事務 所属
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期の妊産婦を対象に、電話相談を中心とした見守り支援サービスに向けた実証実験を行うため、富士通(株)・奈良医大・MBTコンソーシアムによる連携を行った。</li> <li>・MBTコンソーシアム会員会議へMBT研究所も参画し、部会会議の活動を強化した。</li> <li>・スポーツ庁「歩く」をテーマにしたFun+Walkプロジェクトのイベントに大学機関として参画し、今井町においてデモンストレーションを行った。</li> <li>・まちづくりフィールドを具現化するため橿原市今井町にMBT活動の一環として改修・整備を行っていた住宅施設がゲストハウスとして新しく竣工し今井町ゲストハウスとして共用を開始した。</li> <li>・文科省とJST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」に公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構(けいはんな)が参画し、本学細井理事長・学長がけいはんなリサーチコンプレックス事業のオーガナイザーとして就任。本学は3課題の研究を実施。</li> <li>・WHO健康開発総合研究センターと関西公立私大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施した。</li> <li>・平成30年度には、MBTコンソーシアム企業と連携協力し、6つの分野(①見守り支援、②ビックデータ活用、③スマートコミュニティ、④健康創造都市・健康創造産業、⑤MBT研究所産学連携、⑥産学官金フリーディスカッション)において、本学のシーズや企業ニーズの情報交換を行うと共に、MBTコンソーシアム会員企業8社と共同研究契約を締結した。</li> <li>・MBTの健康に関する研究成果を住民に還元するため、運動教室を開催した。(奈良市学園前、橿原市今井町、栃木県高根沢町)</li> <li>・その他の活動としては、MBTの研究成果を展示会等(はっど!!神戸健康フェア・「着物でジャズ、今井町」・奈良県防災総合訓練展示会・第1回医療ITEXPO東京・奈良県立医科大学健康フェア等)に出展。</li> <li>・総務省や国土交通省に応募したMBTコンソーシアムとのMBTの研究成果が補助事業に採択された。</li> <li>・共同研究の一つである「妊娠時からの子育て世代 包括見守り」の実証(橿原市・コンソーシアム)について、NHK等の取材を受け全国発信されるなど報道機関も関心を寄せておりMBTのエビデンスを確立した。</li> <li>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</li> </ul>	

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務所属	
			第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価			
	17*	奈良県健康長寿コホースタディ、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲:1-4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27～30年度にかけて、奈良県民合計1万人を対象とした3つのサブコホート研究を「奈良県健康長寿大規模コホースタディ」として実施、継続的に推進した。</li> <li>・平成30年度には「くらしと医学」で、「心不全?今、超高齢社会での大きな課題—心不全とは何か?どのような医療が求められるのか?奈良県健康長寿コホートから見えてきたもの—」、「手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究」、「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」と題して3つのコホート研究に関して、県民に研究成果を公表した。</li> <li>・MBT研究の地域への還元及び普及を目的として、健康相談を中心とした「健康フェア」を開催した。</li> </ul>			研 関係 各課
	総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記のとおり、住民の健康増進に貢献する研究の推進に向けた取組を実施した。</li> <li>・健康長寿コホート研究の成果発表会では、アンケート結果においても県民から興味深いという感想を多く得ることができ、県民の健康に関する意識向上が図られ、健康づくり等に貢献した。</li> </ul> <p>また計画を上回る取組としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりに向けたゲストハウスの整備、地域貢献のためMBT構想を実現させるツールとして奈良医大発となる大学発ベンチャー企業の認定及び橿原市やコンソーシアム企業による実証実験を開始するなど多方面に貢献した。</li> <li>・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、民間施設と共同して、外部機関である阪奈中央病院、高井病院にそれぞれ本学の「スポーツ医学研究センター」、「陽子線がん治療研究センター」を開設した。</li> <li>・AI・バイオ・工学を融合させた画期的な研究を行う寄附講座「V-iClinix講座」を設置した。</li> <li>・奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を図るため、共同でセミナーの開催や連携活性化交流会を行った。</li> </ul> <p>以上のことから、計画を上回って実施した。</p>		自己 評価	S

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																													
VI 法人運営																																			
1 ガバナンス体制の充実強化				〈事務主管課:総務課〉																															
<p>[中期目標] ・評価委員会の全体評価で好成績をあげる</p> <p>[中期計画] 中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">評価委員会の評価</td> <td>指標</td> <td>常に評価結果を高い水準で維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>項目別評価 IV:7 III:1</td> <td>項目別評価 IV:6 III:2</td> <td>項目別評価 IV:8</td> <td>項目別評価 IV:7 III:1</td> <td>96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)</td> <td>93.0% 達成 (評定A以上: 80/86項目)</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持					→	実績	項目別評価 IV:7 III:1	項目別評価 IV:6 III:2	項目別評価 IV:8	項目別評価 IV:7 III:1	96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)	93.0% 達成 (評定A以上: 80/86項目)	特記事項							56	全教職員による法人の方針の共有と法人運営に対する意識醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の求める職員像、行動規範、シンボルマーク等を制定し、法人の方向性を明確に示し、各種行事、各種研修の機会に周知徹底を図り、意識醸成を行った。</li> <li>組織のあり方、事務組織規程、事務決裁規程等の検討を行うため、関係各課とともにワーキングを開催し、検討を行い、各種関係規程について改正を行った。</li> </ul>	人 総
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																												
評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持					→																												
	実績	項目別評価 IV:7 III:1	項目別評価 IV:6 III:2	項目別評価 IV:8	項目別評価 IV:7 III:1	96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)	93.0% 達成 (評定A以上: 80/86項目)																												
	特記事項																																		
		57	中期計画の着実な実行のための進捗管理の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画の進捗管理について、新たに法人の全役員が参画する執行役員会議を設置し、各年度計画中の四半期ごとに、計画達成に向けた課題の抽出を行い、課題解消に向けた進め方等を各担当役員間で情報共有を行った。</li> <li>また、課題への取組状況及び計画の進捗状況について、計画達成に懸念のある項目については、学内及び県と共有するとともに、対応策の検討を行うなど、各計画の進捗状況の管理を実施した。</li> </ul>	財 企																														
		58	法人の取組みの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学報」を毎年4回、各11,500部発行し、学内外に法人の取り組みを広く発信した。</li> <li>H29年度より「法人案内」を日本語版500部、英語版200部作成し、来客者に配布し、本法人の認知度の向上を図った。</li> <li>地元住民向けに「キャンパスだより」を平成27年度に創刊し、平成29年度よりページ数を4頁から8頁に増やし内容の充実を図った。</li> <li>様々な広報媒体(大学ホームページ、ならプラス、県や民間のデジタルサイネージ)を活用するとともに、新聞等に本学の取組を掲載する等、積極的に情報を発信した。</li> </ul>	総 広 報 キ ャ																														
		59	職員の確保と資質の向上に向けた取組(SD等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ツールで法人の取組をより広く情報発信し、地域住民とのコミュニケーションを充実させるとともに、法人の更なる認知度の向上を図った。</li> <li>「法人の求める職員像」を定めることにより、職員の確保及び育成の方向性を明確にした。また、職員の資質向上を図るため、人材育成体系を構築し、職員が自ら現状を認識し、職員として必要な知見等を明確に示すことで、的確な研修を実施した。</li> </ul>	人																														
		総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の求める職員像、行動規範、シンボルマーク等を制定し、法人の方向性を明確に示し、全職員の意識醸成を行った。</li> <li>組織のあり方、事務組織規程、事務決裁規程等について改正を行った。</li> <li>中期計画についての的確な進捗管理を行った。</li> <li>各種広報手段を活用することで、法人の取り組みについて情報発信を行った。</li> <li>人材育成体系を構築することで、的確な研修を実施した。</li> </ul> <p>以上のことから計画を十分実施した。</p>	自己 評価  A	総																														



中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容		自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属
				第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		
2 ワークライフバランスの充実強化 〔中期目標〕 ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する ・就業規則を見直す ・年次有給休暇取得日数を平成22年に比べ倍増を目指す 〔中期計画〕 医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。				〈事務主管課:人事課〉		
42*		仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲IV-1)		・ワークライフバランス検討委員会において、女性の就業継続、休暇取得の促進、長時間労働の是正に向けた課題等の働き方改革について、検討を行った。		人 経 企
60		職員の勤務環境や満足度の把握		・衛生委員会において、各所属の勤務環境について、調査を行い、関係各所と協議し、改善を図った。 ・ワークライフバランス推進のためのアンケート調査の結果から課題の抽出を行い、課題の分析をするとともに、改善方策について検討を行った。		人 経 企
43*		短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し(再掲IV-1)		・医師の働き方については、本学附属病院に勤務する全医師に対する勤務実態調査結果をもとに、全医局に対する病院長ヒアリングを実施し、現状を改めて把握し、実施可能な取組を検討した。 ・医師と看護師の業務負担軽減策として、医師については医師事務作業補助者、看護補助者を採用し、業務移管を積極的に推進した。 ・短時間労働制度の拡充、医師の交替制勤務の試行などを行うことで働きやすい職場環境の整備を図り、ワークライフバランスを推進した。		人 経 企
総括		<p>・医師の働き方については、本学附属病院に勤務する全医師に対して勤務実態調査を実施し、ワークライフバランス検討委員会で医師の過重労働軽減等のための対策を検討した。</p> <p>・モデル診療科において、交替制勤務を試行的に導入し、医師の当直明け勤務の免除した。</p> <p>・超過勤務縮減について、業務効率化による超過勤務縮減への取組、勤務体制の見直し(早出、遅出出勤の試行等)、ワークシェアリングの検討(資格職と無資格職の業務分担の見直し等)を行い、労働環境の改善、ワークライフバランスの充実を図った。</p> <p>・働きやすい職場環境の構築を行うため、保育園を増築し、定員を現在の90名から150名に増員し、平成30年10月から供用を開始した。</p> <p>・非正規職員の育児休業期間の延長(最長2歳まで)や、職員に対して育児休業・介護休業等の制度について個別に周知した。</p> <p>看護師の年次有給休暇取得日数は減少しているが、育児部分休業取得者数は下記のとおり増加しており、看護師は勤務の関係上、年次有給休暇を取得するよりも部分休業取得により定期的に休むことを選択する傾向にある。 (看護師:年間育児部分休業取得者数) H27:82名→H28:92名→H29:99名→H30:114名</p> <p>また、夏季休暇については、以下のとおり平成30年度は、ほぼ全職員が全取得できている状況にある。 H27:平均4.6日→H28:平均4.7日→H29:平均4.6日→H30:平均4.98日</p> <p>以上のとおり、女性医師の確保や看護師等の離職防止等、働きやすい職場づくりに向け、産休・育休等の取得促進、超過勤務縮減への取組、勤務体制の見直し及び労働環境の改善等を行い、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図った。</p> <p>以上のことから計画を十分実施した。</p>		<p>・学内保育園の定員を90名から150名に増員し、平成30年10月から供用を開始するとともに、職員採用において、学内保育園の拡充について周知を図り、職員が継続して勤務することが可能な職場づくりを行った。</p>		人 経 企
				自己評価		人 A

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																								
<p>3 同窓会・歴代卒業生との連携</p> <p>〔中期目標〕</p> <p>・寄附件数1,000件を目指す</p> <p>〔中期計画〕</p> <p>同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。</p>									<p>＜事務主管課:教育支援課＞</p>																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">寄附件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 876件</td> <td>900件</td> <td>920件</td> <td>940件</td> <td>960件</td> <td>980件</td> <td>1,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>817件</td> <td>717件</td> <td>998件</td> <td>688件</td> <td>637件</td> <td>826件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">卒業生からの基金への寄附件数(累計)**</td> <td>指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>508件</td> <td>592件</td> <td>677件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td>423件</td> <td>821件(累計)</td> <td>1,155件(累計)</td> <td>1,503件(累計)</td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項  <small>左記上段の「寄附件数」は、一般市民や企業からの寄附金を含む法人への寄附金の総件数であり、県への「ふるさと奈良県応援寄付金」を介した卒業生からの寄附金の件数は含まれていない。(卒業生からの寄附を特定する方法がないため、やむを得ず当該数値を使用)  平成27年度の「未来への飛躍基金」設立と当該基金への募金開始に伴い、県への「ふるさと奈良県応援寄付金」を介した寄附金を含む卒業生からの全寄附件数を把握することが可能になったため、平成27年度以降は、上段の指標と並記することとする。  なお、下段の平成28年度以降の目標及び実績は、寄附金の性格(協力は単発で、継続的でないのが通例)を踏まえ、単年度件数ではなく、累積件数で表すこととし、初年度(H27)の2割増しを2年目(H28)以降各年度の目標件数とする。</small></p> <p>* 企業等からの法人への直接寄附件数。  ** 「未来への飛躍基金」に対する卒業生からの寄附件数。</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件	実績		817件	717件	998件	688件	637件	826件	卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件	実績			423件	821件(累計)	1,155件(累計)	1,503件(累計)	<p>61 医学科・看護学科同窓会との連携・交流の強化と、大学への支援促進</p>							<p>・卒業生へのアンケートやインタビューの結果を踏まえ、平成27年度以降の英語教育や臨床実習のカリキュラム編成に反映した。  ・年4回発行の学報を医学科・看護学科同窓会会員へ定期的に発送し、本学情報を適時発信した。また、学報に同窓会に関連する記事を掲載することにより、母校愛の育成と寄附等への協力意識の向上を図った。</p> <p>・看護学科同窓会の組織強化の支援するため平成26年度に看護学科開設10周年記念事業を実施した。  ・入学式及び卒業式に同窓会長及び副会長を引き続き招待し、同窓会から、各学生への記念品の寄贈及び優秀な学生に対する表彰と賞品を贈呈していただくとともに、平成27年度から挙行した白衣授与式においては、医学科同窓会長から学生の白衣を寄贈していただくなど連携を密にした。  ・平成29年度から、同窓会、卒業生と連携して新入生保護者懇談会を開催し、同窓会及び本学の取組並びに卒業生の活躍等を紹介して、母校愛の育成と寄付金等の協力意識の向上を図った。</p> <p>・本学における教育、研究、診療の一層の充実を図るとともに、社会貢献及び国際交流を推進することにより、本学の未来への飛躍を着実に進めることを目的として、H27年度に「未来への飛躍」基金を設置した。  ・基金運営委員会に医学科・看護学科同窓会役員も委員として参画し、本学委員と共に寄附の募集方法や基金の用途等について検討した。  ・寄附獲得に関し、法人として種々の手段を講じ寄附要請を行っているが、会員への周知、知人の紹介等で同窓会から協力を受けている。  その結果、卒業生から基金への寄附納付件数は、⑦ 423件 → ⑧ 398件 → ⑨ 337件 → ⑩ 345件 と推移し累計は1,503件となり、中期目標を達成した。  また、基金を活用した学生等への支援額は、⑦ 2百万円 → ⑧ 19百万円 → ⑨ 41百万円 → ⑩ 74百万円 と推移しており、基金事業の充実に努めた。</p> <p>・卒業生との交流のため、創立70周年記念事業を平成27年度に同窓会との共催により開催するとともに、開学70周年記念誌を1万部発行し同窓会会員等に発送した。</p>		教 総 研 財 企 施 管
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																												
寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件																																											
	実績		817件	717件	998件	688件	637件	826件																																											
卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件																																												
	実績			423件	821件(累計)	1,155件(累計)	1,503件(累計)																																												
<p>総括</p>		<p>・上記取組により、同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と寄附協力意識の向上を図った。</p> <p>・企業等からの法人への寄附件数の実績は、目標件数1,000件に対して826件であったが、教育・研究環境の整備・充実のための「未来への飛躍基金」への寄附件数の実績は、目標件数である677件を大幅に上回る1,503件となった。</p> <p>以上のことから、計画を十分実施した。</p>							<p>自己 評価</p> <p>A</p>		教																																								

中期目標・中期計画		第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容							自己評価(第2期中期計画総括) 第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		事務 所属																																								
4 繰越欠損金の解消									＜事務主管課・財務企画課＞																																										
<p>〔中期目標〕</p> <p>・繰越欠損金の解消を目指す</p> <p>〔中期計画〕</p> <p>県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。</p>		62 経営状況の適時・的確な把握と問題点・課題の法人内での共有							<p>・月次決算及び年次決算・決算見込を作成し、役員会へ報告を行い、密度の高い情報共有に努めた。</p> <p>・長期収支見込を作成し、長期的な経営見通しについての検証と要因分析を行った。</p> <p>・診療科部長面談を実施し、各診療科の課題抽出と改善に向けた取組を実施した。診療科ごとに設定した目標値の達成状況を確認するとともに、結果を分析し、翌年度の目標を設定した。</p> <p>・毎月の経営指標、四半期毎の過去5年間データ比較、年1回のSWOT分析を行い、その結果について、各会議で情報共有を図った。</p>		財企 経企																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">繰越欠損金の額</td> <td>指標</td> <td>H23 9.6億円</td> <td>6.0億円</td> <td>4.8億円</td> <td>3.6億円</td> <td>2.4億円</td> <td>1.2億円</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10.8億円</td> <td>10.5億円</td> <td>8.6億円</td> <td>20.3億円</td> <td>22.7億円</td> <td>22.0億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>特記事項</td> <td colspan="7">消費税率の増加に伴う診療報酬の補填不足(約7.5億円)及び退職給付引当金の計算方法変更(約13.6億円)の影響という外的要因を除くと、繰越欠損金の額は約0.9億円となり、平成23年度よりも大幅に減少している。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.3億円	22.7億円	22.0億円		特記事項	消費税率の増加に伴う診療報酬の補填不足(約7.5億円)及び退職給付引当金の計算方法変更(約13.6億円)の影響という外的要因を除くと、繰越欠損金の額は約0.9億円となり、平成23年度よりも大幅に減少している。							63 診療収入等収入確保のための取り組みの検討・実施							<p>○プロジェクトによる取組</p> <p>課題別に立ち上げたプロジェクトで、年度ごとの目標を設定し、各会議で結果を検証することにより診療報酬増に向けた取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日平均入院患者数：㊸754→㊸849</li> <li>・平均在院日数：㊸14.10→㊸12.42</li> <li>・手術件数：㊸7,214→㊸8,879</li> <li>・入院収入：㊸18,927百万円→㊸24,212百万円</li> <li>・外来収入：㊸12,034百万円→㊸17,677百万円</li> </ul> <p>○診療報酬改定対応及び診療報酬請求適正化等</p> <p>院内体制の変化や診療実績などを踏まえ随時基本診療料等の届出を行うとともに、未届けの項目についても随時届出の可否について検証を実施し、届出可能なものについては届出を行った。また、保険担当医長会議にて、減点対策等を周知徹底するとともに、保険診療セミナーを実施するなど、診療報酬請求の一層の適正化に努め、積極的な再審査請求等必要な対応も行った。</p> <p>○債権管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期督促(翌々月)、連帯保証人への督促に加えて、平成28年1月からは診療当日の医療費未払い患者に対する翌日電話督促を開始した。また、以上のような督促にも応じない場合については、弁護士法人への回収委託や法的措置も実施した。</li> <li>・医療費支払い方法の多様化を図るため、平成30年4月から医療費あと払いサービスを導入した。また、デビットカード決済についても平成31年4月からサービスを開始する。</li> </ul> <p>【医療費個人未収金額の推移】</p> <table> <tr> <td>平成25年度期首残</td> <td>277,280千円</td> </tr> <tr> <td>平成30年度末残高</td> <td>210,670千円</td> </tr> <tr> <td>増減額</td> <td>△ 66,610千円 (△24.0%)</td> </tr> </table>		平成25年度期首残	277,280千円	平成30年度末残高	210,670千円	増減額	△ 66,610千円 (△24.0%)	経企 医サ 医相
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																												
繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円																																											
	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.3億円	22.7億円	22.0億円																																											
	特記事項	消費税率の増加に伴う診療報酬の補填不足(約7.5億円)及び退職給付引当金の計算方法変更(約13.6億円)の影響という外的要因を除くと、繰越欠損金の額は約0.9億円となり、平成23年度よりも大幅に減少している。																																																	
平成25年度期首残	277,280千円																																																		
平成30年度末残高	210,670千円																																																		
増減額	△ 66,610千円 (△24.0%)																																																		
		64 医薬・診療材料費の抑制と適正な人件費比率の確保							<p>・医薬材料費抑制のため、H27年度から院長・医薬材料対策プロジェクト担当教授等出席の価格交渉会議に業者を呼び出し交渉を行った。</p> <p>・値引率が低い高額薬剤の購入額がH25年度比約27億円増加し、H30年度は約56億円に達したことや、手術件数が同比1,665件増加したことにより、H30年度はH25年度比3.1%医薬材料比率が増加した。</p> <p>【医薬材料比率】H25：43.4%、H26：44.6%、H27：46.3% H28：45.5%、H29：45.2%、H30：46.5%</p> <p>しかし、前記交渉等によりH30年度は70大学病院が参加している医薬材料の値引率ベンチマークで当院は医薬材料共に3位であった。</p> <p>【ベンチマーク順位】</p> <table> <tr> <td></td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> </tr> <tr> <td>医薬品費</td> <td>3位</td> <td>4位</td> <td>2位</td> <td>2位</td> <td>3位</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>19位</td> <td>3位</td> <td>4位</td> <td>3位</td> <td>3位</td> </tr> </table> <p>・平成29年度に策定した目標人件費比率を各所属へ周知し、検討を図った。</p>			H26	H27	H28	H29	H30	医薬品費	3位	4位	2位	2位	3位	診療材料費	19位	3位	4位	3位	3位	病管 人財 企																						
	H26	H27	H28	H29	H30																																														
医薬品費	3位	4位	2位	2位	3位																																														
診療材料費	19位	3位	4位	3位	3位																																														

中期目標・中期計画	第2期中期目標期間(平成25～30年度) 取組内容	自己評価(第2期中期計画総括)		事務 所属
		第2期中期目標期間(平成25～30年度)の実績及び自己評価		
	総括	各プロジェクトの実施等により、病院収入が第2期開始当初に比して約111.9億円増加(H25:309.1億円→H30:421.0億円)したが、消費税率の増加に伴う診療報酬の補填不足(約7.5億円)及び退職給付引当金の計算方法変更(約13.6億円)などに伴う経費の増加により、第2期を通じた収支が赤字となり、繰越欠損金の解消には至らなかった。なお、平成24年度から平成29年度にかけての医業収益の伸び率は、他の公立医科大学の平均が17.2%であるのに対し、奈良医大においては31.3%となり、平成30年度には39.8%となる。また、上記外的要因を除いた場合の繰越欠損金の額は約0.9億円となり、平成23年度よりも大幅に減少している。	自己 評価 B	財企